

平成20年度遺伝子組換え作物等に関する意識調査委託事業のうち

コミュニケーション事業

実 績 報 告 書

平成21年3月

(社)農林水産先端技術産業振興センター

はじめに

本事業は、平成20年度の農林水産省委託事業として、社団法人農林水産先端技術産業振興センター（略称：STAFF）が受託し、実施したものです。

本事業の趣旨は、「遺伝子組換え作物等の研究開発の推進に資するため、農林水産省で実施している農林水産分野における遺伝子組換え農作物等バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーション活動の支援及び強化を目的として、外部専門家による検討及び取組を実施し、遺伝子組換え技術等に関する国民の正しい理解の促進及び不安の解消を図る。」とされております。

具体的には、まず、遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーションの進め方に関し、有識者の助言を得るため「コミュニケーション推進会議」を開催するとともに、各方面からの意見・提言等を取りまとめて、「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」（案）として報告しました。

双方向コミュニケーション活動の実施に関しては、不特定対象の百名以上規模の参加のもと、①行政等からの情報提供、②遺伝子組換え技術に造詣の深い著名人を核とした各分野代表によるパネルディスカッションの実施を内容とする「大規模コミュニケーション」を2回開催しました。

また、数十名程度の消費者等の出席のもと、①行政等からの情報提供、②コーディネーターの司会による出席者全員の質問・意見の抽出と、③DNA抽出実験を内容とする「小規模コミュニケーション」を11回開催しました。

そして、遺伝子組換えに関する各種イベント等を主催する団体、学校等へ講師を派遣する出前講義や出前実験等を実施する「連携コミュニケーション」を20回開催しました。

これらのコミュニケーションにおける参加者の理解度、意向を知るためにアンケート調査を実施し、取りまとめと分析を行い報告するとともに、「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」（案）作成にも活用しました。

さらに、遺伝子組換え技術に関するパンフレット（「遺伝子組換え農作物入門プログラム」、「遺伝子組換え農作物を知るために ステップアップ編」）、「バイテク小事典」の提供、説明資材等の提供を行いました。

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」では、大幅な改訂を行い、遺伝子組換え技術に関する新着情報、Q&A等に関する情報を提供するとともに、これらをメールマガジン「バイテクメールニュース」で定期的に発信しました。また、最新の情報を収集・整理し、パンフレット類・小事典の内容を改訂・増補しました。さらに、小中高校向けに、新しいリーフレット作成すべく

検討しました。

本報告書は、平成20年度におけるこれらの活動の実績をとりまとめるとともに、整理、分析・考察を加えたものです。一連の事業活動及びこの報告書が、今後のわが国における遺伝子組換え作物等の研究開発の戦略的な取組と国民的理解の促進に寄与することを、切に期待するところであります。

最後になりましたが、本事業の実施に当たり、ご助言・ご指導を賜りました「コミュニケーション推進会議」の委員、専門委員の皆様方をはじめ、ご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

また、お世話なりましたコーディネーター、パネリストの皆様方をはじめ、各地域でのコミュニケーションの実施にご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成21年3月

社団法人 農林水産先端技術産業振興センター (STAFF)

理事長 岩元睦夫

目 次

事業概要	1
I コミュニケーション推進会議の開催	2
1. コミュニケーション推進会議の設置	2
2. コミュニケーション推進会議の開催	5
1) 第1回コミュニケーション推進会議 (第1回方針検討部会、第1回活動推進部会併催)	5
2) 第2回方針検討部会	7
3) 第2回活動推進部会	9
4) 第3回方針検討部会	15
5) 第3回活動推進部会	18
6) 第2回コミュニケーション推進会議	20
II コミュニケーションの進め方について	24
1. 基本的な考え方	24
2. 昨年度からの主な変更点	24
3. 平成20年において計画している取組内容	25
III 事業の実施結果	27
1. コミュニケーションの運営	27
1) 大規模コミュニケーションの運営 (1) 第1回 (岩手県盛岡市: ホテル東日本盛岡)	27
(2) 第2回 (福岡市中央区: アクロス福岡)	31
2) 小規模コミュニケーション会の運営	35
(1) 第1回 (神奈川県葉山町)	36
(2) 第2回 (佐賀県佐賀市)	38
(3) 第3回 (神奈川県横須賀市)	39
(4) 第4回 (宮城県栗原市)	41
(5) 第5回 (横浜市港北区)	43
(6) 第6回 (三重県桑名市)	45
(7) 第7回 (横浜市金沢区)	47
(8) 第8回 (山形県尾花沢市)	49
(9) 第9回 (名古屋市中区)	51
(10) 第10回 (大分県大分市)	53

(11) 第11回 (千葉県柏市)	5 5
2. 連携コミュニケーションの実施	5 7
1) 募集、採用	5 7
2) 実施結果	5 8
(1) 千葉農政事務所 (千葉市中央区)	5 9
(2) 神戸動植物環境専門学校 (神戸市中央区)	6 0
(3) 広島大学大学院教育学研究科 (広島県東広島市)	6 1
(4) 熊本県立鹿本農業高等学校 (熊本県山鹿市)	6 2
(5) 兵庫県淡路生活科学センター (兵庫県淡路市)	6 3
(6) 高山市若いミセス生活学校 (岐阜県高山市)	6 4
(7) コープかながわ (横浜市港北区)	6 5
(8) 東海大学付属望洋高等学校 (千葉県市原市)	6 6
(9) 熊本市消費者センター (熊本県熊本市)	6 7
(10) 松本消費生活センター (長野県松本市)	6 8
(11) 野田市立第二中学校 (千葉県野田市)	6 9
(12) 宮城県第二女子高等学校 (仙台市太白区)	7 0
(13) 千葉県立長生高等学校 (千葉県茂原市)	7 1
(14) 千葉県立葉園台高等学校 (千葉県船橋市)	7 2
(15) 小田原食生活研究会 (神奈川県小田原市)	7 3
(16) (独)農林水産消費安全技術センター横浜事務所 (山梨県甲府市)	7 4
(17) 柏市立風早中学校 (千葉県柏市)	7 5
(18) 熊本県立南陵高等学校 (熊本県あさぎり町)	7 6
(19) 食の安全・安心行動 提起・実行グループ UZUMAKI (川崎市高津区)	7 7
(20) 土浦保健所 (茨城県阿見町)	7 8
3. 遺伝子組換え技術に関する説明資材等の提供	7 9
4. アンケート調査結果のまとめ	8 2
1) コミュニケーション及び配布資料のアンケート調査結果	8 2
(1) アンケート調査結果概要	8 2
(2) 参加者からの意見	8 4
2) 大規模及び小規模コミュニケーションにおけるアンケート調査	8 6
(1) アンケート調査票	8 6

(2) アンケート調査結果	88
(3) 小規模コミュニケーションにおける参加者からの 主要な質問・意見	96
3) 連携コミュニケーションにおけるアンケート調査	101
(1) アンケート調査票	101
(2) 各会場毎のアンケート調査結果	103
(3) 属性別に見たアンケート調査結果	110
4) 配布資料のアンケート調査	113
(1) 配布資料のアンケート調査票	113
(2) 配布資料のアンケート調査結果	115
IV ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」の提供	..	118
V メールマガジン「バイテクハウス Mail News」の発行	131
VI 内外情報の収集・整理と遺伝子組換え技術等に関する パンフレットの改訂	132
VII 新規小中高生用リーフレット案の検討	134
まとめ	140
参考資料	146

事業概要

本事業は、平成20年度の農林水産省委託事業として、社団法人農林水産先端技術産業振興センター（略称：STAFF）が受託し、実施した。

本事業の趣旨は、「遺伝子組換え作物等の研究開発の推進に資するため、農林水産省で実施している農林水産分野における遺伝子組換え農作物等バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーション活動の支援及び強化を目的として、外部専門家による検討及び取組を実施し、遺伝子組換え技術等に関する国民の正しい理解の促進及び不安の解消を図る。」とされている。

今年度は、「コミュニケーション推進会議」を2回、「方針検討部会」、「活動推進部会」を各3回開催し今年度のコミュニケーション活動の方針、活動内容を検討し推進するとともに、次年度以降の活動へ向けて「遺伝子組換え作物に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」を検討し、取りまとめた。

「大規模コミュニケーション」を2回、「小規模コミュニケーション」を11回、「連携コミュニケーション」を20回開催したほか、パンフレット類、「バイテク小事典」、説明資材等の提供等、遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関するコミュニケーションの取組みを推進した。

コミュニケーションの際には、参加者の理解度、意向を知るためにアンケート調査を実施し、取りまとめと分析を行うとともに、「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」（案）作成に活用した。

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」については、遺伝子組換え技術に関する新着情報、Q&A等に関する情報を提供するとともに、「コミュニケーション推進会議」の助言を受けて、活用しやすさを中心に10月に大幅改訂し、運用した。

メールマガジン「バイテクメールニュース」を月3回、定期的に発行した。

また、最新の関連情報を収集・整理するとともに「コミュニケーション推進会議」の助言を受けながら、昨年まで発行してきたパンフレット類「遺伝子組換え農作物入門プログラム」及び「遺伝子組換え農作物を知るためにステップアップ編」、「知ってトクする食べものまめ知識」並びに「バイテク小事典」の内容を改訂・増補し、配付した。

さらに、新しく小学校高学年から、中学生、高校生等を中心とした対象に、遺伝子組換え農作物に関する各種の情報を分かり易く解説し、学校の理科で活用してもらうとともに、家庭科、保健体育等の授業でも利用でき、また家庭でも利活用できる内容としたリーフレットを作成すべく検討した。

I コミュニケーション推進会議の開催

有識者等の委員で構成する「コミュニケーション推進会議」、その分科会である「方針検討部会」、「活動推進部会」を開催し、委員からの助言等を得ながら、遺伝子組換え農作物を中心とした、遺伝子組換え技術、バイオテクノロジーに関する国民との双方向コミュニケーションの推進を図ることとし、当センターは開催事務局として推進会議の運営を担当した。

1. コミュニケーション推進会議の設置

(第1回推進会議資料「コミュニケーション推進会議開催要領」より)

1) 趣旨

本年1月に公表した「遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会最終取りまとめ」において、組換え技術でなければ実現・達成できないものを対象に、政策的重要性、実用価値の高いものを重視して研究開発を進め、最短で5年後を目途に国内における実用化を目指すと示したところである。

しかしながら、国民の多くが、遺伝子組換え技術の内容、安全性を担保するための法制度の存在等の遺伝子組換えに関する実情を十分に知らず、遺伝子組換え農作物を原料とする食品を食べることや、栽培による生態系への影響、非組換え作物等との交雑に対して、不安を抱いている実態が、昨年実施した「遺伝子組換え農作物等に関する意識調査」により明らかになったところである。

これらを踏まえ、外部有識者等で構成する「コミュニケーション推進会議」(以下「会議」という。)として、平成24年度までに遺伝子組換え農作物等が可能な限り多数の国民に受け入れられるようにコミュニケーション活動の方針及びその推進方法等に関する提案を行い、遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの強化推進を図ることとする。

2) 検討事項

- (1) 平成20年度～24年度までのコミュニケーション活動の方針作成
- (2) 上記(1)を踏まえた具体的な推進方法等の検討

3) 構成

(1) 会議の構成

ア 会議は、別記1に掲げる有識者を委員として構成する。
イ 会議には、委員の互選による座長(座長代理)を置き、議事運営を行うこととする。

(2) 部会の構成

ア コミュニケーション推進会議の下に「方針検討部会」及び「活動推進部会」を置き、以下の検討を進めることとする。

(ア) 方針検討部会

これまで取り組んできた各種コミュニケーション活動等における成果と課題等の結果を踏まえ、以下の観点から方針を作成する。

①目標の設定

〔例)：昨年実施した「遺伝子組換え農作物等に関する意識調査」において、遺伝子組換え農作物等を受け入れてもよい（国内で栽培してもよい）と回答したモニターの割合40%を24年度には〇〇〇%〕

②対象の設定

〔目標達成のため、毎年度、誰を主な対象として活動すべきかを設定〕

③推進方法等の検討

〔目標達成のために、毎年度、どのような方法で活動を推進すべきかを記載〕

(イ) 活動推進部会

方針検討部会からの提案を踏まえ、以下の具体的な推進方法等の検討を行う。

①コミュニケーション会合の在り方の検討

（大規模、小規模、連携コミュニケーションの進め方等）

②推進のための具体的ツールの検討

〔各種コミュニケーション会合で使用する資料等、チラシ・パンフレット、ホームページ、メールマガジン、その他情報等〕

③意識調査の検討

（i）これまで実施してこなかったステイクホルダーを対象とした意識調査

（ii）各種コミュニケーション活動の成果や課題等を定量的に把握し、目標達成状況を検証するための意識調査

イ 部会には、座長の指名により選出された部会長（部会長代理）を置き、議事運営を行うこととする。

ウ なお、活動推進部会には、検討事案に即して、別記2に掲げる海外情報や遺伝子組換え技術に関する専門的知見、国内利用の現状等に精通した専門委員を加え、検討を進めることとする。

4) 運営

- (1) 会議の事務局は、社団法人農林水産先端技術産業振興センターが担当する。
- (2) 会議は、原則、非公開で2回開催する。
- (3) 部会はそれぞれ、原則、非公開で3回開催する。
- (4) 会議の議事内容は、事務局が議事概要として取りまとめ、ホームページ上で公表することとする。
- (5) 部会における議事内容は非公開とし、事務局が議事概要として取りまとめ、部会員及び農林水産技術会議事務局に提供する。

別記1 コミュニケーション推進会議委員名簿（五十音順、敬称略）

伊藤 潤子 生活協同組合コープこうべ参与（座長、方針検討部会）
吉川 肇子 慶應義塾大学商学部准教授（活動推進部会、部会長代理）
小島 正美 毎日新聞社東京本社生活家庭部編集委員
（座長代理、活動推進部会）
田部井 豊 独立行政法人農業生物資源研究所遺伝子組換え研究推進室長
（方針検討部会、部会長代理）
堀口 逸子 順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
（活動推進部会、部会長）
三石 誠司 宮城大学食産業学部フードビジネス学科教授
（方針検討部会、部会長）

別記2 活動推進部会専門委員名簿（五十音順、敬称略）

緒明 俊 油糧輸出入協議会参事事務局長
立川 雅司 茨城大学農学部准教授
田部井 豊 独立行政法人農業生物資源研究所遺伝子組換え研究推進室長
橋本 昭栄 特定非営利活動法人国際生命科学研究機構
バイオテクノロジー部会長
林 健一 OECDバイテク規制的監督調和作業グループ副議長

2. コミュニケーション推進会議の開催

1) 第1回コミュニケーション推進会議の開催 (第1回方針検討部会、第1回活動推進部会併催)

- 1 日 時：平成20年5月22日（木）13：30～17：00
- 2 場 所：三会堂ビル2階B会議室
- 3 参加者
委 員：伊藤委員、吉川委員、小島委員、田部井委員、堀口委員、三石委員
事務局：農林水産省農林水産技術会議事務局：早川技術安全課長、他2名
(社)農林水産先端技術産業振興センター：岩元理事長、他5名
- 4 内 容：
あいさつ 農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課長
社団法人農林水産先端技術産業振興センター理事長
座長選出
議事
 - 1 コミュニケーション推進会議の開催について
 - 2 平成19年度のコミュニケーション活動の概要について
 - (1) コミュニケーション活動の概要について
 - (2) 情報提供活動の概要について
 - (3) 意識調査結果について
 - 3 平成20年度のコミュニケーション活動の進め方について
 - 4 第1回方針検討部会及び活動推進部会について
- 配付資料
 - 1 コミュニケーション推進会議開催要領
 - 2 平成19年度におけるコミュニケーション活動の成果と課題
 - 3 「方針討部会」及び「活動推進部会」における主な検討事項（案）
 - 4 平成20年度のコミュニケーション活動の進め方について
 - 5 バイテクコミュニケーション活動推進事業実施報告（概要）
 - 6 バイテクコミュニケーション基盤事業実施報告（概要）
 - 7 遺伝子組換え農作物等に関する意識調査結果（調査モニター）
 - 8 遺伝子組換え農作物等に関する意識調査結果（イベント参加者）
 - 9 遺伝子組換え農作物等に関する意識調査結果の簡易解析の概要
- 参考資料
 - 1 遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究
 - 2 パンフレット「知ってトクする！食べものまめ知識」

- 3 パンフレット「Do you know?－遺伝子組換え農作物入門プログラム」
- 4 パンフレット「遺伝子組換え農作物を知るために－ステップアップ編」
- 5 バイテク小事典
- 6 「連携コミュニケーション」講演用資料（案）

5 議事概要

- ・座長として伊藤委員を、座長代理として小島委員を選出した。座長の指名により、方針検討部会長に三石委員、活動推進部会長に堀口委員を選出した。
- ・事務局より配付資料に沿って、「コミュニケーション推進会議の開催について」、「平成19年度のコミュニケーション活動の概要について」、「平成20年度のコミュニケーション活動の進め方について」、「第1回方針検討部会及び活動推進部会について」等について説明がなされた後、委員より、以下のような質問、意見等が出された。
- ・第1回コミュニケーション推進会議終了後、第1回の方針検討部会、活動推進部会も開催され、今後の予定等について検討した。

[委員からの発言趣旨]

(1) 国民受容の目標値の設定について

- ・一般的に、受容度（シェア）40%は、例えば経営学で用いられている指標のひとつであるランチエスター戦略に即して考えると、地位が圧倒的に有利となり、立場が安定すると言われる数値であり、十分な受容度と判断される。要は反対派がいかに納得するような選択肢を用意した形でソフトランディングできるかが鍵である。
- ・国民意識の変化を測る指標としては、受容度ではなく、「わからない」、「どちらともいえない」と回答した者の動向を追う必要があるのではないか。
- ・国民受容の目標としては、「今後5年間で国民の過半数の受容を確保すること。」が妥当ではないか。

(2) コミュニケーションのターゲット（対象）

- ・内閣府の意識調査の結果のとおり、自治体の事務系職員、技術家庭科の教員、教育委員会との連携を強化するべきである。
- ・スーパーインセンスハイスクールとの連携強化を強化するべきである。
- ・オープンキャンパス等の機会を有効に活用して、高校生や大学生へのコミュニケーション活動を強化してはどうか。
- ・海外のGMのコミュニケーションを担当する者との交流を強化し、海外の取組事例を参考にしてはどうか。

(3) 今後の活動強化に向けた提言

- ・コミュニケーションにおける今後のテーマとしては、表示は避けて通れない。色々と問題が起こるかもしれないが、早く表示をテーマに話し合うべきである。
- ・GM等の報道について、すぐに事実に基づきコメントを行い、真偽を伝えるメディアドクター的なホームページをオーソライズされている研究所等で運営してはどうか。
- ・国立がんセンターで開催するメディアセミナーのように、記者を対象に開催し、GMについてきっちりと教え、質問に応えるカリキュラムを作ってはどうか。
- ・菌を題材としたマンガ、「もやしもん」のようにGMをマンガ化し、わかりやすい情報提供に努めてはどうか。
- ・永年、消費者の選択の権利の保障を求めて運動してきたが、GM食品に関しては、一部企業に寡占化されることにより、消費者が選択できなくなり、「選択権の保障」ではなく、表示等に代表される「知る権利」となってしまっている。消費者に今一度、選択の権利の保障の意味を知らせる内容を盛り込んではどうか。
- ・GM栽培が国内で行われないままでは、国民はGMのメリットを実感できない。このため、商業栽培に向けた候補地の選定等インフラ整備を進める中、GM農作物による大規模経営が可能なGM特区の創出等を政策的に打ち出す必要があるのではないか。
- ・短時間でコンパクトに解説できるDVDやパンフレット等を提供すべき。今後、生物研でDVDを作成する予定である。
- ・遺伝子組換え農作物を研究する者が果たす役割として、自らが携わる研究内容について、国民に広く情報提供する必要がある。また、研究者が実施したコミュニケーションの実績を適正に評価すべきである。
- ・圃場が周辺にある農村地域でのコミュニケーションとそれらがない都市的地域では、コミュニケーションの内容に違いがあるても仕方がない。各地域の特色に応じた情報提供の工夫が必要ではないか。
- ・地方自治体の条例は、国による共存ルールができれば、不要となり、見直しが行われると思うが、振り上げたこぶしの落としどころを提供する意味合いで、コミュニケーションを行ってはどうか。

2) 第2回方針検討部会の開催

- 1 日 時：平成20年7月3日（木）14:00～17:00
- 2 場 所：三会堂ビル2階B会議室

3 参加者

委 員：三石委員、田部井委員、伊藤委員

事務局：農水省農林水産技術会議事務局技術安全課 櫻谷課長補佐 他2名

(社)農林水産先端技術産業振興センター 5名

4 内容

あいさつ

議事

1 GMコミュニケーション方針の検討

(1)今後5年間のコミュニケーション方針について

(2)平成20年度GMコミュニケーションの進め方に関する提言取りまとめ

2 その他

配付資料

1 第1回コミュニケーション推進会議議事概要

2 コミュニケーション活動の強化推進に向け重点目標（案）

3 遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動の今後の進め方（案）

4 遺伝子組換え農作物等に関する意識調査の今後の進め方（案）

5 平成20年度コミュニケーション活動実施スケジュール

参考資料

1 都道府県における遺伝子組換え作物に関するガイドライン等の策定の動きについて

2 地域生協一覧

3 主要消費者団体一覧

4 新聞社・テレビ局一覧

5 スーパーサイエンスハイスクール一覧

6 主要加工業者・流通業者一覧

7 主要生産者団体一覧

5 議事概要

・櫻谷技術安全課課長補佐の挨拶後、三石部会長から田部井委員が部会長代理に指名された。

〔委員からの発言趣旨〕

(1) 今後5年のコミュニケーション方針について

・情報提供の行い方に工夫をこらし、アンケート調査をきめ細かに行うなら、5年後に国民の過半数の受容を確保することは可能と考える。

・情報提供を行う際に、GMのことだけではなく、最近大きな問題となっ

ている、世界における食料生産とわが国の現状、地球温暖化と食料問題等を含め説明していくことが重要と思う。

- ・GMのメリットを参加者に考えてもらうといった方法も良いのではないか。また、反対者とも十分討論し、理解を求める必要があるだろう。
- ・コミュニケーションの実施には現役研究者だけでなく、OBの活用を考えても良いのではないか。
- ・参加者については対象者を分けて行うことも重要と考える。
- ・2年目と3年目の調査対象の順番を逆にしてはどうか。

(2) 平成20年度コミュニケーション活動における重点目標

- ・HP：GMに関するクイズ形式の質問を作成し、間違えた回答となつたときには、何が間違っているのか明確に記述しておくのも良いのでは。
- ・GMを推進してくれている方の中に、過剰な説明をして消費者には逆効果になってしまっている場合があるので、対応を考える必要があるのでないか。
- ・GMは安全性評価を受け、実用化が許可されたものであること知つてもらう。このことは、知つているようで知らない人が多い。
- ・地方で行う時に、地方紙を活用し、実施前に活動のPRを行う。また、地方で行う際には、講師として地元の先生に登場願うと良いのではないか。
- ・教育現場における先生（将来教育現場に立つ学生を含め）、管理栄養士、農政局の担当者等にもGMに対する正しい理解を求めるための活動が必要ではないか。
- ・対象者ごとに違ったパンフレットを作成したらよいのではないか。
- ・低学年用として作成したパンフレットが、1段上の所で使っても違和感なく使われているので、低学年向けのパンフレット作成を考えている。

3) 第2回活動推進部会の開催

1 日 時：平成20年7月17日（木）14:00～18:00

2 場 所：三会堂ビル2階A会議室

3 参加者

部会員：堀口委員、小島委員

専門委員：緒明専門委員、橋本専門委員、林専門委員

事務局：農林水産省農林水産技術会議事務局 早川技術安全課長 他1名

（社）農林水産先端技術産業振興センター 5名

オブザーバー：7名

4 内容

開会あいさつ

議事

- 1 今後5年間のコミュニケーション活動の進め方について
- 2 平成20年度コミュニケーション活動の進め方について
 - (1) 大規模コミュニケーションについて
 - (2) 小規模コミュニケーションについて
 - (3) 連携コミュニケーションについて
 - (4) HPバイテクコミュニケーションハウスについて
 - (5) パンフレット等情報提供資料について
 - (6) 意識調査について
- 3 その他

配付資料

1. 第2回方針検討部会議事概要
2. コミュニケーション活動における重点目標
3. 遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動の今後の進め方
4. 遺伝子組換え農作物等に関する意識調査の今後の進め方
5. 平成20年度コミュニケーション活動実施スケジュール
6. 大規模コミュニケーションの進め方について
7. 小規模コミュニケーションの進め方について
8. 連携コミュニケーションの進め方について
9. 農林水産省からの情報提供資料
10. 出前講座における情報提供資料(連携コミュニケーション用)
11. HPアクセスログ解析の結果(4月～6月)
12. バイテクコミュニケーションハウスホームページ改定案
13. 平成19年度パンフレット等情報提供資料の配布先一覧
14. 平成20年度パンフレット等情報提供資料の配布先一覧(案)
15. パンフレット等提供先を対象としたアンケート調査(案)
16. コミュニケーション参加者を対象としたアンケート調査(案)
17. 平成19年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査報告書
18. 平成20年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査について
19. 有意選出法について
20. 調査ステップに関する試案
21. 調査項目(案)
22. 実施スケジュール(調査ステップA案)

参考資料

- ・パンフレット [知ってトクする！ 食べものまめ知識]

- ・パンフレット 「「遺伝子組換え農作物」入門プログラム Do you know?」
- ・パンフレット 「「遺伝子組換え農作物」を知るために Step up】
- ・バイテク小事典

5 議事概要

- ・早川課長からの開会挨拶の後、堀口部会長から部会長代理に吉川委員が指名され、委員により承認された。
- ・堀口部会長による議事進行のもと、農水省担当者から議題である第2回方針検討部会で決定した(1)今後5年間のコミュニケーション活動の進め方について、(2)平成20年度コミュニケーション活動の進め方について、ア 大規模コミュニケーションについて、イ 小規模コミュニケーションについて、STAFF担当者から、ウ 連携コミュニケーションについて、エ バイテクコミュニケーションハウスについて、及びオ パンフレット類情報提供資料についての説明がなされ、委員から意見が出された。
- ・その後、アンケート担当者から意識調査についての説明がなされ、委員から意識調査に対する意見が出された。
- ・各委員からの意見は、コミュニケーション活動に反映させていき、さらに追加意見などについては、メールなどで出すこととし閉会した。

〔委員からの発言趣旨〕

(1) 今後5年間のコミュニケーション活動の進め方について

①国民の受容目標について（今後5年間で国民の過半数の受容を確保すること。）

- ・「今後5年間で国民の過半数の受容を確保する」という文言は、言わば気持ちを目標にすることで極めて曖昧。まずは商業栽培を国民の過半数が受容してくれることが大切であり、農業者が栽培するかどうかは、国民が利用するかどうか次第ということになる。何を受容するのかをはっきりさせ、商業栽培と明確に記したらどうか。そして、国民に対しては、これをコミュニケーション活動の重点目標として位置づけて考えたらよいのではないか。
- ・農業者の過半数が、気持ちの上ではGMを受容しても良いということで、5年後には、GMの栽培が始まっていることが重要なのではないか。

②コミュニケーション活動の重点ターゲットについて

- ・行政に携わる公務員、特に出先機関の公務員でGMについてきちんと言える人が殆どいないことに問題がある。地方に出てみて、一番分かっていない人は公務員と教員の感がある。この人達が指導したり、教えたりする立場にある。ここからを手付けなければならない。

- ・我が国は6割を輸入に依存し、直接・間接に世界で一番GMを食べております、今やGMなくして、わが国の食生活は成り立たない現実があり、その一方で栽培はダメと言う異常な姿を呈していることを正しく理解してもらうことが必要。
- ・一般大衆に無作為に聞いてもまとまらない。専門家にフォーカスして意見をまとめることが大事。食糧問題を含め、各方面の専門家からGMの必要性についての意見を集め、それらをターゲットである地方自治体や消費者に伝えていくことが重要。そのためには国の出先機関や自治体の職員がGMは安全であるということをきちんと認識してもらう必要がある。
さらにいえば、現在、EUがGMを受け入れざるをえなくなった現状とわが国の現状も同じような状況になっていることを知らせる必要がある。多くの人はこのことを知っていない。
- ・GM食品の受容に関して、農業従事者が栽培したくても、消費者が最終製品を買ってくれないことにはどうしようもないわけで、消費者に対するコミュニケーション活動が極めて大事。
- ・今年11月22日～24日に開催される「サイエンスアゴラ」に出展して、GMの啓蒙活動を行うと共に、アンケート調査を行うのも良いのではないか。また、ここにはサイエンスコミュニケーション養成講座もある。
- ・養成講座は、3年前まで行っていたが、意識調査事業に切替えられた際、調査事業に馴染まないということで行わなくなった経緯がある。
- ・アンケート調査を含めて行うということで出展する方法はどうか。
- ・その提案に同意見。教育関係者やメディアも集まるので、GMに対する理解を深めて貰うのによい機会ではないか。
- ・事務局側で、出展するかどうかについて検討させていただく。

(2) ホームページの改訂について

① 改訂に当たっての意見

- ・ドイツのGMO COMPASSのHPは大変見やすく素晴らしい。また、モンサンクトのHPも情報が豊富なので、これらを参考に作成したらよい。
- ・酵素も殆どがGMで作られていることから、これらの情報も、添加物ということでHPに掲載してはどうか。
- ・委託事業で行っていることは何処かに明記するする必要があると思うが、その位置などについては利用者から意見を聞いたことがあるか？
- ・その点について特に聞いてはいないが、HPとしては良くできているという話は聞いている。明記するに適当な場所について工夫する。
- ・HPの改訂は、プラスαを狙って行うのか？
- ・まずは①現在の利用者を減らさないこと。次に利用者を増やすべく②若

者や主婦が見易くすると共に、③ホットな情報、④質の高い情報を提供していきたい。その意味ではプラスアルファを狙っている。

- ・HPの改定案としてAからEまであるが、お勧めはどれか？D案もしくはE案。
- ・E案がよいと思う。それから、HPに新聞記事に対する解説を入れたらよいのではないか。
- ・新聞記事に対する解説は、STAFFとしては極めて難しいもの。もし行うとするなら、行政から行って頂けるようにお願いしたい。

② 安全性に関する情報提供についての意見

- ・食品安全委員会の安全性評価の個別の進捗状況についても、HP上で簡単に見られるようになるのか？
- ・食品安全委員会がホットニュースとして出してくれれば掲載したい。
- ・安全性評価が行われた食品一覧は見られるのか？
- ・各省庁のHP内で見ることができる。
- ・確かに各省庁のHPから見ることが出来るが、そこまでたどり着くのが容易ではないというのが実感。そこで、承認されている食品、飼料等について、一覧が直ぐ見られるようにしたら良いのではないか。
- ・HPを開いたときに、トップページに安全性という項目を設ける方向で考えて貰えないか。そして、この項目を開くと、承認されたGM農産物、飼料の一覧が見られるようにするとともに、安全性に関して公開されている情報を掲載するようにしたらどうか。
- ・HPのデザインについては、意見があればSTAFFに連絡することとし、意見がない場合は、STAFFに任せることにしたい。

③ パンフレット等情報提供資料について

- ・大学や企業に送付する場合、効果を上げるためにには、どの部門もしくは誰に送付するかが問題。
- ・家政学部などで栄養士養成を行っている学部の場合、公衆栄養学担当へ送付すると良い。
- ・コミュニケーション活動で用いるPower pointの資料につき、ご意見などあれば、メール等でご連絡頂きたい。

(3) 意識調査について

① 調査ステップに関する試案について

- ・意識調査については、資料20のB案で行いたい。

② 標本設計について

- ・有意選出法について卸・商社で、食品、飼料に分けているが、GMOは工業原材料として利用されているので、分類としてこれも入れたほうが良いと思うがどうか。

- ・大豆を例で言えば、飼料企業だけでなく、製油用と食用とがあり、対象企業も異なってくる。
- ・アンケート先については、いろいろ情報をとる必要がある。
- ・各業種の回収数を各100としているが、これでよいか？
- ・アンケート調査を受けた企業は、所属する協会に、回答すべきか聞いてくる。その場合、農水省委託事業と記されていれば回答するよう指示する。しかし、この場合、企業としての回答は模範解答となることが多いので、質問と回答の選択肢については十分検討し行って欲しい。
- ・食品企業は中小が多いことからアンケートを行っても回答が得にくいのではないかと危惧していた。「有意選出法」で行うということなのでその心配は少ないのではないかと思っている。

③ 調査内容について

- ・企業は消費者が受け入れるかどうかが肝心。受け入れてくれるなら使うということではないか。
- ・今の表示制度での実情は、遺伝子組換え不使用という任意表示のみが乱用されており、実際には使っているものは表示義務がない。表示にも再検討が必要ではないか。
- ・消費者は表示項目の何処に注目するか。一方、企業にとって表示項目の何処が問題かをアンケート調査すべき。
- ・表示について、GM食品かどうかより、価格や賞味期限が重要視されているというアンケート結果があるが、これをどう見たらよいか？
- ・アンケート結果からはそうなるだろうが、GM原料を使っていると表示されている食品がないことに起因していると考えるべき。
- ・アンケートでは、質問もさることながら回答の選択肢も重要。また、流通業者と製造業者とでも考え方方が異なる。
- ・企業の中には、“GMは使いません”と宣言したため、旗を下げられないという事情もあるやに聞いている。
- ・醤油では殆どGM原料が使われている。タンパク質が残っていないということでGM表示がされていないことを消費者は判っていない。この点に関してもコミュニケーション活動ではっきりと伝えるべき。
- ・“商業栽培をして良い。”“商業栽培をすることは良くない。”という質問を調査項目に入れて貰いたい。
- ・業態ごとに調査内容は違ってくるのではないかと言うことで検討する。
- ・現下の状況を考えると“何れは使わざるを得なくなると思っているか、否か？”という質問も必要ではないか。
- ・意識調査に関してさらに意見があれば、技術会議の方にメール等で連絡

されたい。

(4) 冊子について

- ・リーフレット「知ってトクする！ 食べものまめ知識」は小学生向けに作ったつもりであるが、実際には中・高生が使っている。低学年向きの冊子を作ることを考えている。

(5) 終わりに

- ・学校の先生の多くが“GMは心配”と回答しており、GMに対する意識が極めて低い状況にある。今後は地方の農政部局への教育を行うとともに、農政部局から地域の学校への啓蒙・啓発活動を行って貰うよう指導していきたい。

4) 第3回方針検討部会の開催

1 日 時：平成20年10月23日(木) 15：00～17：30

2 場 所：三会堂ビル2階B会議室

3 参加者

委 員：伊藤委員、田部井委員、三石委員

事務局：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

瀬川技術安全室長 他1名

(社)農林水産先端技術産業振興センター 4名

4 内容

あいさつ

議事

1 平成20年度GMコミュニケーションの進捗状況について

2 方針検討部会における今後の検討課題について

3 その他

配付資料

1 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの進捗について

2 平成20年度遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション実施スケジュール(10月23日現在)

3 平成20年度コミュニケーション活動における手法等の変更点(予定)

4 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションアンケート結果について(大規模、小規模、連携)

5 ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」について

6 中高生向けパンフレットについて

7 方針検討部会における今後の検討課題について

参考資料

- 1 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション開催概要（9月8日、盛岡会場）
- 2 第2回方針検討部会議事概要
- 3 第2回活動推進部会議事概要
- 4 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション配付予定資料（11月4日、福岡会場）
- 5 教科書における遺伝子組換えに関する記載事例
- 6 遺伝子組換えに関する既存のパンフレット

5 議事概要

- ・瀬川室長からの開会挨拶の後、三石部会長による議事進行のもと、農水省担当者より、議題である①平成20年度GMコミュニケーションの進捗について及び②方針検討部会における今後の検討課題について事務局（案）の説明がなされ、その後、各委員から意見、提言が出された。
- ・各委員からの提言内容は、今後、事務局（案）の修正に反映させ、メールを通じて再度各委員に事務局（案）を提示し、了承を得た上で、遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの進捗についてのまとめ方、平成21年度における遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション活動の具体的な事業内容及び学生向けパンフレットの作成として決定し、第3回活動推進部会に提案し、個別具体的な検討に入ることとし、閉会した。

〔委員からの発言趣旨〕

(1) 平成20年度GMコミュニケーションの進捗について

①各コミュニケーション活動におけるアンケート結果

- ・連携コミュニケーションで、アンケートの内容が始(千葉)と途中の淡路とでは違っているが、その後は統一した内容で行っているのか？。
- ・アンケートについていろいろと助言を受け、淡路以降は同じ内容で行っている。
- ・大規模コミュニケーションのディスカッション内容を見ると、昨年に比べ大分突っ込んだ討論になっているように見受けられるが、昨年と違う点は？
- ・パネラーのマスコミ関係者が消費者に質問を投げかける形で討論が行われたのが良かったようだ。
- ・アンケート結果で、配布資料や情報提供で「適切でない、あるいはあまり適切でない」と回答している人は、他の質問でも否定的な回答をしているようだ。

- ・遺伝子組換え農作物に対する理解で、「分からなくなった」と言う回答は、ある意味で大変正直だ。
- ・小規模あるいは連携コミュニケーションは、直接、参加者と話し合えるという点で、コミュニケーションがとりやすいので、説明も丁寧に行う必要がある。
- ・年齢層によって、反応が異なるようだ。
- ・確かにその通りで、パンフレットも年齢層にあった物を提供していく必要がある。

②ホームページ（HP）に関して

- ・HPを10月にリニューアルした。特に安全性についてどこに掲載されているのか分かりづらいという意見を踏まえ改善した。
- ・内閣府の中に安全委員会を入れているが、利用者のニーズを考えるなら、直接安全委員会という項目にしても良いのではないか。
- ・ユーザーがどのようにHPを利用したいかをメインにすべきだと思う。
- ・GM農作物の安全性に関して、環境への安全性がトップに来ているが、利用者の立場を考えるなら、食品としての安全性がトップに来るのではないか。

(2) 方針検討部会における今後の検討課題について

- ・パンフレット作成に当たって教科書との関係について
- ・教科書の遺伝子組換えに関する記述に関しては、対応を考える必要がある。教科書の内容は生徒への影響が極めて大きいので、場合によっては執筆者に説明することも考えてもよい。
- ・文科省に対して説明することを考えてもよい。
- ・農林水産省はパンフレットを作成し、行っていることを明確にすることが重要だ。
- ・大学の先生の中には、何が起こるか分からない、まだ歴史が浅いから急ぐこともない、といった考えが根底にあるようだ。
- ・アンケートの中に、農水省はGMOの栽培を進めたいと思っているのか分からないといった意見がある。
- ・表示について質問が多かった：農水省は変えられる立場にあるのに変えようとしない。そのため、無駄な説明をしているのではないか。特に不使用という表示についてどうするか考えるべきではないか。
- ・今の大規模、小規模コミュニケーションの手法では、続けられないのではないか。これからは、遺伝子組換え技術をどうやって説明し、理解してもらうか。そして、GMOを栽培したい人、したくない人の権利をお互いが守ることだと思う。

- ・次年度のことを考えた場合、今年の方法を踏まえ来年はどのように行い、さらに次の年のこととも考えながら、具体的に変えていかなければいけないのではないか。
- ・安全性、メリットという議論は終わりにし、全体の中でGMOを位置づけできればいいと思う。GMOの技術を、食糧問題、食料戦略という中に技術を位置づけて、食料を確保するためにどういう道があるのか、その中にGMOを位置づけていく必要がある。
- ・日本の農業政策に關係して、GMOと自給率・地産地消とは直接的に關係ないが、良く取り上げられることなので、自給率・地産地消についても話せる準備をしておく必要があると思う。
- ・3年目はもう少し具体的なことを行い、4年目以降に行うことについて1歩先に進むための動きをするということで提言に入れ込み、文章だけでなく具体的にコミュニケーションを含め、前向きに進め、予算が許せば大規模、小規模コミュニケーションを含め行っていく方針でどうか。

5) 第3回活動推進部会の開催

1 日 時：平成21年1月21日(水)9:30～12:00

2 場 所：三会堂ビル2階B会議室

3 参加者

委 員：堀口委員、吉川委員、小島委員

事務局：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

瀬川技術安全室長 他2名

(社)農林水産先端技術産業振興センター 5名

4 内容

あいさつ

議事

1 平成20年度GMコミュニケーションの実施結果について

2 平成20年度GMコミュニケーションの点検について

3 小中高生向けリーフレットについて

4 その他

配付資料

1 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの実施結果について

2 平成20年度コミュニケーション活動における手法等の変更点

3 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションアンケート結果について

4 ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」について

- 5 小中高生向けリーフレットについて
- 6 平成20年度GMコミュニケーションの点検について

参考資料

- 1 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション開催概要
(1-1 盛岡会場、1-2 福岡会場)
- 2 第2回活動推進部会議事概要
- 3 第3回方針検討部会議事概要
- 4 教科書における遺伝子組換えに関する記載事例
- 5 遺伝子組換えに関する既存のパンフレット

5 議事概要

- ・瀬川室長からの開催挨拶の後、堀口部会長による議事進行のもと、STAFF担当者から「平成20年度の遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの実施結果」について資料1～4に基づき報告し、次いで農水省担当者から平成20年度意識調査の中間取りまとめの概要について報告し、委員から意見が出された。続いて、瀬川室長及びSTAFF担当者が「小中高生向けリーフレット」について資料5に基づき説明した後、委員から意見が出された。
- ・委員からの意見を踏まえ、事務局で本年度の当該部会の活動内容を取りまとめ、第2回コミュニケーション推進会議に報告することとした。

[委員からの発言趣旨]

- (1) 平成20年度の遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの実施結果について
 - ① 遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションアンケート結果について
 - ・小規模コミュニケーションで出た質問の中で、まだ回答をしていない「その他の質問」について、早急に対応するように。
 - ・次年度のコミュニケーション活動の予定は？
 - ・大規模コミュニケーションについては今年度と同じように2回ほどを考えている。コミュニケーション活動については、可能であれば各都道府県で行えればと考えており、回数としては50回ほどを予定したい。
 - ・遺伝子組換え農作物に対して理解が低い北海道や北陸で行うことも考えたらよいと思う。
 - ・小規模コミュニケーションでの質問で、安全性と表示の問題が突出している。次年度、実施する際の情報提供に反映する必要があろう。
 - ② ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」について

- ・遺伝子組換えに関し、どこの研究所ではどのような研究を行っているのか探すのが極めて困難である。一覧にして掲載して貰いたい。
- ・一覧にはしていないが、バイテクコミュニケーションハウスのホットニュースに、誰がどのような研究成果を出しているかを情報として掲載しており、その範囲のものは検索できるようになっている。
- ・中央のデザインマーク内のタイトルに、GMがついているものとついていないものがあり、一瞬途惑うので統一した方がよい。遺伝子組換え(GM)農作物のページであることをさらに分かり易く工夫されたい。
- ・テレビや新聞などで、遺伝子組換え農作物に対する誤った情報があつた場合、それに対してどこがどう間違っているのか、そして正しい情報はこうだという内容を掲載してはどうか。
- ・その判断と解説を誰がどのように行うかが問題だが・・。
- ・農林水産省として意見をホームページに掲載しても良いのではないか。

③ 小中高校生向けリーフレットについて

- ・高校では生物は選択科目であり、全員が受ける授業は保健・体育で食の安全性を教える。高校生向けのリーフレットは、遺伝子組換え農作物・食品の安全性を記述した方がよい。
- ・リーフレットを小中高校生向けとしているが、他でも使えるように考えても良いと思う。一案として、初級、中級、上級編としたら良い。
- ・リーフレットの内容、学校での取扱いについては、総合科学技術会議を通して、文部科学省と話し合う予定でいる。
- ・農作物の遺伝子組換えと食品としての安全性について、リーフレットにきちんと明記すべきだ。
- ・「親の性質が子供に伝わる」、「ヒトの子はヒト」、「カエルの子はカエル」、「遺伝」という表現、言葉は使わない方がよい。

6) 第2回コミュニケーション推進会議の開催

1 日 時：平成21年2月13日（金）15：00～18：00

2 場 所：三会堂ビル2階S会議室

3 参加者：伊藤、田部井、堀口、三石 各委員、緒明、立川、林 各専門委員
事務局等：農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課

瀬川技術安全室長 他2名

(社)農林水産先端技術産業振興センター 岩元理事長 他5名

(株)インテージリサーチ 2名

4 内 容：

あいさつ 農林水産省農林水産技術会議技術政策課技術安全室長
(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長
議事

- 1 平成20年度のコミュニケーション活動結果について（活動推進部会）
 - (1) コミュニケーション活動について
 - (2) 意識調査について
- 2 「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」取りまとめについて（方針検討部会）
- 3 その他

配付資料

- 1 部会報告（方針検討部会、活動推進部会）
- 2 遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動結果の概要
- 3 遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションのアンケート結果の概要
- 4 遺伝子組換え農作物に関する意識調査について
- 5 第1回目調査結果(概数値)の概要
- 6 「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」取りまとめ（案）

参考資料

- 1 第1回コミュニケーション推進会議概要
- 2 コミュニケーション活動アンケート結果まとめ
- 3 第1回目調査票
- 4 第2回目調査票

5 議事概要

- ・伊藤座長の司会のもとで会議が進められた。
- ・担当者より議事次第に沿って配付資料を用い、始めに「活動推進部会報告」、平成20年度の「コミュニケーション活動結果について」、同じく「意識調査について」、第2の議題として「方針検討部会報告」、「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」取りまとめについて説明がなされ、その後、委員より以下のような質問、意見、提言、助言等がなされた。

[委員からの発言趣旨]

- (1) 平成20年度のコミュニケーション活動結果について
 - ・福岡での大規模コミュニケーションに、パネリストとして反対の方からも参加して議論して貰いたかったが、参加が得られなかつたのは残念であるが、成果としては十分得られている。

- ・連携コミュニケーションのアンケートで、遺伝子組換え農作物・食品を「安全」あるいは「多分安全」という回答は、事前で33%、事後では74%と急増しており、また、「安全かどうかわからない」という回答も、事前に比べ事後では半分に減り、情報をきちんと伝えることの重要性が結果に表れている。
- ・大規模に比べると、小規模あるいは連携コミュニケーションの方が情報をきめ細かに伝えやすい。

(2) 平成21年度のコミュニケーション活動について

- ・各コミュニケーションの回数は、今年度と同じ程度で良い。
- ・小規模あるいは連携コミュニケーションに、サイエンスコミュニケーターを活用するなら、回数はこなせるだろう。
- ・回数も大事かも知れないが、情報提供の内容をターゲットによって変える必要がある。
- ・DNA抽出実験は一般の方には良かった。
- ・教育機関へのコミュニケーションが少ないのでないのではないか。次年度は保健体育の先生、水産高校の先生、家庭科の先生など、遺伝子組換え、あるいは遺伝子組換え農産物・食品を扱うであろう教育現場の先生や管理栄養士・栄養士コースの学生などを対象にして行うようにしたらいのではないか。
- ・小規模あるいは連携コミュニケーションには、サイエンスコミュニケーターや地元の食品企業からも入ってもらうとよいのでは。
- ・プログを活用しコミュニケーション活動を行っていることを知って貰うと良い。

(3) 意識調査について

- ・マスコミの報道に対して、企業は冷静に対応していることが伺える。
- ・遺伝子組換え農産物は、食品だけでなく飼料としても大量に使われているので、飼料会社へのアンケートが必要ではなかったか。
- ・この報告の利活用を農林水産省は考えて貰いたい。例えば、食品安全委員会に示すなど、行ったら良いのではないか。

(4) 「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」取りまとめ(案)について

- ・事務局から資料について説明を行った後、内容についての討議と意見交換を行った。この討議を踏まえ、再度検討し、3月末までに提言としてまとめることとした。

(5) その他

- ・事務局から、ISAAAの最新データを配布。

- ・事務局から、小・中・高校生向けのリーフレットの作成を考えており、たたき台の原稿を作成した事の報告。
- ・座長からホームページについての利用者が利用しやすい工夫をお願いしたい旨の要望があった。

II コミュニケーションの進め方について

(第1回推進会議資料「平成20年度のコミュニケーション活動の進め方について」より関連部分)

1 基本的な考え方

GMOの国内栽培が行われていない現在、まず、実用化まで（商業栽培前）の地均しとして「国民の共通認識の醸成」が必要であることから、引き続き、第1ステップの目標に向けたコミュニケーション活動を継続する。

その際、昨年度の取り組みの中で、好評を得た点を更に伸ばし、課題となった点に改良を加える。

要すれば、昨年度の延長線上での取り組みを展開する中、適宜、改善見直しにも着手する。

2 昨年度からの主な変更点

(1) 外部有識者等による活動の強化推進に向けた取組の強化

昨年度開催した外部有識者等による「コミュニケーション企画会議」とアドバイザリーボードを発展的に統合した「コミュニケーション推進会議」を新たに省外に組織し、平成25年度までに遺伝子組換え農作物等が一定の国民に受け入れられるようにコミュニケーション活動の方針及びその推進方法等に関する提案を行い、遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの強化推進を図ることとする。

(2) 人材育成と地域拠点化を目指した取組強化

昨年度、コミュニケーション活動の実践により見出されたキーパーソン（組織の中で核となる者、GMOの推進に理解を示す者、コミュニケーションスキルに長けた者等）を中心とした活動が、今後、各地域で展開されることに期待し、キーパーソンのリストアップを行い、彼らへの直接的な働きかけ（定期的な情報提供、コミュニケーション活動への参加要請等）を実施し、各地域に根ざしたコミュニケーションを担う人材育成と地域における活動拠点の構築を図ることとする。

(3) 連携コミュニケーションの取組強化

依然として、「遺伝子」、「組換え」という言葉に不安を抱く者が多いことから、支援先の要望に即して、ブロッコリーからのDNA抽出実験や出前講座を行う連携コミュニケーションの実施回数を昨年度の7回から20回に増やし、基礎的な知識の付与に努めることとする。

3 平成20年度において計画している取組内容

(1) 「コミュニケーション会合」の開催

不特定多数を対象とし、①マスコミ等への情報発信効果を狙った「大規模コミュニケーション」（数百人規模）と、②相互理解の深まりを目的とする「小規模コミュニケーション」（十数名規模）、③支援希望者に対して講師を派遣し、出前実験や出前講座を行う「連携コミュニケーション」を併行して実施し、両者を連動させることにより効果的なコミュニケーションを実施する。

ア 「大規模コミュニケーション」の開催

不特定多数の国民（数百名規模）を対象とした「大規模コミュニケーション」を開催する。

内容としては、①農林水産省からの情報提供、②著名人の司会進行によるパネリスト（消費者団体2名、生産者2名、研究者1名、有識者1名）間のパネルディスカッションの実施、③参加者との意見交換を実施する。

なお、本年度は東京以外の主要都市（盛岡、福岡）で2回開催する予定である。（昨年は、東京都内で2回開催）

イ 「小規模コミュニケーション」の開催

消費者団体、生産者、等から募集した少数（十数名）の出席者を対象とした「小規模コミュニケーション」を実施する。

内容としては、①農林水産省からの情報提供、②有識者等コーディネーターの進行のもと、多様な出席者間の意見交換会を実施する。

なお、本年度は20回以上の開催を目標としている。（STAFF開催分は11回、昨年度は4回開催）

ウ 「連携コミュニケーション」の実施

プレスリリース及びホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」(<http://www.biotech-house.jp/>)を利用して、全国各地から支援希望者を公募し、応募者の中から地域バランスや属性バランスを勘案して支援先を選定し、遺伝子組換え技術等をテーマとした多様なコミュニケーション手法（公開講座、実験実習等）による支援を行う「連携コミュニケーション」を実施する。

なお、本年度は20回開催する予定である。（昨年は7回開催）

(2) ITを活用した情報提供及び意見・要望の収集

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」を利用した情報提供を行うとともに、希望者に対して、メールマガジンの配信を行う。

また、ホームページを閲覧したユーザーから意見・要望の収集を行う。

(3) 情報提供資料の配付

遺伝子組み換え作物等に関するパンフレットやパワーポイントを利用した説明資料について、希望者に提供する。

III 事業の実施結果

1. コミュニケーションの運営

1) 大規模コミュニケーションの運営

急速に発展する遺伝子組換え技術等の先端技術は国民の関心が極めて高いことから、農林水産省では遺伝子組換え農作物についてのコミュニケーション活動に努めている。

その一環として、地方都市を中心に百人～二百人規模の「大規模コミュニケーション」を2回開催した。当センターは、その開催事務局を担当した。

(1) 遺伝子組換え農作物に関する「第1回大規模コミュニケーション」 (岩手県盛岡市：ホテル東日本盛岡)

- ① 日時：平成20年9月8日(月)13:30～16:30
- ② 場所：ホテル東日本盛岡 3階「鳳凰の間」(岩手県盛岡市)
- ③ 出席者：
 - コーデネーター：北野 大 明治大学 理工学部 教授
 - パネリスト：消費者団体2名、生産者1名、学識者3名、報道関係者1名
 - 伊藤 慶子 岩手県消費者団体連絡協議会 事務局長
 - 木藤 新一郎 岩手大学 農学部 准教授
 - 小島 正美 毎日新聞社 生活家庭部 編集委員
 - 反町 久美 いわて生活協同組合 理事
 - 高橋 静男 有限会社 夢農業たかはし 代表取締役
 - 田部井 豊 (独)農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究推進室長
 - 三石 誠司 宮城大学 食産業学部 フードビジネス学科 教授
 - オブザーバー：農林水産省、内閣府食品安全委員会専門官、環境省
 - 一般参加者：消費者、生産者、流通業者、マスコミ関係者など131名
- ④ 議事の進め方：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課瀬川技術安全室長からの情報提供、学識者からの基本技術及び社会的意義の解説、報道関係者からのコメントの後、コーディネーターの司会進行によりパネルディスカッション、その後、会場との意見交換を実施。パネリスト間の活発な意見交換が行われ、また会場からも様々な立場からの意見が出された。

なお、休憩時間にDNA抽出実験のデモンストレーションが行われ、また、一般参加者を対象に「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションのアンケート調査」を実施した。

⑤ 主な発言の趣旨 (○：パネリスト、オブザーバー、●：参加者)

ア 遺伝子組換え農作物をどう考えるか

- 生産者の立場から、自分としては遺伝子組換え農作物を栽培したくないが、遺伝子組換え農作物に興味がある生産者には、栽培の選択肢が与えられても良いのではないか。今後、休耕田でのバイオマス原料用遺伝子組換え農作物の栽培なども考えられる。
- 消費者として遺伝子組換え食品は食べたくないと思っている。安全と言われても10数年の経過では安心出来ない。また、表示も曖昧で知りたいことが分からぬ。
- 遺伝子組換えは従来の育種と異なり遺伝子が組換えられている。その影響は判らず、安全性について納得出来ない。異なる遺伝子が身体に入ったときの作用が心配。
- 従来育種でも遺伝子は組変わっているわけで、それらは普通に食べているのは何故だろうか。
- 食べ慣れてきたものと、人為的に遺伝子を切り取って組み入れたものが同等と言われても納得できない。
- 安全は理解できても安心できない。子孫にまで影響しないかと考えると取り入れたくない。素晴らしいものなら何故はっきりと表示しないのか。表示の曖昧さが問題。
- 安全が安心に繋がっていないというギャップをどう考えたらいいか。
- どう説明しても納得し難いという方々がおられるが、安心は科学的レベルの問題ではない。個人としての選択は自由であり、食べたい或いは栽培したい人には栽培を認めたらいいのではないか。1人でも反対者がいたら条例で栽培を禁止してしまうような状況は良くない。
- 遺伝子組換え体は非組換え体と同等程度に安全であり、同程度に危険であるということで、絶対安全ということはあり得ない。
- 作る権利は保証しなければならないと思う。その場合、「共存」ということをどう考えるか。
- GMOは安心できないと言うが、遺伝子組換え技術で製造された医薬品についてはどう考えるか。
- 遺伝子組換えで製造した医薬品は、説明を受けて納得すれば使っても構わないと思う。しかし遺伝子組換え農作物については納得できないので受入れられない。環境への影響も不安。
- GMOを不安・避けたいと思う人がいる一方で、世界的にはこれだけ増えているという現実をどう見るか。それだけのメリットがあるからだと思う。
- 輸入の非遺伝子組換え飼料は農薬を使って普通に栽培されたものだが、日本は栽培しないで輸入はする。輸出国は農薬を使っている。こうすることに対し、今のままで良いのだろうか。
- 遺伝子組換え農作物より農薬使用量が多い非遺伝子組換え農作物の方が

良いというのは何故だろうか。

- 非遺伝子組換え農作物は受け入れるというのは、農薬使用量が多いか少ないかではなく、遺伝子組換え農作物は本当に大丈夫なのかということ。
- 今の遺伝子組換え農作物は一部の企業が戦略的に生み出したもので、消費者や生産者が望んだものではない。

イ 正確な理解と合意点の形成について

- 技術によって解決出来るという人と、何が何でも絶対反対という人の両極端な議論があるが、絶対…！というのは変で、普通の人は、自分なりに選択し、自分なりに納得するもの。自分達で選択肢を作っていく必要があるのではないか。
- このことについて議論する場合、遺伝子組換え農作物固有の問題と農業そのものの問題を区別して行う必要がある。得てして混同した議論がある。
- この様な説明会を数多く行って、消費者が理解できる場を設けることが必要。作りたい人には作れるようにしたらしい。
- 安全性に関しては、食品としての安全性、飼料としての安全性、環境に対する安全性といった立場から評価基準に基づいて厳しく審査されている。
- 環境への影響ということでは、国際的な共通ルールの生物多様性影響評価がなされたものが世に出られる仕組みになっている。
- 賛成の人、反対の人を集め、もっと議論していくことが重要。その中で、お互いにどこまでなら合意できるかを話し合うべきだろう

ウ 会場からの質問・意見など

- 人間の都合で自然を操作して良いのか。
- 除草剤耐性遺伝子を組み込み、特定企業に独占されていることをどう思うか。
- 非遺伝子組換え農作物表示で偽装はないのか。
- 日本としては遺伝子組換え農作物を輸入したいのか。
- 遺伝子組換え農作物のタンパク質は体内で分解されると言われるが信じられない。

エ 総括

- 安全をどのように安心につなげるか。安心は自然科学ではないので極めて難しいところがある。安全と安心をつなげるには、“どこまでなら合意できる”という点を見つけることが重要。100%賛成・100%反対ということではなく、情報を共有し、討論をして、合意点を見つけ出していくかればと思う。



パネルディスカッションの様子
(左から 4 番目：
北野コーディネーター)



会場の様子



会場との意見交換の様子



DNA抽出実験の様子

(2) 遺伝子組換え農作物に関する「第2回大規模コミュニケーション」
(福岡市中央区：アクロス福岡)

① 日時：平成20年11月4日(火)13：30～16：30

② 場所：アクロス福岡 4階「国際会議場」(福岡県福岡市)

③ 出席者：

コーディネーター：北野 大 明治大学 理工学部 教授

パネリスト：消費者団体2名、生産者2名、学識者2名、

報道関係者1名

江 口 瑞 枝 エフコープ生活協同組合 組合員理事

小 島 正 美 毎日新聞社 生活家庭部 編集委員

田部井 豊 (独)農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究推進室長

中 島 宗 昭 中島農産 代表

畠 中 五恵子 有限会社 畠中育雑場 代表取締役

三 石 誠 司 宮城大学 食産業学部 フードビジネス学科 教授

山 下 伸 子 北九州消費者団体連絡会「食の安全部会」部会長

オブザーバー：農林水産省、内閣府食品安全委員会専門官、

厚生労働省、環境省

一般参加者：消費者、生産者、流通業者、報道関係者など175名

④ 議事の進め方：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課瀬川技術安全室長からの情報提供、学識者からの基本技術及び社会的意義の解説、報道関係者からのコメントの後、コーディネーターの司会進行によりパネルディスカッション、その後、会場との意見交換を実施。パネリスト間の活発な意見交換が行われ、また会場からも様々な立場からの意見が出された。

なお、休憩時間にDNA抽出実験のデモンストレーションが行われ、また、一般参加者を対象に「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションのアンケート調査」を実施した。

⑤ 主な発言の趣旨(○：パネリスト、○：オブザーバー、●：参加者)

ア 話題提供に対する質問と意見

○非遺伝子組換えトウモロコシは農薬を多く使っていて問題と言うが、本当にそうなのか。日本で遺伝子組換え農作物を栽培してもよいという生産者もいるとのことだが、そうなのか。

○遺伝子組換え農作物のメリットとして農薬使用量の減少が言われるが、耕作面積の狭い日本では、アメリカなどの効果は出ないのでないか。

○遺伝子組換え農作物のメリットは分かったが、農薬使用という点からは、従来からの低農薬とか有機栽培というものと遺伝子組換え農作物との差別化が出来なくなるのではないか。

一番心配なのは交雑だが、大丈夫か。

遺伝子組換え農作物の場合、自家採種は出来るのか。

イ 遺伝子組換え農作物をどう考えるか

○非遺伝子組換え飼料の卵が高いと言われるが、エサが高いので卵も高くなつたということで、生産者が不當に高く販売しているわけではない。

自分の所では、ある生協に出荷する卵は非遺伝子組換えトウモロコシを使つてゐるが、自家販売の卵は不分別のエサを使つてゐる。これだけ穀物事情が厳しくなると、非遺伝子組換え農作物の安定確保は困難になる。

○消費者は、「値段が高くても非遺伝子組換え農作物を使ったものを買う」と言う人と、「今の状況ではそもそも言つていられない。安いほうが良い」という人とに分かれると思う。

○遺伝子組換えの作物が紹介された頃に「すごく怖いもの」というイメージを植えつけられてしまったと思う。今日のような話を聞き、いろいろな人と話をする中で、当時の騒ぎはリスク情報のみで、ベネフィット情報がなかなか出てきていなかつたことに気付き、少しづつ考えが変わって來た。

○選択肢があるかどうかが大事。ポリシーとして「私は食べたくない」という人はいると思う。それはそれでいい。選択肢の仕組みを作る際に、「国が枠組みを作るときに、どの程度の透明性があるか」ということが大切。

○選択肢があることはとても重要。それは食べる側、栽培する側も同じだと思う。

「遺伝子組換え農作物は嫌だ、栽培してもらいたくない」という人、「遺伝子組換え農作物を使ってコストを下げ、生産性を上げたい」という人、その両方が共存出来る社会というのが必要と思う。

○日本では、最初のスタート時点で、生産者が遺伝子組換え農作物を栽培したくても出来なかつた。取りあえず1人でもいいから栽培してもらい、本当に良いかどうかをみんなで検証しながら検討すれば良かつたが、それが出来なかつたのは非常に不幸と思う。

○遺伝子組換え技術で、従来の品種改良よりも早く新品種を作出できる可能性があるという点に関心。温暖化で困つてゐる九州の米生産者としては少しでも早く良品質な品種や地域と環境に適した作物を作出してもらいたい。

ウ 会場からの質問・意見など

●遺伝子組換え農作物のデメリットやリスクについて、明確なものがあるか。

●化学物質の場合、事前審査、事後管理という2つを組み合わせて安全

性を確保していくが、遺伝子組換え農作物についてその辺はどうか。

- 遺伝子組換え農作物の商業栽培が始まってから10数年程度で“安全です”というのは不安。
- 種を超えた遺伝子組換えは自然界ではあり得ない。それをするということが嫌だと感じる。

エ 総括

○私たちは、分からぬこと・理解できないことについては怖いと感じる。怖いものは嫌で、拒否する。遺伝子組換え農作物についても、よく分からぬ、分からぬから理解出来ない、理解出来ないから何となく怖い、怖いから嫌だと言う。そのようなものが消費者の反応の一つとしてあるのではないか。それから、“種を超えた遺伝子の組換えのようなものは、倫理的に許さない”というのもある。

一方、「日本の食料自給率の現状や今後の日本の農業を考えた時、非遺伝子組換え農作物だけでやって行けるのか」という意見があった。

今日のこの場は、あくまでも「遺伝子組換え農作物について、まず科学的にきちんと理解して頂こう」、「科学的に理解して頂いた上で、その後の判断はお任せする」というもの。「遺伝子組換え農作物がこんなにいいのだから全部遺伝子組換え農作物にしろ」とか、「そうではない」ということを言うつもりはない。

リスクばかりではなくて、科学的にきちんと理解する、科学的に理解した上で、その次の判断は、「私は個人の問題」と思う。個人の倫理観でもあるし、世界観でもある。

もう1つ大事なことは、やはり選択肢。消費者としての選択肢と生産者としての選択肢、そこはお互いに認めていこうではないか、多様な選択肢があるのが民主的な社会であるし、必要なことではないか。



北野コーディネーター



パネラー

パネルディスカッションの様子



コミュニケーション会場の様子



会場との意見交換の様子



DNA抽出実験の様子

2) 小規模コミュニケーションの運営

「小規模コミュニケーション」は、消費者団体、生産者等から募集した少數（十数名程度）の出席者を対象に、農林水産省からの情報提供を行い、コーディネーターの進行の下、フェイスツーフェイスで信頼感を構築しながら多様な出席者間の意見交換会をとおしてコミュニケーションを図ろうとするものである。

今年度は、小規模コミュニケーションを11回開催した。

開催地、開催日、開催場所及び参加者数は以下のとおりである。

なお、小規模コミュニケーションへの参加者を対象に、大規模コミュニケーションと同一内容で「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションのアンケート調査」を実施した。ただし、横須賀（第3回コミュニケーション）ではアンケート調査を実施しなかった。

小規模コミュニケーションの開催地、開催日、開催場所及び参加人数

開催地	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
葉 山	8月20日（水）	葉山町保育園・教育総合センター	25名
佐 賀	9月26日（金）	佐賀県婦人会館	33名
横須賀	10月6日（月）	横須賀市立総合福祉会館	38名
栗 原	10月10日（金）	栗原市若柳多目的研修センター	42名
横 浜	10月27日（月）	コープ会館（金子第1ビル）	47名
桑 名	11月6日（木）	三重県桑名庁舎	31名
金沢八景	11月15日（土）	関東学院大学人間環境学部	25名
尾花沢	11月21日（金）	尾花沢市保健センター	36名
名古屋	12月11日（木）	名古屋市環境学習センター エコパル名古屋	12名
大 分	12月18日（木）	大分市市民活動・消費生活センター	22名
柏	1月27日（火）	柏市消費生活センター	42名

(1) 遺伝子組換え農作物に関する「第1回小規模コミュニケーション」
(神奈川県葉山町)

① 日 時：平成20年8月20日(水) 14:00～16:00
② 場 所：葉山町保育園・教育総合センター(葉山町)
③ 出席者：葉山町立学校管理栄養士、調理員 計25名
コーディネーター(順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
堀口逸子氏)
農林水産省 4名、STAFF 4名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課技術安全室田中課長補佐から「遺伝子組換え農作物の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室堀口逸子助教の進行のもと、参加者を2グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から“農作物の遺伝子組換えに関する質問や意見”を集約し、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物についての意見交換など、活発なコミュニケーションを行った。

また、ブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・食品として本当に安全が保証されるのか。
- ・遺伝子組換え食品を食べ続けると、体の中に悪いものが蓄積されていくということはないのか。
- ・学校給食では、県をあげて遺伝子組換えではないものを使用するようにしている。これだけ安全だということなのにどうしてなの。
- ・近年アレルギーの人が増加しているが、遺伝子組換え農作物を利用した食品の摂取と関係しているということはないのか。
- ・食べ続けたとして孫子の代まで安全は担保されるのか。
- ・食生活の変化により生活習慣病等の病気が増加していることから、遺伝子組換え食品により人間の体に与える影響がやはり心配。
- ・DNAが少し理解できた。
- ・自給率の低下の問題などをかかえている中で、海外から今後遺伝子組換え農作物が入ってくる可能性が高いのであれば、国内での研究も必要だと感じた。
- ・遺伝子組換えとはあまり良いイメージはなかったが、安全な物だと知ることができて良かった。
- ・初めて詳しく知ったので、まず初歩的なことを知れてよかったです。
- ・簡単な実験でDNAが見られて楽しかった。



情報提供の様子



意見交換会の様子

(2) 遺伝子組換え農作物に関する「第2回小規模コミュニケーション」
(佐賀県佐賀市)

① 日 時：平成20年9月26日(金) 13:00～15:30

② 場 所：佐賀県婦人会館(佐賀市)

③ 出席者：佐賀県地域婦人連絡協議会会員 33名

コーディネーター(順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教

堀口逸子氏)

農林水産省 2名、STAFF 3名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課技術安全室 田中課長補佐から「遺伝子組換え農作物の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子助教の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から、農作物の遺伝子組換えに関する質問や意見を集約し、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物についての意見交換など、活発なコミュニケーションを行った。

また、ブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・遺伝子組換え農作物の食品としての安全性はどうなのか。
- ・「遺伝子組換えを使用していません」という表示の意味するところは。
- ・野菜の種子の採種地に外国産が多いのは何故か。遺伝子組換えとの関係は。
- ・遺伝子組換え食品がアレルギーの原因になることはないのか。
- ・豆腐・納豆などでわざわざ「遺伝子組換えではない」と表示しているのは何故か。
- ・遺伝子組換え食品は安全か。



情報提供の様子



意見交換会の様子

(3) 遺伝子組換え農作物に関する「第3回小規模コミュニケーション」
(神奈川県横須賀市)

① 日 時：平成20年10月6日(月) 13:30～16:00

② 場 所：横須賀市立総合福祉会館(横須賀市)

③ 出席者：横須賀市消費生活研究会会員 38名

コーディネーター(情報セキュリティ大学院大学)

セキュアシステム研究所客員研究員 蒲生恵美氏)

農林水産省 2名、STAFF 5名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局 横田技術政策課長から「遺伝子組換え農作物の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの情報セキュリティ大学院大学 蒲生恵美客員研究員の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から、農作物の遺伝子組換えに関する質問や意見を集約し、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物についてお意見交換などを行い、コミュニケーションは活発かつ、円滑に進んだ。

また、ブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・豆腐、味噌などダイズ加工食品に、わざわざ「遺伝子組換えではない」と表示して売られているものがあるが、何処まで信用してよいか。
- ・食料不足時代の到来で遺伝子組換え作物は必要にならざるを得ないとは思うが、長期的に見た場合、遺伝子組換え作物の摂取による健康への影響が心配である。食べ続けて大丈夫なのか。
- ・遺伝子組換え食品には不安がある。
- ・消費者にとっては表示だけが頼り。分り易い表示をお願いしたい。
- ・病気の治療に役立つような遺伝子組換え食品ができればいいなと思う。
- ・これだけ輸入されているとは知らなかつた。消費者も「組換えだから使わない」とばかり言つていられない時代になるのかなと思った。
- ・人間にとって遺伝子組換えは、良いことの期待と悪影響の恐れの両方があると思う。それらをよく理解できていないことが不安の源になっている。メリットとデメリット双方についてきちんと知りたい。
- ・バイオ燃料用の遺伝子組換え作物はよいことと思うが、食料との競合は困る。そのバランスが大事だと思う。
- ・遺伝子組換え食品の安全性について疑問を持っていたが、今日の学習会で詳しく説明をしていただき、間違つて伝えられていたことが分かった。外国に頼らず国内でも生産し、安心して生活ができるよう願いたいものです。

- ・米の生産調整のやり方に疑問を感じている。自給率がこんなに低い中、もっと水田を有効に使うべきではないか。
- ・輸入米の検査はどの様に行われているのか。



情報提供の様子



デルファイ法によるグループ内の
意見集約

(4) 遺伝子組換え農作物に関する「第4回小規模コミュニケーション」
(宮城県栗原市)

① 日 時：平成20年10月10日（金）13：30～16：00
② 場 所：栗原市若柳多目的研修センター（栗原市）
③ 出席者：栗原市 消費者の会若柳支部、食生活改善推進員連絡協議会若柳
分会、若柳婦人会 会員 計42名
コーディネーター（順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
堀口逸子氏）

農林水産省 2名、STAFF 4名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課瀬川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物（GMO）を取り巻く現状」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子助教の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から農作物の遺伝子組換えに関する質問や意見を集約し、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物についての意見交換など、コミュニケーションは効率的に行つた。

また、プロッコリーからのDNA抽出実験を行い、遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・豆腐や納豆などに「遺伝子組換えでない」などの表示がされているが、そもそもそれが何を意味するのかが分からぬ。
- ・組換え大豆を使った納豆、豆腐などを食べても大丈夫なのか。
- ・店頭で見る「遺伝子組換えでない」という表示は100%信用出来るのか。
- ・遺伝子組換え農作物は本当に安全なのか。
- ・遺伝子組換え農作物の効用は除草剤の散布回数を減らすことがあるのか。
- ・虫の付かない遺伝子組換え作物を食べても後々大丈夫なのか。
- ・遺伝子組換え食品で、今までに悪い例はなかったのか。
- ・遺伝子組換え農作物は本当に安全性は大丈夫なのか。
- ・いま話題の事故米について説明して欲しい。
- ・何故、中国から食品を輸入するのか。国内生産で貰えないからなのか。



情報提供の様子



デルファイ法によるグループ内の
意見集約の様子

（5） 遺伝子組換え農作物に関する「第5回小規模コミュニケーション」
(神奈川県横浜市港北区)

① 日 時：平成20年10月27日（月）10：00～12：00

② 場 所：コープ会館3F（金子第1ビル）（横浜市港北区）

③ 出席者：コープかながわ組合員 47名
コーディネーター（情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所客員研究員 蒲生恵美氏）
農林水産省 2名、STAFF 4名

④ 概 要：
農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 濑川技術安全室長から
「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について
情報提供の後、コーディネーターの情報セキュリティ大学院大学セキュアシ
ステム研究所 蒲生恵美客員研究員の進行のもと、参加者を4グループに分
け、デルファイ法によって参加者全員から農作物の遺伝子組換え農作物に
関する質問や意見を集約し、遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物に
ついての意見交換など、活発なコミュニケーションを行った。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・環境への影響、生物多様性への影響は大丈夫か。
- ・食品としての安全性は大丈夫か。
- ・国民への幅広い情報提供や意見交換のための説明会など、国としてどの様に進めようと考えているのか。
- ・遺伝子組換え技術に関する日本の研究開発の状況は。
- ・分別と表示について知りたい。
- ・「遺伝子組換え」という言葉だけが先行しているので、もっと広く正確な情報提供を行う努力をして欲しい。また、学校でもっと教えて欲しい。
また、「遺伝子組換でない」という表示は、遺伝子組換え技術の発展を遅らせる原因になっていると思うので、消費者意識を変えることを考える必要があると思う。
- ・ヨーロッパがGMOの商業栽培に踏み切った理由を知りたい。
- ・豆腐や納豆などに「遺伝子組換でない」などの表示がされているが、信じて良いのか。



情報提供の様子



意見交換の様子

(6) 遺伝子組換え農作物に関する「第6回小規模コミュニケーション」
(三重県桑名市)

① 日 時：平成20年11月6日(木) 13:30～16:00
② 場 所：三重県桑名庁舎(三重県桑名市)
③ 出席者：桑名地区食の安全・安心地域リーダー会議のメンバー、
一般消費者、桑名農政環境事務所 計31名
コーディネーター ((社)農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 河野敏明部長)
農林水産省 2名、STAFF 4名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課瀬川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの(社)農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 河野敏明部長の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から遺伝子組換え農作物に関する質問や意見を集約し意見交換を行い、コミュニケーションを効率的に行った。

また、DNAと遺伝子についてやさしい解説を行った後、ブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・安全と言うが、本当に安全か。人体に影響はないのか。遺伝子組換え農作物の安全性に不安。食べ続けても大丈夫なのか。
- ・何故、遺伝子組換え表示があるのか。危険だからではないのか。
- ・自然界への影響、環境への影響はどうか。交雑の問題はないのか。交雑を防ぐ技術はあるのか。
- ・遺伝子組換え農作物を開発するメリット、ポイントは何か。
- ・異なる種の遺伝子を導入しても大丈夫なのか。
- ・国は消費者の目線で捉えているか。遺伝子組換え農作物の理解が進まない原因もその辺りにあるのではないか。
- ・大豆、トウモロコシ、ワタ、ナタネの遺伝子組換え体比率が高くなっているが、将来、日本は、これからどう対応しようとしているのか。
- ・遺伝子組換え農作物は良くないというイメージが強かったが、農薬等の使用を減らすものもあることを知った。
- ・遺伝子組換え農作物に不安ばかりだったが、少し状況を知ることが出来た。
- ・遺伝子組換えは有用な遺伝子を取り入れるものであり、除草剤等の使用が少なくて済み収量も増大することを知った。



情報提供の様子



デルファイ法による質問集約の様子

(7) 遺伝子組換え農作物に関する「第7回小規模コミュニケーション」
(神奈川県横浜市金沢区)

① 日 時：平成20年11月15日（土）13：30～16：00
② 場 所：関東学院大学人間環境学部（横浜市金沢区）
③ 出席者：神奈川県栄養士会教育研究協議会会員、学生 25名
コーディネーター（情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所客員研究員 蒲生恵美氏）
農林水産省 2名
オブザーバー（独）農業・食品産業技術総合研究機構
畜産草地研究所 1名
STAFF 3名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 瀬川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所 蒲生恵美客員研究員の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から農作物の遺伝子組換えに関する質問や意見を集約し、意見交換など活発で熱心なコミュニケーションを行った。

なお、DNAと遺伝子についてやさしい解説と、ブロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAと遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・遺伝子組換で痩せる食物を作れないか
- ・遺伝子組換え農作物の安全性評価の仕方は、将来、変わることはないか。
- ・日本で商業栽培は行われていないのか。
- ・日本は食料の無駄を無くすなど、遺伝子組換え農作物の開発の前にやるべきことがあるのではないか。
- ・遺伝子組換え農作物への取組みは最優先すべき研究課題なのか。
- ・遺伝子組換え技術による機能性研究は民間企業が進めているのか。それらの承認手順や、その後の追跡調査などはどうなのか。
- ・「遺伝子組換え不使用表示食品」イコール「安全です」というイメージは間違っているのか。
- ・表示義務の有無は何処で判断されるのか。
- ・アレルギーを起こさない遺伝子組換え農作物を作れないか。
- ・今まで遺伝子組換え農作物は危ないものと思っていた。よい点をもっとPRすべき。
- ・遺伝子組換え農作物を輸入、使用している現実を消費者に明確に知らしめて施策を進めるべき。



情報提供の様子



D N A抽出実験の様子

(8) 遺伝子組換え農作物に関する「第8回小規模コミュニケーション」
(山形県尾花沢市)

① 日 時：平成20年11月21日（金）13：30～16：00
② 場 所：尾花沢市保健センター（山形県尾花沢市）
③ 出席者：尾花沢市食生活改善推進協議会 36名

コーディネーター（順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
堀口逸子氏）

農林水産省 2名

STAFF 3名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 濑川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子助教の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から遺伝子組換え農作物に関する質問や意見を集約し、意見交換など、活発で熱心なコミュニケーションを行った。

また、「生き物って何だろう」ということでDNAと遺伝子について簡単な解説が行われた後、プロッコリーからのDNA抽出実験を行い、DNAと遺伝子に対して実感を高めた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・遺伝子組換え農作物を食べ続けて大丈夫なのか。
- ・遺伝子組換えは役立つ技術なのに、なぜ「遺伝子組換でない」と表示するのか。悪いイメージの表示を再考すべき。「遺伝子組換でないから安全」と言っているのか。表示の意味が分からない。
- ・魚の遺伝子組換えはどうなっているか。
- ・輸入遺伝子組換え農作物の安全性はチェックしているのか。輸出国で危険な情報を隠してはいるようなことはないか。
- ・食料自給率アップのために遺伝子組換え農作物を使って行くのか。自給率の展望はどうか。
- ・新顔の雑草が増えているが、輸入飼料に混ざり入って来ることはないのか。
- ・国産牛も、輸入遺伝子組換え農作物を食べているのか。
- ・遺伝子組換えのことをあまり考えたことがなかったが、今後はもう少し関心を持っていこうと思う。
- ・遺伝子組換え農作物は身体に悪いと思っていたが、今日の話で少し安心して表示を見るようする。
- ・初めて遺伝子組換えの話を聞いたが、なかなか難しかった。



意見交換の様子



DNA抽出実験の様子

(9) 遺伝子組換え農作物に関する「第9回小規模コミュニケーション」
(愛知県名古屋市)

① 日 時：平成20年12月11日（木）13：30～16：00
② 場 所：名古屋市環境学習センター エコパル名古屋（名古屋市中区）
③ 出席者：なごや環境大学共育講座受講者 12名
コーディネーター（順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
堀口逸子氏）

農林水産省 4名

STAFF 2名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 濑川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子助教の進行のもと、参加者を2グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から遺伝子組換え農作物に関する質問や意見を集約し、意見交換を行い、コミュニケーションを効率的に行った。

また、「生き物って何だろう」ということでDNAと遺伝子について簡単な解説が行われた後、プロッコリーからのDNA抽出実験が行われ、DNAと遺伝子に対して実感を高めた。さらに、「遺伝子組換え農作物の判別法」についての説明が行われた後、遺伝子組換え大豆と非遺伝子組換え大豆さらに遺伝子組換え大豆を利用した納豆を用い、判別実験のデモンストレーションが行われた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・種子がアメリカ企業主導で販売されているが、このようなことが経済戦争のネタにされないか。
- ・自家採種ができないと聞いているが。
- ・遺伝子組換え農作物を増産すれば自給率が上がるのではないか。遺伝子組換え農作物以外に自給率アップは考えられるか。
- ・遺伝子組換え農作物の導入でコスト削減が可能と言うが、種苗メーカーは売り上げが増加するから開発しているわけで、農家はコスト増になっているのではないか。
- ・遺伝子組換え農作物は何がメリットで、何がデメリットか。
- ・名古屋港でも港湾からの道路周辺で遺伝子組換えナタネが見つかっており、完全隔離は不可能で、固有種や在来種が脅かされるのではないか。
- ・農家は絶滅危惧種といった人がいますが、農林水産省はどう考えますか。
- ・遺伝子組換え農作物についての政府の方針と総合科学技術会議の提言について教えて欲しい。
- ・休耕田を利用して、遺伝子組換え農作物を推進しても良いのではないか。

- ・遺伝子組換え農作物の安全性について P R 不足なのではないか。



情報提供の様子



D N A 抽出実験の様子

(10) 遺伝子組換え農作物に関する「第10回小規模コミュニケーション」
(大分県大分市)

① 日 時：平成20年12月18日(木) 18:45～21:00
② 場 所：大分市市民活動・消費生活センター ライフパル(大分県大分市)
③ 出席者：消費生活相談窓口の相談員、高校・大学の家庭科教師、
大分大学学生 計22名
コーディネーター(順天堂大学医学部公衆衛生学教室助教
堀口逸子氏)

農林水産省 4名
STAFF 2名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課瀬川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子助教の進行のもと、参加者を3グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から遺伝子組換え農作物に関する質問や意見を集約し、意見交換を行い、活発で熱心なコミュニケーションを効率的に行なった。

なお、「生き物って何だろう」ということでDNAと遺伝子について簡単な解説が行われた後、参加者全員によるブロックリーからのDNA抽出実験が行われ、DNAと遺伝子に対して実感を高めた。さらに、「遺伝子組換え農作物の判別法」についての説明が行われた後、遺伝子組換え大豆と非遺伝子組換え大豆さらに遺伝子組換え大豆を利用した納豆を用い、判別実験のデモンストレーションが行われた。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・大豆製品である納豆や豆腐に遺伝子組換え大豆が使われていないのはなぜか。
- ・健康や環境に想定外の影響が出ないとも限らないと思うが、遺伝子組換え農作物は本当に大丈夫か。重金属のように体内に蓄積することはないか。
- ・害虫抵抗性を持たせるために組換えが行われているが、複数の虫に対して抵抗性を持たせるためには、複数の遺伝子を組換えることになるのか。その場合、安全性は低下しないのか。
- ・日本では商業目的の遺伝子組換え農作物の栽培は行われていないが、今後どのような方向に進んでいくのか。
- ・遺伝子組換えをすることで、寒い地域の農作物を暑い地域で栽培することが可能となるのか。



情報提供の様子



意見交換の様子

(11) 遺伝子組換え農作物に関する「第11回小規模コミュニケーション」
(千葉県柏市))

- ① 日 時：平成21年1月27日(火) 10:30～12:30
- ② 場 所：柏市消費生活センター 消費者ルーム
(そごうアネックス5F) (柏市)
- ③ 出席者：柏生活クラブ、柏市消費者の会、他42名
コーディネーター (情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所客員研究員 蒲生恵美氏)
農林水産省 3名、
オブザーバー (独)農業生物資源研究所 2名
STAFF 3名

④ 概 要：

農林水産省農林水産技術会議事務局技術政策課 瀬川技術安全室長から「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」について情報提供の後、コーディネーターの情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所 蒲生恵美客員研究員の進行のもと、参加者を4グループに分け、デルファイ法によって参加者全員から遺伝子組換え農作物・食品に関する質問や意見を集約し、コミュニケーションを効率的に行った。

主な質問と意見は以下のとおりであった。

- ・組換え遺伝子が身体に入って大丈夫か？蓄積して身体に悪いことがないか？(安全性への懸念、不安がつきまとう)
- ・表示の意味と表示のルールについて、分り易く知りたい。
- ・遺伝子組換えによる医薬品の開発・応用のメリットを知りたい。
- ・開発企業のデータで安全性を評価・審査をするのは問題ではないか。国のデータで行うべきではないのか。
- ・今大事なのは食の安全保障、自給率の向上であり、遺伝子組換え農作物がその解決策ということではないのではないか。
- ・事故米の二の舞とならないように、遺伝子組換え農作物を含めて食品の安全性に対する国の取組みをきちんと行って欲しい。
- ・遺伝子組換え食品は危険と思っていたが、今日の話を聞いてそんなに怖がるものではないと思うようになった。避けてきたつもりだったが、実は色々な形で食べていたことが分かった。
- ・遺伝子組換えについては非常に気になっていたので、どんなに高くても非組換えを買おうと思っていたが、今日の話でよく理解できた。
- ・日頃、遺伝子組換え食品を避けるように心掛けていたが、現状をよく理解していなかった。やはり基本的なことは学ぶべきと思った。



情報提供の様子



意見交換の様子

2. 連携コミュニケーションの実施

1) 募集と採用

様々な実施主体と連携し、コミュニケーションへの参加者の拡大（人数、属性）を図るとともに、多様なコミュニケーション手法（出前講座、実験実習等）をモデル的に推進する観点から、出前講座等の希望を公募し、波及効果やモデル性等を勘案し、予算の範囲内で支援を行った。

平成20年5月16日～6月13日の公募期間中に44件の申込みがあった。

この中から応募の目的と理由をもとに、地域バランスや属性バランス等を勘案し、20件を実施先として選定した。

具体的な支援内容としては、遺伝子組換え農作物・食品をテーマにした出前講座、研究会・講習会への講師派遣、あるいは遺伝子組換え農作物・食品の判別実験またはDNA抽出実験の実習・実演との組合せが殆どであった。

<地域別>

	北海道	東 北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中四国	九 州
応募件数	1	5	25	1	3	3	1	5
選択件数	0	1	11	1	1	2	1	3

<属性別>

	中学校	高等学校	大学・専門学校	生協・消費者団体	自治体	N P O ・ 公益法人	その他
応募件数	5	13	2	10	10	0	4
選択件数	2	6	2	3	4	0	3

<実施状況>

地 域	期 日	支 援 先	参 加 者
千 葉	7月8日(火)	農林水産省関東農政局 千葉農政事務所 千葉県消費者団体連絡協議会	消費者の会 生協他 50人
神 戸	7月14日(月)	神戸動植物環境専門学校	バイトクリバジー受講者 17人
広 島	7月15日(火)	広島大学大学院教育学研究科	学部4年生 15人
山 鹿	7月31日(木)	熊本県立鹿本農業高等学校	バイト工学科1~3年生 20人
淡 路	8月21日(木)	淡路県民局県民生活部 生活科学センター	一般消費者 33人
高 山	8月23日(木)	高山市「若いミセス生活学校」	同関係者、一般市民 24人
横 浜	9月10日(水)	コープかながわ	同会員及び職員 26人
市 原	9月16日(火)	東海大学付属望洋高等学校	3年生 73人
熊 本	9月22日(月)	熊本市消費者センター	消費者団体、一般市民 56人
松 本	10月1日(水)	長野県松本消費生活センター	同センターの講座受講者、 一般市民 61人
野 田	10月3日(金)	千葉県野田市立第二中学校	3年生3クラス 110人
仙 台	10月11日(土)	宮城県第二女子高等学校	1~3年生 35人
茂 原	10月20日(月)	千葉県立長生高等学校	3年生 35人
船 橋	10月28日(火)	千葉県立薬園台高等学校	1~3年生 36人
小田原	11月8日(土)	小田原食生活研究会	同会員 34人
甲 府	11月14日(金)	山梨県、農林水産省関東農政局山梨農政事務所、(独)農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所	一般参加者、行政担当者 市民 97人
柏	11月19日(水)	千葉県柏市立風早中学校	3年生 95人
あさぎり	11月25日(火)	熊本県立南稜高等学校	3年生 16人
川 崎	12月3日(水)	Uzumaki 食の安心・安全行動提起・実行グループ	同グループのリーダー 6人
阿 見	2月4日(水)	茨城県土浦保健所	一般市民 103人

2) 実施結果

(1) 農林水産省関東農政局千葉農政事務所、 千葉県消費者団体連絡協議会（千葉市中央区）

- ① 日 時：平成20年7月8日（火）13:30～16:00
- ② 場 所：千葉市消費生活センター 3階 研修講義室（千葉中央区）
- ③ 支援先：農林水産省関東農政局千葉農政事務所
千葉県消費者団体連絡協議会
- ④ 講 師：河野敏明（社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：県内各地の消費者の会、生協、消費者モニターなど 合計50名
STAFF 5名
- ⑥ 概 要：
農林水産省関東農政局千葉農政事務所（担当窓口：消費・安全部消費生活課）と千葉県消費者団体連絡協議会が主催し、千葉県内の消費者を対象として開催する平成20年度「食の安全・安心セミナー」の第1回目の講座として、遺伝子組換え農作物・食品の安全性に対する理解を深めて貰う目的で「遺伝子組換え作物」を実施した。内容は、「遺伝子組換え食品について」の講義と参加者に「大豆および大豆加工食品を試料として用い遺伝子組換え食品の判別実験」を行って貰った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換さらにアンケート調査を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「組換え食品判別実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



会場内の様子



意見交換会の様子

(2) 神戸動植物環境専門学校(神戸市中央区)

- ① 日 時：平成20年7月14日（月）13:40～16:30
- ② 場 所：神戸動植物環境専門学校
- ③ 支援先：神戸動植物環境専門学校
- ④ 講 師：河野敏明 (社)農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：リクルートの研修コース「バイオテクノロジー」受講者 17名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

参加者は、無職でリクルートを通じ就職活動を行っており、リクルートが実施している研修コース「バイオテクノロジー」に参加して3ヵ月間の研修を神戸動植物環境専門学校（担当：同校学科長 船橋ますみ）で受講している20歳から40歳代までの17名である。当該コースの一科目として「遺伝子組換え食品について」の講義と参加者に「大豆および大豆加工食品を試料として用い遺伝子組換え食品の判別実験」を行って貰った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
 - パンフレット：「Do you know?」、「Step up」
 - バイテク小事典
 - リーフレット「組換え食品判別実験」（実験説明用）
 - 「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演の様子



意見交換の様子

(3) 広島大学大学院教育学研究科(広島県東広島市)

- ① 日 時：平成20年7月15日（火）14:40～17:00
- ② 場 所：広島大学
- ③ 支援先：広島大学大学院教育学研究科
- ④ 講 師：河野敏明 （社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：学部4年生で、家庭科の教員免許取得を目指している学生15名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

参加者は、学部4年生で、家庭科の教員免許取得を目指している学生15名である。同大学大学院教育学研究科では、教員になった時、生徒に遺伝子組換えについて正しく教育できるようになって貰うことを目的に、大学院教育学研究科（担当：人間生活教育学講座 松原主典准教授）の授業で「遺伝子組換え食品について」の講義と「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演会場の様子



DNA抽出実験の様子

(4) 熊本県立鹿本農業高校(熊本県山鹿市)

- ① 日 時：平成20年7月31日（木）14:40～17:00
- ② 場 所：熊本県立鹿本農業高校（熊本県山鹿市）
- ③ 支援先：熊本県立鹿本農業高校
- ④ 講 師：橋本昭栄 NPO法人 国際生命科学協会
バイオテクノロジー部会長
- ⑤ 参加者：同校バイオ工学科学生（1年生2名、2年生2名、3年生11名）
15名および同校教諭5名、合計20名
農林水産省九州農政局生産経営流通部農産課：2名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：
熊本県立鹿本農業高校（担当：バイオ工学科 東山宗矩教諭、柿本剛教諭）の夏休み中の活動として実施した。参加者は、同校バイオ工学科の1年生～3年生までの15名とバイオ関連教諭5名の合計20名である。特別授業では「遺伝子組換え食品について」の講義と「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 試 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイオテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイオテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演の様子



DNA抽出実験の様子

(5) 淡路県民局県民生活部生活科学センター(兵庫県淡路市)

- ① 日 時：平成20年8月21日（木）13:30～15:30
- ② 場 所：淡路県民局県民生活部生活科学センター
淡路文化会館（兵庫県淡路市）
- ③ 支援先：淡路県民局県民生活部生活科学センター
- ④ 講 師：橋本昭栄 NPO法人 国際生命科学研究機構
バイオテクノロジーパート会長
- ⑤ 参加者：一般から参加者を募集した。その結果33名（女性27名、男性6名）
の応募があり、応募者全員が参加した。
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：
淡路県民局県民生活部生活科学センター（担当：東中美根子生活科学専門員）が実施している「ほんまもの生活セミナー」の中の「食生活コース」に位置付けで行われた。参加者は、一般消費者33名（女性27名、男性6名）である。講演は「遺伝子組換え食品について」の講義と「大豆および大豆加工食品を利用し遺伝子組換え食品の判別実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「組換え食品判別実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演会場の様子



遺伝子組換え食品の判別実験の様子

(6) 高山市若いミセス生活学校（岐阜県高山市）

- ① 日 時：平成20年8月23日（木）13:30～16:00
- ② 場 所：高山市民会館（岐阜県高山市）
- ③ 支援先：高山市「若いミセス生活学校」
- ④ 講 師：蒲生恵美 情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所 客員研究員
- ⑤ 参加者：若いミセス生活学校の関係者20名、一般参加者4名、合計24名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

岐阜県高山市の「若いミセス生活学校」（担当：滝村雅子代表）の活動の一環として遺伝子組換え農作物・食品についての勉強会を実施した。参加者は、同会の関係者20名と高山市生活学習課が一般に呼びかけて参加した4名、合計24名である。講義は、当該分野の研究者である蒲生恵美先生が「遺伝子組換え食品の安全・安心」と題して行い、その後「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



DNA抽出実験の様子 1



DNA抽出実験の様子 2

(7) コープかながわ(横浜区港北区)

- ① 日 時：平成20年9月10日（水）10:00～12:00
- ② 場 所：新横浜 金子第2ビル3F コープかながわ会議室（神奈川県横浜市）
- ③ 支援先：コープかながわ
- ④ 講 師：河野敏明 (社)農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：コープかながわの会員 26名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

参加者は、コープかながわ（担当：齋藤好江理事、岡田由美事務局長）の組合員および職員26名である。コープかながわは、食の安全・安心を標榜しているコープで、農作物の品種改良、バイオテクノロジーを判りやすく納得いく講座を受けたいという希望に添って、今回は「遺伝子組換え食品について」とりあげ、十分時間をかけて講義を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。コープかながわではすでに遺伝子組換えに関する勉強会を行っており、参加者は極めて熱心であった。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
 - パンフレット「Do you know?」、「Step up」
 - バイテク小事典
 - リーフレット「組換え食品判別実験」（実験説明用）
 - 「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演の様子



講演会場の様子

(8) 東海大学付属望洋高等学校(千葉県市原市)

- ① 日 時：平成20年9月16日（火）09:55～14:15
- ② 場 所：東海大学付属望洋高等学校（千葉県市原市）
- ③ 支援先：東海大学付属望洋高等学校
- ④ 講 師：橋本昭栄 NPO法人 国際生命科学協会
バイオテクノロジー部会長
河野敏明 (社)農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：同校3年生の選択科目“理科講座C”を選択している3クラス
合計73名（Aクラス31名、Bクラス21名、Cクラス21名）。
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：
東海大学付属望洋高等学校（担当：加藤 崇 理科教諭）3年生の選択科目・「理科講座C」の授業として3クラスで実施した。特別授業では「遺伝子組換え作物・食品とその安全性」ということで40分の講義と「遺伝子組換え農作物の判別」についてデモンストレーションを行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演の様子 1



講演の様子 2

(9) 熊本市消費者センター(熊本県熊本市)

- ① 日 時：平成20年9月22日（月）13:30～16:00
- ② 場 所：ウェルパルくまもと（熊本県熊本市）
- ③ 支援先：熊本市消費者センター
- ④ 講 師：橋本昭栄 NPO法人 国際生命科学協会
バイオテクノロジー部会長
- ⑤ 参加者：熊本市内の消費者団体および市民 56名
農林水産省九州農政局生産経営流通部農産課：1名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

熊本市消費者センター（担当：村田道勇主事、作本景子主任主事）が実施している“自立した主体性のある消費者”の育成を図る目的で市民および消費者団体に参加を呼びかけ56名が参加した。当日は「遺伝子組換え作物・食品とその安全性」についての講義と「遺伝子組換え農作物・食品の判別実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



会場の様子



意見交換の様子

(10) 松本市消費生活センター(長野県松本市)

- ① 日 時：平成20年10月1日（水）13:00～15:00
- ② 場 所：長野県松本消費生活センター（長野県松本市）
- ③ 支援先：長野県松本消費生活センター
- ④ 講 師：河野敏明 （社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：松本消費生活センターが実施している「消費生活大学」講座の受講者と一般参加者 合計61名
STAFF 3名
- ⑥ 概 要：

松本消費生活センター（保尊利生所長、担当：塩原美香主査）が実施している「消費生活大学」の一講座として“消費者問題に関する知識を習得し、地域のリーダーとして消費者活動の実践ができる者の養成を図る”目的で「遺伝子組換え作物・食品とその安全性」についての講義と「遺伝子組換え農作物・食品の判別実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講義の様子



意見交換の様子

(11) 千葉県野田市立第二中学校（千葉県野田市）

- ① 日 時：平成20年10月3日（金）10:30～14:45
- ② 場 所：千葉県野田市立第二中学校（千葉県野田市）
- ③ 支援先：千葉県野田市立第二中学校
- ④ 講 師：河野敏明（社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
高野博幸 同 上 主任調査役
- ⑤ 参加者：同校3年生の3クラス 合計110名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

千葉県野田市立第二中学校（加藤保夫校長、大保一成理科教諭、担当：勝田弘之同校理科指導助手兼地域教育コーディネーター、野田市教育委員会岡田晃次理科指導助手兼地域教育コーディネーター）3年生の“わくわく理科授業”として3クラスで実施した。授業は「DNAと遺伝子組換え技術の展望」ということで50分授業の中で30分を利用し「遺伝子、DNA研究が生活にどうかかわっているのか。」を中心に説明を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資料：パンフレット「Do you know?」、
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講義の様子 1



講義の様子 2

(12) 宮城県第二女子高等学校（宮城県仙台市）

- ① 日 時：平成20年10月11日（土）9:00～11:30
- ② 場 所：宮城県第二女子高等学校（宮城県仙台市）
- ③ 支援先：宮城県第二女子高等学校
- ④ 講 師：四方平和（独）農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター
研究リーダー
- ⑤ 参加者：同校1年生から3年生の参加希望者 合計35名
(1年生15名、2年生10名、3年生10名)
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：
宮城県第二女子高等学校（担当：菅原賢一生物教諭）の“生物の特別授業”として実施した。特別授業は1年生から3年生の参加者に「遺伝子組換え食品について」80分の講義と「遺伝子組換え農作物の判別方法」の原理を説明後、大豆および大豆加工食品を試料として用い、遺伝子組換え食品の判別実験を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、質疑応答およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット：「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット：「組換え食品判別実験」（実験説明用）、
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



意見交換会の様子



判別実験の様子

(13) 千葉県立長生高等学校（千葉県茂原市）

- ① 日 時：平成 20 年 10 月 20 日（月） 14:00 ~ 16:30
- ② 場 所：千葉県立長生高等学校（千葉県茂原市）
- ③ 支援先：千葉県立長生高等学校
- ④ 講 師：蒲生恵美 情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所 客員研究員
- ⑤ 参加者：同校 3 年生の「理科」選択者のうち、参加希望者 35 名
STAFF 2 名
- ⑥ 概 要：

千葉県立長生高等学校（担当：有原千香子理科教諭）の「特別授業」として実施した。特別授業は「理科」を選択している 3 年生の参加者に「遺伝子組換え食品に关心を持とう」ということで 60 分の講義と「遺伝子組換え農作物の判別方法」の原理を説明後、大豆および大豆加工食品を試料として用い、遺伝子組換え食品の判別実験を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、質疑応答およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。

- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品に关心を持とう」
 - パンフレット：「Do you know?」、「Step up」
 - バイテク小事典
 - リーフレット：「組換え食品判別実験」（実験説明用）、
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講義の様子



組換え食品判別実験の様子

(14) 千葉県立薬園台高等学校（千葉県船橋市）

- ① 日 時：平成 20 年 10 月 28 日（火）13:30 ~ 16:00
- ② 場 所：千葉県立薬園台高等学校（千葉県船橋市）
- ③ 支援先：千葉県立薬園台高等学校
- ④ 講 師：蒲生恵美 情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所 客員研究員
- ⑤ 参加者：同校園芸科 1 年生から 3 年生の参加希望者および普通科 3 年生の参加希望者 合計 36 名（1 年生 5 名、2 年生 8 名、3 年生 23 名）
STAFF：3 名
- ⑥ 概 要：
千葉県立薬園台高等学校（担当：高橋 始園芸科教諭）の「特別授業」として実施した。特別授業は 1 年生から 3 年生の参加者に「遺伝子組換え食品に关心を持つ」ということで 60 分の講義と「遺伝子と DNA について」の説明後、「プロッコリーからの DNA 抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、質疑応答、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品に关心を持つ」
パンフレット：「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット：「DNA 抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



意見交換の様子



DNA 抽出実験の様子

(15) 小田原食生活研究会（神奈川県小田原市）

- ① 日 時：平成20年11月8日（土）13:30～16:00
- ② 場 所：小田原市生涯学習センター（神奈川県小田原市）
- ③ 支援先：小田原食生活研究会
- ④ 講 師：四方平和（独）農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター
研究リーダー
- ⑤ 参加者：小田原食生活研究会の平成20年度例会として実施し、同研究会の
会員と一般参加者 合計34名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

神奈川県小田原市の「小田原食生活研究会」（鈴木益江会長）の平成20年度例会として遺伝子組換え農作物・食品についての勉強会を実施した。参加者は、同会会員と小田原市的一般消費者に参加を呼びかけ合計34名である。講義は、当該分野の研究者である四方平和氏が「遺伝子組換え食品について」と題して行い、その後「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット：「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）
ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」案内



講演会場の様子



ブロッコリーからのDNA
抽出実験の様子

(16) (独)農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所(山梨県甲府市)

- ① 日 時：平成20年11月14日（金）13:30～16:00
- ② 場 所：山梨県立男女共同参画推進センター ぴゅあ総合(山梨県甲府市)
- ③ 支援先：山梨県、農林水産省関東農政局山梨農政事務所、
(独)農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所
- ④ 講 師：大島正弘 (独)農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所 稲遺伝子技術研究チーム長
- ⑤ 参加者：「平成20年度食品リスク等情報共有化講習会」の「食の安全・安心を語る会」として参加募集し、一般参加者、行政担当者等
合計97名
STAFF 3名
- ⑥ 概 要：
(独)農林水産消費安全技術センター本部横浜事務所（高橋 寛所長）と
山梨県並びに農林水産省関東農政局山梨農政事務所の「平成20年度食品リ
スク等情報共有化講習会」の「食の安全・安心を語る会」として遺伝子組
換え農作物についての講習会を実施した。参加者は、山梨県の一般消費者、
生産者、行政担当者に参加を呼びかけ合計97名である。講演は、当該分野
の研究者である大島正弘氏が「遺伝子組換え農作物について」と題して行
った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、意見交換およびアンケ
ート調査を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
「バイテクハウス Mail news」（案内パンフレット）



講演の様子



意見交換会の様子

(17) 千葉県柏市立風早中学校(千葉県柏市)

- ① 日 時：平成20年11月19日（水）13:30～15:30
- ② 場 所：千葉県柏市立風早中学校（千葉県柏市）
- ③ 支援先：千葉県柏市立風早中学校
- ④ 講 師：河野 敏明（社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：同校3年生3クラス 合計95名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

千葉県柏市立風早中学校（石川 仁校長、担当：岡田智則理科教諭）3年生3クラス全員に実施した。授業は3年生全員（95名）に対し、講堂で「DNAと遺伝子組換え食品」ということで、遺伝子およびDNA研究が生活にどうかかわっているのか、について50分授業の中で説明を行った。その後、1クラスに対し「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。他の2クラスに対する実験は、岡田教諭が後日行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、質疑応答、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。

- ⑦ 資 料：パンフレット「Do you know?」
リーフレット「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウスM a i l n e w s」（案内パンフレット）
ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」案内



講演会場の様子 1



講演会場の様子 2

(18) 熊本県立南稜高等学校(熊本県球磨郡あさぎり町)

- ① 日 時：平成20年11月25日（火）10:40～12:30
- ② 場 所：熊本県立南稜高等学校（熊本県球磨郡あさぎり町）
- ③ 支援先：熊本県立南稜高等学校
- ④ 講 師：蒲生 恵美 情報セキュリティ大学院大学
セキュアシステム研究所 客員研究員
- ⑤ 参加者：同校3年生の選択科目「植物バイオテクノロジー」を選択している16名
STAFF：2名
- ⑥ 概 要：

熊本県立南稜高等学校（光岡 和隆校長、担当：中村哲司生活科学科教諭）3年生で「植物バイオテクノロジー」を選択している16名に実施した。授業では「遺伝子組換え食品に关心を持とう」ということで行った。その後、「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。実施に当たり、下記資料を配付すると共に質疑応答、意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット：「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウスMail news」（案内パンフレット）
ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」案内



講義の様子



DNA抽出実験の様子

(19) 食の安心・安全行動提起・実行グループ(神奈川県川崎市高津区)

- ① 日 時：平成20年12月3日（水）13:30～16:00
- ② 場 所：川崎市男女参画センター すくらむ21（神奈川県川崎市）
- ③ 支援先：Uzumaki 食の安心・安全行動提起・実行グループ
- ④ 講 師：河野敏明（社）農林水産先端技術産業振興センター
調査広報部 担当部長
- ⑤ 参加者：Uzumaki 食の安心・安全行動提起・実行グループのリーダー格6名
STAFF 1名
- ⑥ 概 要：

神奈川県川崎市の「Uzumaki 食の安心・安全行動提起・実行グループ」（山本善保代表）の企画により遺伝子組換え農作物・食品についての勉強会を実施した。参加者は、同グループ会員の中でリーダー格に参加を呼びかけ、合計6名であった。始めに「生き物って何だろう？」による解説の後「ブロッコリーからのDNA抽出実験」を行った。講義は「遺伝子組換え食品について」と題して行い、その後、質疑応答による意見交換およびアンケート調査（実施前および実施後）を実施した。実施に当たり、下記資料を配付した。この勉強会の後、リーダー格が一般の方に同じ資料を使って解説する予定とのことであった。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え食品について」、「生き物って何だろう？」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
リーフレット：「DNA抽出実験」（実験説明用）
「バイテクハウス Mai l news」（案内パンフレット）
ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」案内



ブロッコリーからのDNA抽出実験の様子

(20) 土浦保健所(茨城県稻敷郡阿見町)

- ① 日 時：平成21年2月4日（水）14:00～16:00
- ② 場 所：阿見町総合保険福祉会館（茨城県稻敷郡阿見町）
- ③ 支援先：茨城県土浦保健所
- ④ 講 師：田部井豊 （独）農業生物資源研究所
遺伝子組換え研究推進室長
- ⑤ 参加者：一般市民等 103名
オブザーバー ((独) 農業生物資源研究所) 2名
STAFF 2名
- ⑥ 概 要：

茨城県土浦保健所（大和慎一所長）主催、茨城県竜ヶ崎保健所、土浦食品衛生協会、STAFF後援で一般市民向けとして消費者、食品営業者および行政関係者などを対象に、「食の安全に関する意見交換会」の一環として「遺伝子組換え食品を考える」ということで実施した。初めに田部井講師が「遺伝子組換え農作物をめぐる世界の状況と我が国の選択は」ということで講演を行った後、大和土浦保健所長をコーディネーターに、4名のパネリスト（田部井室長、茨城大学農学部立川准教授、株篠崎屋水海道工場長嶋工場長、茨城県消費者団体連合会谷萩会長）によるパネルディスカッションと会場との質疑応答・意見交換が活発に行われた。実施に当たり、下記資料を配付すると共に、アンケート調査を実施した。
- ⑦ 資 料：講義資料「遺伝子組換え農作物をめぐる世界の状況と我が国の選択は」
パンフレット「Do you know?」、「Step up」
バイテク小事典
「バイテクハウスMail news」（案内パンフレット）
ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」案内



講義の様子



パネルディスカッションと
会場との意見交換の様子

3. 遺伝子組換え技術に関する説明資材等の提供

遺伝子組換え農作物に関する啓発活動として、「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you know?」、「遺伝子組換え農作物を知るために Step up」の2種類のパンフレットの内容を見直し、平成20年5月に改訂版を増刷し、平成21年3月に再度増刷を行った。また、「バイテク小事典」についても平成20年5月に増刷し、さらに再改訂を3月に行った。

連携コミュニケーションで使用する講義用資料についてもプレゼンテーション作成ソフトであるパワーポイントを用いて平成20年度版を作成した。

これらについてはコミュニケーション会場等で配布したほか、希望者に配布した。平成20年度(平成20年4月～平成21年2月)における配布状況は以下の通りである。

- ① 各方面からの要請に応じて、行政、高校・大学を中心とする学校、団体、企業などを対象に、基礎編リーフレット「知ってトクする！食べものまめ知識」、初級編パンフレット「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you know?」、中級編パンフレット「遺伝子組換え農作物を知るために Step up」、バイテク小事典、教材 DNAストラップキット等を頒布した。(平成20年4月から平成21年2月まで)
- ② 提供先：都道府県、市町村、高校・大学を中心とした学校、生協等の消費者団体、企業、関心を持った個人等252件。
- ③ 送付数：平成20年5月16日から平成21年2月まで
() 内は平成20年3月から平成21年2月まで
 - ・基礎編パンフレット「知ってトクする！食べものまめ知識」
----- 1,551部 (4,194部)
 - ・初級編パンフレット
・「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you know?」
----- 10,484部 (14,191部)
 - ・中級編パンフレット
・「遺伝子組換え農作物」を知るために Step up
----- 10,244部 (14,361部)
 - ・バイテク小事典
----- 8,163部 (11,775部)

パンフレット等の月別配布数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
Do you know?	3,011	995	2,878	1,279	718	1,669	1,333	461	420	871	436	14,071
力所数	46	14	18	20	17	23	23	8	6	13	11	199
Step up	3,341	741	1,568	1,179	638	1,429	1,521	2,186	292	830	436	14,161
力所数	49	13	17	26	17	23	24	12	6	13	11	211
バ イク小事典	3,051	527	1,340	869	736	1,341	1,536	726	357	661	411	11,555
力所数	50	10	16	21	14	21	26	10	8	12	10	198
まめ知識	2,153	697	533	22	216	155	47		200		1	4,024
力所数	37	8	4	2	6	3	5		1		1	67
ストラップ°	190	385	210	245	140	取止め	3					1,173
力所数	3	4	3	5	2		2					19
その他					2				1			3
力所数					2				1			3
実配布先	52	19	23	29	27	27	27	14	9	14	11	252

パンフレット等の対象別配布数

	大学短大・専門学校	中 学 ・ 高 等学校	生協・消費者団体	国・自治体	独立行政法人・企業	NPO・公益法人	その他	計
Do you know ?	2,437	2,431	560	3,693	3,003	882	1,065	14,071
力所数	33	32	12	42	30	18	32	199
Step up	2,742	1,960	610	3,143	3,438	1,182	1,086	14,161
力所数	37	35	14	41	30	19	35	211
バ イク小事典	1,930	1,411	610	3,422	2,000	927	1,255	11,555
力所数	27	31	14	42	32	15	37	198
まめ知識	884	806	50	712	1,138	314	120	4,024
力所数	16	10	1	12	10	6	12	67
ストラップ°	70	778	50	275				1,173
力所数	2	13	1	3				19
その他			2	1				3
力所数			2	1				3
実配布先	40	44	16	49	40	23	40	252

パンフレット等の地域別配布数

	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	計
Do you know?	431	790	8,361	371	484	1,718	1,010	906	14,071
カ所数	8	11	122	4	14	18	9	13	199
Step up	398	741	8,849	371	549	1,153	1,109	991	14,161
カ所数	8	13	126	4	15	17	12	16	211
バ イク 小事典	323	656	7,054	361	409	1,116	695	941	11,555
カ所数	8	10	119	4	13	19	10	15	198
まめ知識	37	402	2,421	1	141	797	100	125	4,024
カ所数	3	3	39	1	5	10	2	4	67
ストラップ°	50	145	748	40	50	140			1,173
カ所数	1	3	11	1	1	2			19
その他			1	2					3
カ所数			1	2					3
実配布先	10	14	152	4	17	25	13	17	252

4. アンケート調査結果のまとめ

1) コミュニケーション及び配布資料のアンケート調査結果

(1) アンケート調査結果の概要

① 大規模コミュニケーション

ア 盛岡と福岡の2カ所、参加者合計306人、男女比7対3、参加者30～50歳代が71%、アンケート回収率85%。行政、研究者、学識経験者、マスコミ等から情報提供を行った後、行政以外の情報提供者と消費者、農業経営者を加えた方々によるパネルディスカッションを行った後、参加者からの質問にも回答を行った。また、休憩時間には、「DNA抽出実験」を参加者に体験して貰った。

イ 情報提供に対し、「とても適切」あるいは「適切だった」との回答は、両会場ともほぼ90%であった。

ウ 意見交換に対する応答は「とても適切」あるいは「適切だった」との回答は盛岡85%で、福岡88%で、両会場合わせた合計では87%であった。

エ コミュニケーションに対し、「評価する」あるいは「おおむね評価する」との回答は、両会場とも90%以上であった。

オ コミュニケーションは「有益だった」あるいは「ある程度有益だった」との回答は、盛岡92%、福岡95%で、両会場合わせた合計では94%であった。

カ GMOに対し、「理解が深まった」との回答は、盛岡71%、福岡76%で、両会場合わせた合計では74%であった。

キ アンケートのコメントは以下のとおり。

- ・このようなコミュニケーション活動をもっと活発に行った方がよい。
- ・このような機会を早く設けて欲しかった。
- ・安全性に対し理解をして貰おうという国の姿勢が不足しているのではないか。
- ・盛岡会場：反対のための反対意見を聞くために来たのではないとのコメントがあった。
- ・福岡会場：反対側のパネリストを加えなかったことに対し不満が多少みられた。

② 小規模コミュニケーション

ア 11カ所実施、参加者合計353人、男女比1対9、参加者50～70歳代が69%、アンケート回収率92%(1カ所欠落)。

「DNA抽出実験」と農林水産省からの情報提供の後、数グループに分かれデルファイ法で参加者全員から質問・意見を集め、グループ内で質問の順位付けを行い、上位の質問に対して行政から回答を行った。未回答質問に関しては、後日、書面で回答した。

イ 情報提供に対し、「とても適切」あるいは「適切だった」との回答は、ほとんどが80%以上、全体では85%であった。

ウ 意見交換に対する応答は「とても適切」あるいは「適切だった」などの回答で、最も低いところで54%、全体では76%であった。

エ コミュニケーションに対し、「評価する」あるいは「おおむね評価する」との回答で、最も低かったのは49%、全体では80%であった。

オ コミュニケーションは「有益だった」あるいは「ある程度有益だった」との回答で、最も低かったのは57%で、全体では84%であった。

カ 「GMOに対する理解が深まった」との回答は、2カ所が36%と低かったが、他は60%以上で、全体でも66%であった。

キ 質問でもっとも多かったのは食品としての安全性、次いで表示に関する事であった。

ク 生物多様性・環境安全性についての質問は、多分、GMOに関する勉強を行い、知識を持ったグループからと考えられる。

ケ その他、日本におけるGMOの利用、研究開発の現状に対する質問等があり、GMOと関係ない質問もかなりあった。

③ 連携コミュニケーション

ア 20カ所、参加者合計942人、男女比4対6、参加者は中学生から70歳代までで、「DNA抽出実験」あるいは「組換え判別実験」と講義を組合わせて行った。アンケート回収率は事前95%、事後85%であった。

イ GMOを輸入し食品に利用していることを知っていたのは、中・高校生が45%以下、年齢層が上がるに従って知っている人の比率は増大、全体では59%であった。

ウ GMOは「安全」あるいは「多分安全」と回答した比率は、全体で事前33%、事後73%と急増しており、特に一般(一般市民)が事前(19%)と事後(65%)の差が顕著で、中・高生では事後が約80%であった。

エ GMO・GM技術は日本の国民あるいは産業にとって「必要」あるいは「多分必要」との回答は、両者共ほとんど同程度で、全体で事前50%強、事後80%弱、属性別では事前・事後共に高校生が最も高く、次いで中学生、一般の順であった。

カ GMOを国内で商業栽培することに対し、「賛成」あるいは「どちらかと

いえば賛成」との回答は、全体で事前33%、事後54%で、属性別では事前・事後共に高校生が最も高く、次いで中学生、一般の順であった。特に一般は事前22%、事後33%とかなり低かった。

キ GMOに関する正しい情報をもっと早く知りたかったというコメントが多くかった。

ク また、安全性に対する不安がコメントに比較的多く、中・高校生では事後のアンケートにGMOに対し、好意的なコメントが多く寄せられた。

④ 配布資料に対するアンケート調査について（III-4-4）

ア 配布先でもっとも多かったのは国・自治体(49カ所)、次いで中学・高校(同44)、大学・短大・専門学校(40)、独法・公益法人(40)、N P O ・ 法人(23)、生協・消費者団体(16)の順であった。

イ 配布地域としては関東がもっとも多く152カ所、他の地域は4～25カ所であった。

ウ 配布資料に対するアンケートの回収率は低調で、全体の配布252カ所に対して、回答を得たのは12カ所である。

エ 回答を得たのは小規模コミュニケーションを行った場所がほとんどで、コミュニケーション終了後に配布資料を見て回答して貰った。

オ 配布資料に対し、「わかり易かった」との回答は全体で78%であった。

カ また、「役に立った」あるいは「ある程度役に立った」との回答は全体で83%であった。

キ GMOに対する「理解が深まった」あるいは「ある程度理解が深まった」との回答は全体で79%であった。

ク 配布時にアンケートを依頼したが、アンケートの回収を上げるための工夫が必要である。

（2）参加者からの意見

次年度以降のコミュニケーション活動の参考に資するため、平成20年度にSTAFFが実施した33カ所、参加者1,601名のコミュニケーションにおけるアンケート結果の自由記載による意見の中から、コミュニケーション活動の必要性、対象、内容などの意見を以下の表にまとめた。

コミュニケーション活動については、規模・形式にかかわらず必要性、重要性を認める意見が数多くあり、否定的な意見は皆無であった。加えて、GMO関係の情報提供・広報活動についても同じ結果であった。コミュニケーション、情報提供の対象としては、消費者・関係者はもちろんであるが、影響力の

大きいマスメディア、教育現場への情報提供・活用の必要性、重要性を言う意見が次に多く出ていた。その他、メディエーター、ファシリテーター機能に注目した意見、コミュニケーション内容としてGMO関係の表示に関する内容が必要との意見があった。

各コミュニケーションにおける具体的意見の内容については下記の表に示した。

平成 20 年度のコミュニケーションにおける参加者からの
コミュニケーション活動の必要性、対象、内容等の意見のまとめ

	大規模コミュニケーション 2カ所 306名	小規模コミュニケーション 11カ所 353名	連携コミュニケーション 20カ所 942名	合計 意見 数(件)
コミュニケーションの必要性	24	9	13	46
GMO情報開示・広報活動の必要性	21	11	20	52
マスメディアへの情報提供・活用の必要性	9	1	9	19
教育現場・関係者への情報提供の必要性	2	3	13	18
メディエーター、ファシリテーターの育成・活用	0	1	3	4
表示関係の要望	7	1	1	9
パネリスト、情報提供者に関する意見	25	0	0	25
合計意見数(件)	88	26	59	173

2) 大規模及び小規模コミュニケーションにおけるアンケート調査

(1) アンケート調査票

遺伝子組換え農作物に関するイベント参加者の皆様へ

平成20年 月 日
農林水産省

本日はお忙しい中、参加いただき、誠にありがとうございます。

本イベントに参加いただいた方を対象にアンケート調査を実施させていただき、その結果を今後の遺伝子組換えに関するイベント全般の改善に活用させていただきたいと考えているところです。

については、お忙しいところ、お手数をお掛けして大変申し訳ありませんが、以下の設問にお答えいただき、本イベント終了後、会場受付に設置している回収ボックスに投函いただきますようご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

問1 あなた自身のことなどについてお聞きします。

それぞれ、あてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

① 性別

1 男性 2 女性

② 年齢

1 20歳未満	2 20歳代	3 30歳代	4 40歳代
5 50歳以上	6 60歳代	7 70歳代	8 89歳以上

③ 職業

1 主婦、学生、無職	2 農林漁業者	3 農林水産業関係団体
4 食品製造関連会社	5 マスコミ	6 行政（地方公共団体等）
7 試験研究・教育機関	8 その他（具体的： ）	

④ 本日のイベントの開催を何を通じて知りましたか。（主なもの1つ）

1 農林水産省のホームページ	2 農林水産省からの案内資料
3 関係団体からの御案内資料	4 知人からの紹介
5 その他（具体的： ）	

⑤ 本日のイベントに参加した動機は（主なもの1つ）

1 遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物全般に関心があるため
2 日本国内における研究開発の状況に関心があるため
3 パネルディスカッションに関心があるため
4 業務上関心があるため
5 その他（動機： ）

裏面へ

問2 本日のイベントに参加した感想についてお聞かせください。

以下の設問について、それぞれ、あてはまるところを○で囲んでください。

① 配付資料

1 とても適切だった 2 適切だった 3 あまり適切ではない
4 全く適切ではない (理由 :)

② 情報提供の内容

1 とても適切だった 2 適切だった 3 あまり適切ではない
4 全く適切ではない (理由 :)

③ 意見交換の応答

1 とても適切だった 2 適切だった 3 あまり適切ではない
4 全く適切ではない (理由 :)

④ 本イベント全体

1 評価する
2 全く評価しない (理由 :)

問3 本日のイベントは、あなたにとって有益な機会となりましたか。

以下の設問について、それぞれ、あてはまるところを○で囲んでください。

1 とても有益だった 2 ある程度有益だった 3 あまり有益でなかった
4 全く有益でなかった (理由 :)

問4 本日のイベントに参加する前に比べて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え

農作物に関する理解は深まったと思いますか。

以下の設問について、それぞれ、あてはまるところを○で囲んでください。

1 理解が深まった 2 変わらない 3 ますますわからなくなつた

問5 今後の国内における遺伝子組換え農作物の研究開発や栽培利用について、御意見

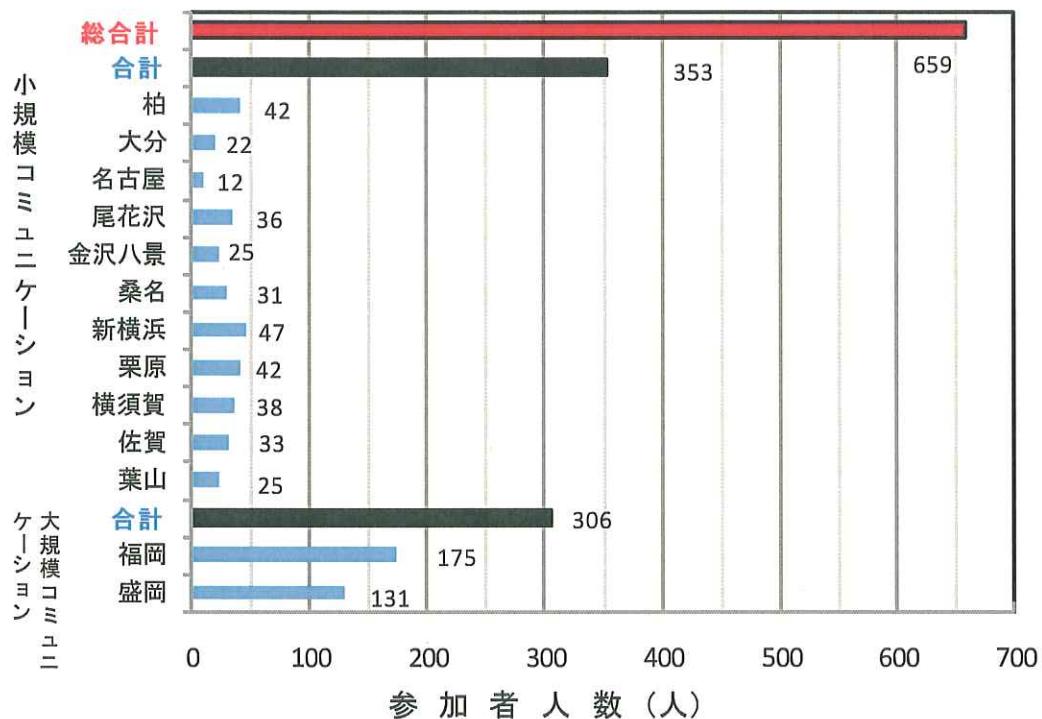
や御感想等ございましたら、ご自由に御記入下さい。

問6 本日のイベントについて、御意見や御感想等ございましたら、ご自由に御記入下さい。

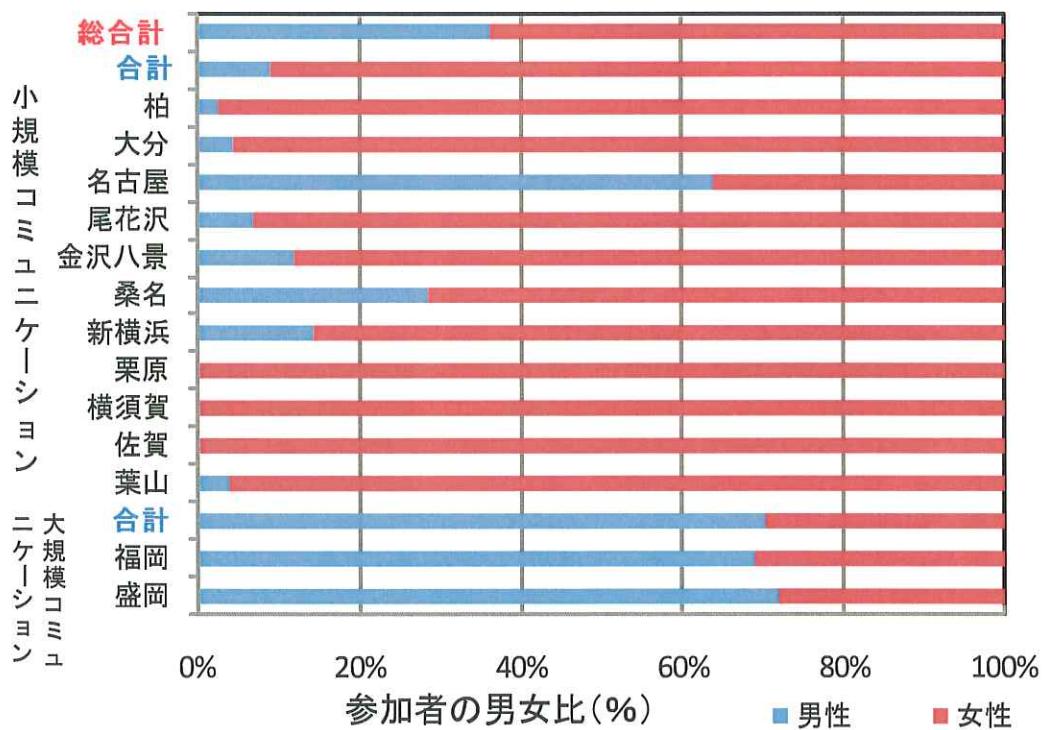
御協力ありがとうございました。

(2) アンケート調査結果

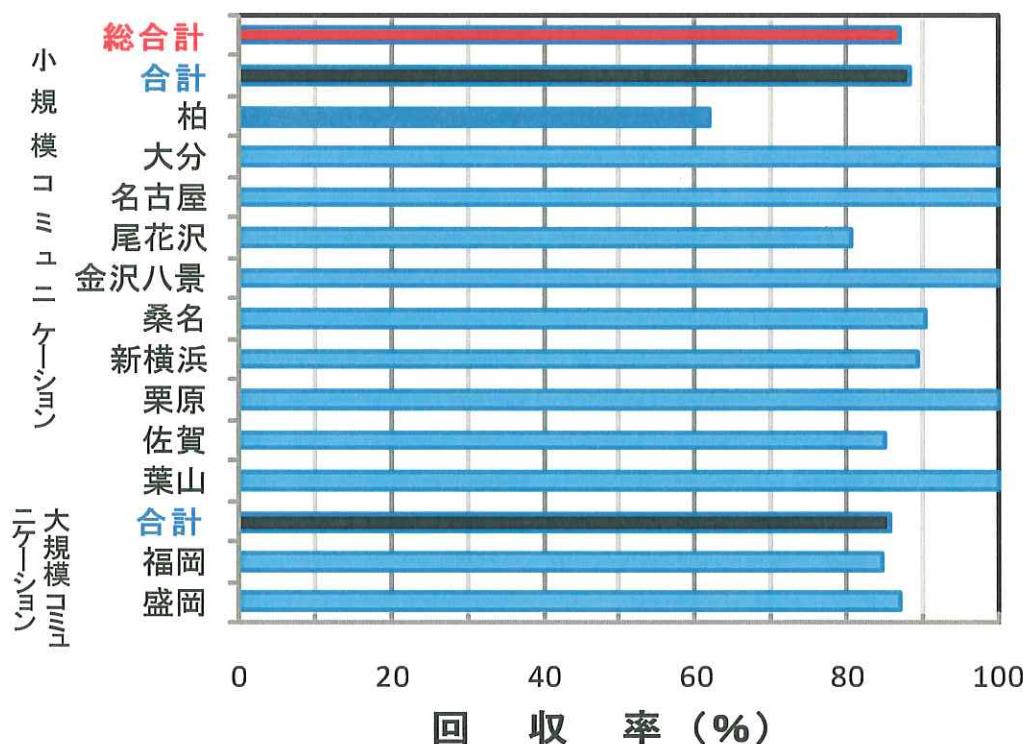
① 各コミュニケーションへの参加者数(人数)



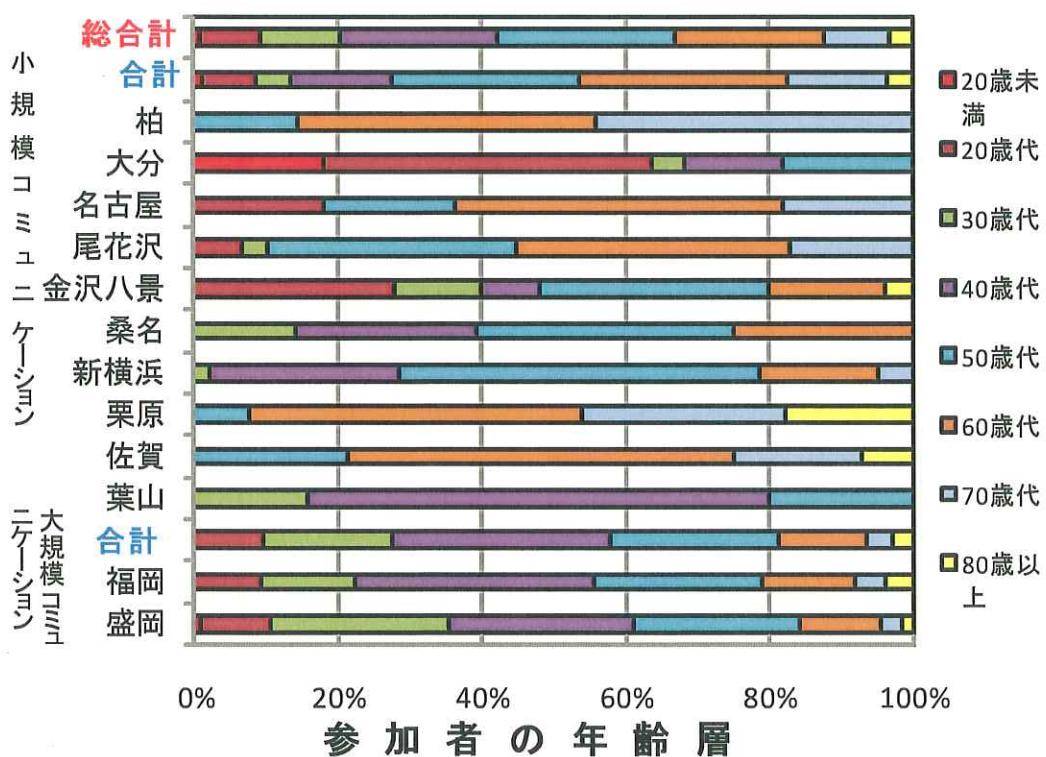
② 参加者の男女比率



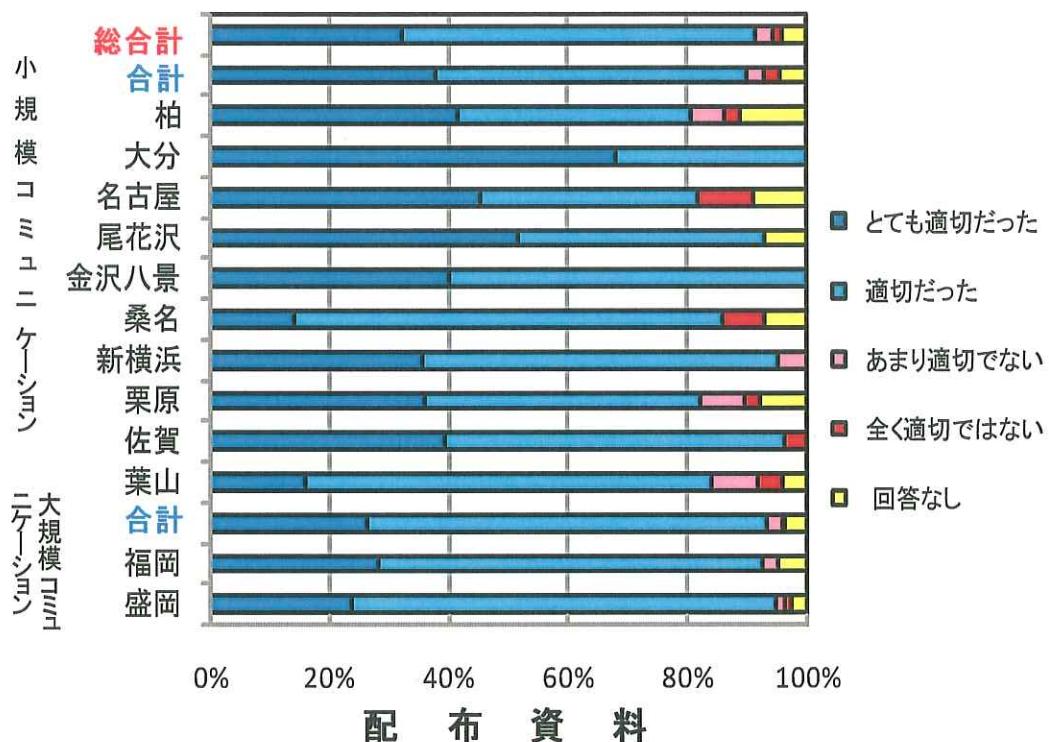
③ アンケートの回収率



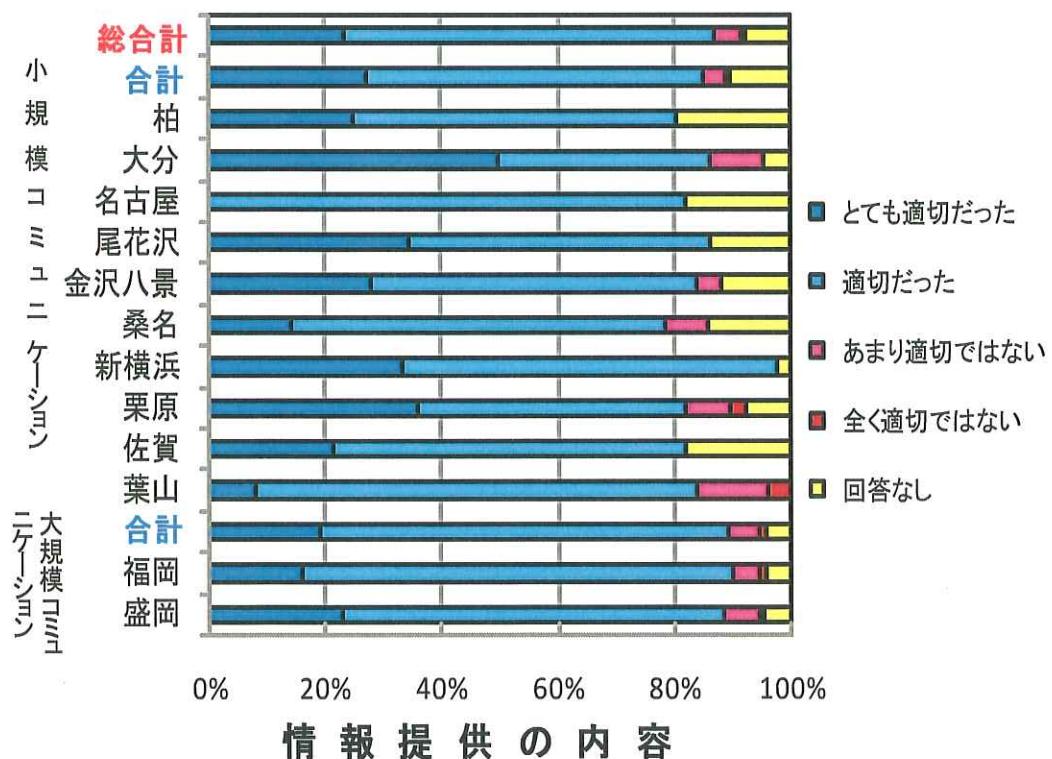
④ 参加者の年齢層



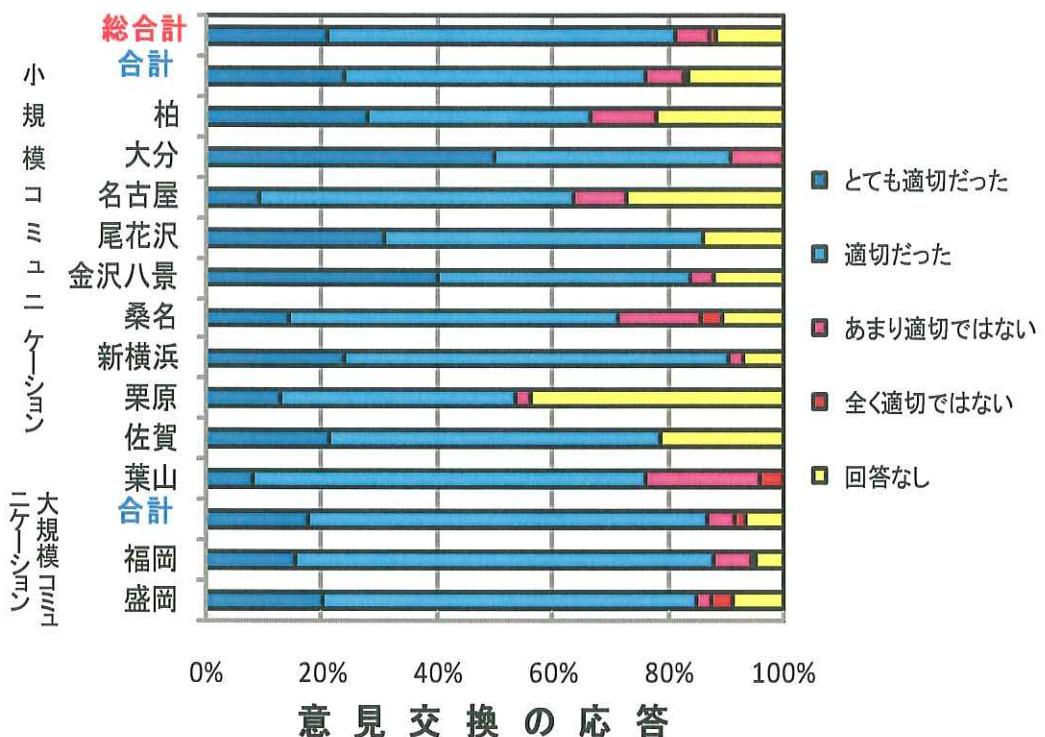
⑤ 当日の配布資料について



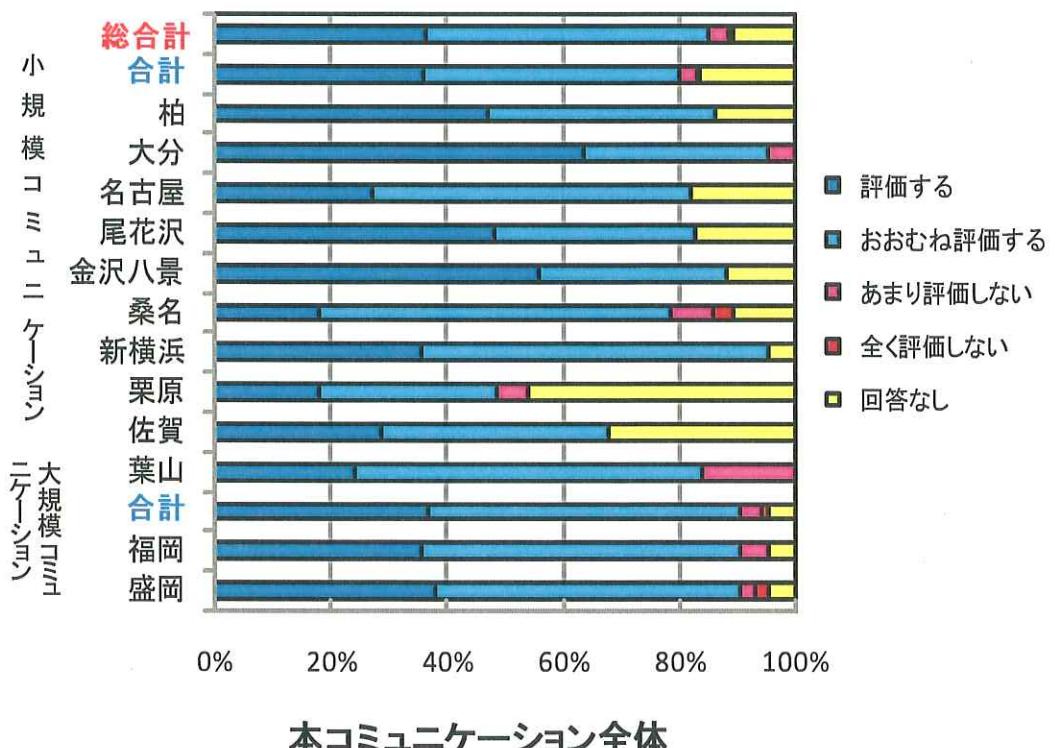
⑥ 情報提供の内容について



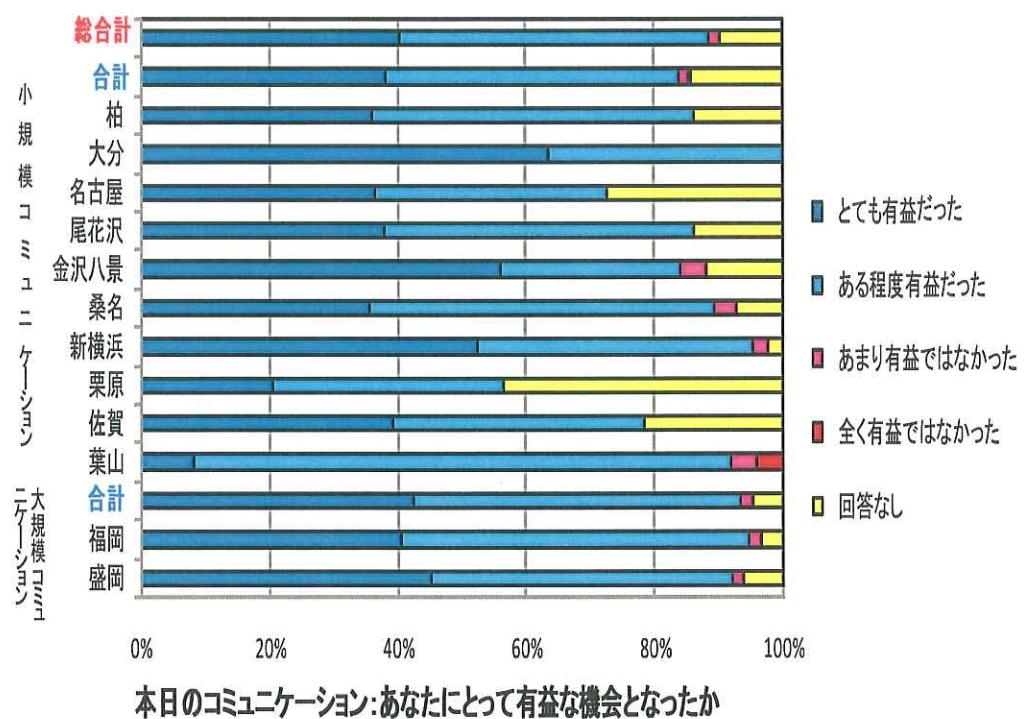
⑦ 意見交換の応答について



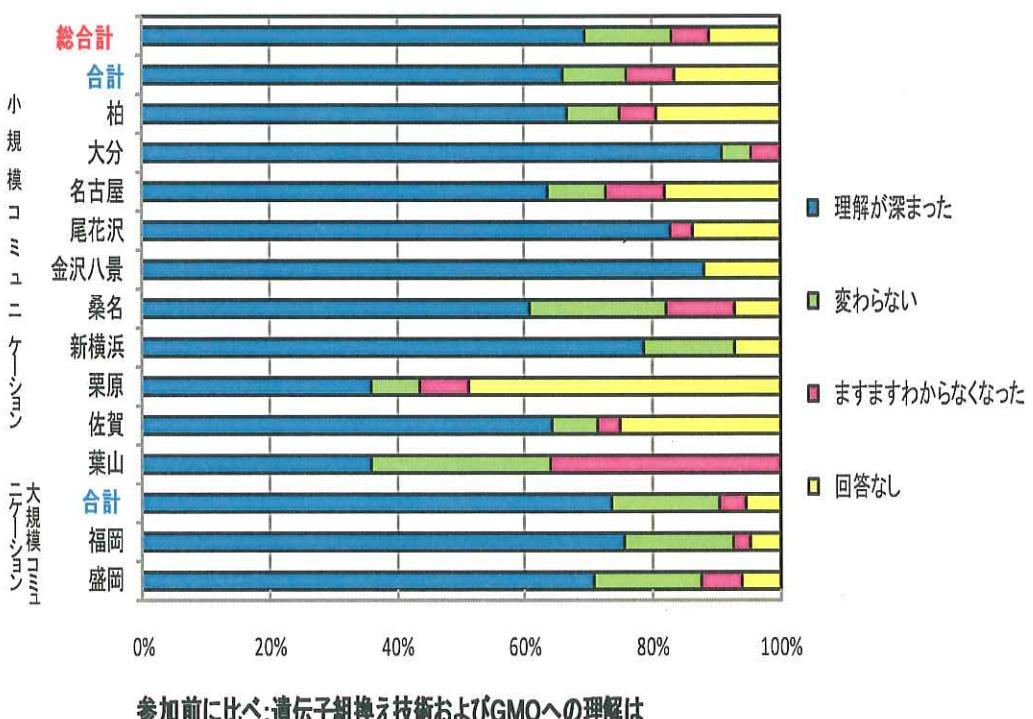
⑧ 本コミュニケーション全体について



⑨ 本日のコミュニケーションは、あなたにとって有益な機会となりましたか。



⑩ 本日のコミュニケーションに参加する前に比べて遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物に関する理解は深まったと思いますか。



⑪ あなたの職業は。

	大 規 模 コ ミ			小 規 模 コ ミ ュ ニ ケ 一 シ ョ ン										総 合 計		
	盛 岡	福 岡	合 計	葉 山	佐 賀	栗 原	新 横 浜	桑 名	金 沢	尾 花 八 景	名 古 屋	大 分	柏			
人 数 (人)																
1 学 生	7		7					15	8			16		39	46	
2 農林漁業者	8	4	12		1	1				4				6	18	
3 農林水産業 関係団体	2	11	13											0	13	
4 食品製造関 連会社	17	47	64						1		1			2	66	
5 行政(地方公 共団体等)	28	35	63					9		5	1	4		19	82	
6 試験研究・ 教育機関	25	11	36						12			2		14	50	
7 主 婦	6	10	16		23	38	29		2	19	9		33	153	169	
8 無 職	11	2	13												13	
9 その他	9	26	35	25	3		13	3	2				1	47	82	
10 回答なし		2	2		1			1		1			2	5	7	
	計	113	148	261	25	28	39	42	28	25	29	11	22	36	285	546
比 率 (%)																
1 学 生	6		3					54	32			73		14	8	
2 農林漁業者	7	3	5		4	3				14				2	3	
3 農林水産業 関係団体	2	7	5												2	
4 食品製造関 連会社	15	32	25						4		9			1	12	
5 行政(地方公 共団体等)	25	24	24					32		17	9	18		7	15	
6 試験研究・ 教育機関	22	7	14						48	0		9		5	9	
7 主 婦	5	7	6		82	97	69		8	66	82		92	54	31	
8 無 職	10	1	5												2	
9 その他	8	18	13	10	11		31	11	8				3	16	15	
10 回答なし		1	1		4			4		3			6	2	1	
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

⑫ 本日のコミュニケーションの開催を何によって知りましたか。

	大 規 模 コ ミ			小 規 模 コ ミ ュ ニ ケ 一 シ ョ ン										総 合 計		
	盛 岡	福 岡	合 計	葉 山	佐 賀	栗 原	新 横 浜	桑 名	金 沢 八 景	尾 花 沢	名 古 屋	大 分	柏	合 計		
	人 数 (人)															
1 農林水産省 のHP	11	20	31				1		1					2	33	
2 農林水産省か らの案内資料	49	62	111			2		6	1	4		2		15	126	
3 関係団体か らの案内資料	30	33	63		22	28	23	14	10	20	3	2	20	142	205	
4 知人から の紹介	13	15	28			5		3	4	2	3	6	2	25	53	
5 その他	10	18	28	25	6	4	18	5	9	3	5	12	14	101	129	
	計	113	148	261	25	28	39	42	28	25	29	11	22	36	285	546
比 率 (%)																
1 農林水産省 のHP	10	14	12				2		4					1	6	
2 農林水産省か らの案内資料	43	42	43			5		21	4	14		9		5	23	
3 関係団体か らの案内資料	27	22	24		79	72	55	50	40	69	27	9	56	50	38	
4 知人から の紹介	12	10	11			13		11	16	7	27	27	6	9	10	
5 その他	9	12	11	100	21	10	43	18	36	10	45	55	39	35	24	
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

(13) 本日のコミュニケーションに参加した動機は。

	大 規 模 コ ミ			小 規 模 コ ミ ュ ニ ケ 一 シ ョ ン										総 合 計		
	盛 岡	福 岡	合 計	葉 山	佐 賀	栗 原	新 横 浜	桑 名	金 沢	尾 花 沢	名 古 屋	大 分	柏			
人 数 (人)																
1	遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物全般に 関心があるため	40	58	98	1	18	27	19	19	13	21	8	15	31	172	270
2	日本国内における研究開発の状況に 関心があるため	10	8	18		3	1	1		2	2				9	27
3	パネルディスカッションに 関心があるため	13	5	18				3							3	21
4	業務上関心があるため	46	66	112	2			10	5	4	4		2		27	139
5	その他	3	9	12	21	5	6	6	4	5	2	3	5	1	58	70
6	回答なし	1	2	3	1	2	5	3		1				4	16	19
	計	113	148	261	25	28	39	42	28	25	29	11	22	36	285	546
比 率 (%)																
1	遺伝子組換え技術、遺伝子組換え農作物全般に 関心があるため	35	39	38	4	64	69	45	68	52	72	73	68	86	60	49
2	日本国内における研究開発の状況に 関心があるため	9	5	7		11	3	2		8	7				3	5
3	パネルディスカッションに 関心があるため	12	3	7				7							1	4
4	業務上関心があるため	41	45	43	8			24	18	16	14		9		9	25
5	その他	3	6	5	84	18	15	14	14	20	7	27	23	3	20	13
6	回答なし	1	1	1	4	7	13	7		4				11	6	3
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(3) 小規模コミュニケーションにおける参加者からの主要な質問・意見

① 葉山町：葉山町保育園・教育総合センター

葉山町小学校の管理栄養士、給食調理員：参加者 25名

アンケート回答：25名（女性24名、男性1名）

年齢層：30歳代15%、40歳代65%、50歳代20%

意見・質問

・学校給食では県をあげて遺伝子組換えでないものを使用するようにしている。

今日の話でこれだけ安全だというのにどうして使わないので。

（葉山町教育委員会学校教育課からの回答：

100%安全でないものは使えない）

（安全性について）

- ・遺伝子組換え農作物・食品は安全が保証されているのか。
- ・遺伝子組換え食品を食べ続けると身体に悪いものが蓄積されないか。
- ・遺伝子組換え食品を食べ続けても子孫に影響はないか。
- ・アレルギーの増加と関係はないか。

② 佐賀県：佐賀県婦人会館

佐賀県地域婦人連絡協議会会員：参加者 33名（女性）

アンケート回答：28名（女性）

年齢層：50歳代20%、60歳代55%、70歳代20%

意見・質問

（安全性について）

- ・遺伝子組換え農作物・食品の安全性は。
- ・遺伝子組換え食品がアレルギーの原因とならないか。
(表示について)
- ・表示で「遺伝子組換えを使用していません」と書く意味は。
危険だからではないか。

③ 横須賀市：横須賀市総合福祉会館

横須賀市消費生活研究会会員：参加者 38名（女性）

年齢層50～70歳代

意見・質問

（安全性について）

- ・長期的視点からの安全性について。
(表示について)
- ・表示の考え方と仕組みを知りたい。

④ 栗原市：栗原市若柳多目的研修センター

栗原市 消費者の会若柳支部、食生活改善推進連絡協議会若柳分会、
若柳婦人会会員：参加者 42名（女性）

アンケート回答：39名（女性）

年齢層：60歳代45%、70歳代30%、70歳代20%

意見・質問

（安全性について）

- ・遺伝子組換え農作物・食品は本当に安全か。
(表示について)
- ・表示で「遺伝子組換えを使用していません」と書く意味は。
(国内での遺伝子組換え農作物の研究について)
- ・国内向けの実用品種はいつ頃できるのか。

⑤ 横浜市：コープ会館

コープかながわ職員、理事および組合員：参加者 47名

アンケート回答：42名（女性36名、男性6名）

年齢層：40歳代25%、50歳代50%、60・70歳代20%

意見・質問

（安全性について）

- ・遺伝子組換え農作物・食品の食品としての安全性について。
- ・環境・生物多様性への影響は大丈夫なのか。
(表示について)
- ・不分別と遺伝子組換えでないという表示について。
(国内での遺伝子組換え農作物の研究について)
- ・研究開発の現状を教えてください。
(情報提供について)
- ・国民への情報提供や意見交換のための説明会についての考え方。

⑥ 桑名市：三重県桑名庁舎

桑名地域食の安全・安心地域リーダー：参加者 31名

アンケート回答：28名（女性20名、男性8名）

年齢層：30歳代15%、40歳代25%、50歳代35%、60歳代25%

意見・質問

（安全性について）

- ・遺伝子組換え食品を食べ続けても大丈夫か。

- ・自然界、環境の影響はどうか。

（表示について）

- ・表示で「遺伝子組換えを使用していません」と書くのは危険だからではないか。

（遺伝子組換えについて）

- ・遺伝子組換え農作物を開発するメリットはなにか。

- ・種の異なる遺伝子を挿入しても大丈夫なのか。

⑦ 金沢八景：関東学院大学 人間環境学部

神奈川県栄養士会教育研究協議会会員、

関東学院大学健康栄養学科 学生：参加者 25名

アンケート回答：25名（女性22名、男性3名）

年齢層：20歳代約30%、30、40歳代20%、50歳代30%、60歳代15%

意見・質問

（表示について）

- ・「遺伝子組換えを使用していません」という意味は、安全ですと言うことで良いか。

- ・表示義務の必要性の判断基準は。

（研究開発について）

- ・研究開発を推進する前に、食料の無駄をなくすなどやることがあるので

は。

- ・優先すべき事なのか。

- ・痩せる食品やアレルギーレスの農作物の開発を希望する。

⑧ 尾花沢：尾花沢市保健センター

尾花沢食生活改善推進員ほか：参加者 36名

アンケート回答：29名（女性27名、男性2名）

年齢層：50歳代35%、60次第約40%、70歳代約20%

意見・質問

(安全性について)

- ・遺伝子組換え食品を食べ続けても大丈夫か。
- ・輸入されている遺伝子組換え農作物の安全性のチェックは。
(表示について)
 - ・遺伝子組換えは役立つ技術なのに、何故「遺伝子組換えでない」、「遺伝子組換えである」といった表示をするのか。再考願いたい。
- ・研究開発について
 - ・魚の遺伝子組換え研究は。
- ・その他
 - ・自給率との関係は。

⑨ 名古屋：名古屋市環境学習センター

名古屋環境大学共育講座受講者：参加者 12名

アンケート回答：11名（女性4名、男性7名）

年齢層：20歳代18%、50歳代18%、60歳代45%、70歳代18%

意見・質問

(安全性について)

- ・港でタネがこぼれることで固有種や在来種が侵されないか。
(遺伝子組換え農作物について)
- ・政府の方針と総合科学技術会議の提言について教えて欲しい。
- ・メリットとデメリットを教えて。
- ・国内栽培で自給率が上がると言うが、他の方法で自給率アップは可能か。
- ・米国企業に独占されているが、経済戦争のネタにされないか。
- ・自家採種はできないのか。

⑩ 大分市：大分市市民活動・消費生活センター

消費生活相談窓口の相談員、高校・大学の家庭科の教師、学生：

参加者 22名

アンケート回答：22名（女性21名、男性1名）

年齢層：20歳未満18%、20歳代45%、30、40歳代19%、50歳代18%

意見・質問

(安全性について)

- ・健康や環境に想定外の影響が出ないとも限らないと思う。本当に大丈夫か。

- ・複数の遺伝子を挿入した場合、安全性が低下することはないか。
(遺伝子組換え農作物について)
- ・豆腐や納豆に遺伝子組換え大豆が使われていないのは何故か。

⑪ 柏市：柏市消費生活センター

柏生活クラブ、柏消費者の会、他：参加者 42名

アンケート回答：36名（女性35名、男性1名）

年齢層：40歳代15%、50歳代25%、60歳代30%、70歳代15%

意見・質問

（安全性について）

- ・遺伝子組換え農作物・食品から挿入した遺伝子が体内に入っても大丈夫か。
蓄積して身体に悪いことが起こらないか。
- ・企業から提出された安全性評価結果で審査するのは問題ではないか。
(表示について)
- ・表示の意味とルールについて。
(その他)
- ・今大事なのは食の安全保障、自給率向上であり、遺伝組換えがその解決策ということではないと思うが。

3) 連携コミュニケーションにおけるアンケート調査結果

(1) アンケート調査票

平成 年 月 日

連携コミュニケーション出前講座・実験 事前アンケート

本日のバイオテクノロジー出前講座を始める前にあなたの感想・意見をお聞かせ下さい。

- あなたは遺伝子組換え農作物・食品について、どのように思いますか?
ア. 安全と思う イ. どちらかといえば安全だと思う
ウ. 多分安全でないと思う エ. 安全でないと思う オ. わからない
- あなたは遺伝子組換え作物・食品について正しい知識を持っている自信はありますか?
ア. ある イ. どちらかといえばある ウ. どちらかといえばない エ. ない
- あなたは遺伝子組換え農作物と技術は、日本国民にとって必要と考えますか?
ア. 必要 イ. どちらかといえば必要
ウ. どちらかといえば必要でない エ. 必要でない オ. わからない
- あなたは遺伝子組換え農作物と技術は、日本の産業にとって必要と考えますか?
ア. 必要 イ. どちらかといえば必要
ウ. どちらかといえば必要でない エ. 必要でない オ. わからない
- 現在、日本では遺伝子組換え農作物の商業栽培はされていませんが、あなたは、日本で商業栽培することに関してどのようにお考えですか?
ア. 賛成 イ. どちらかといえば賛成
ウ. どちらかといえば反対 エ. 反対 オ. わからない
- あなたに関して教えてください。(中、高、大学生向け)
年齢 () 歳、 学年 () 年、
教師(年齢 歳、 担当教科:)、 性別 (男、 女)
又は
- あなたに関して教えてください。(一般向け)
性別 男 女
年齢 20歳未満 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上
職業 学生(小、中、高、大)、農林漁業者 農林水産関係団体 食品製造加工業
食品流通業 行政 バイオテク関連企業 試験研究機関 教育機関
管理栄養士 栄養士 調理士 薬剤師 マスコミ関係 主婦
その他(具体的に)

ご協力ありがとうございます、このあとのアンケートにもご協力をお願いします。
(社)農林水産先端技術産業振興センター

連携コミュニケーション出前講座事後アンケート

本日のバイオテクノロジー出前講座についての感想・意見などをお聞かせください。

1. 今日の講演「遺伝子組換え食品について」は分かり易かったでしょうか?
ア. 分かりやすかった イ. どちらかといえば分かった
ウ. どちらかといえば分からなかった エ. 分からなかった
2. あなたは遺伝子組換え作物が日本に大量に輸入され、飼料・食品等に利用されていましたことを知っていましたか?
ア. はい（知っている） イ. いいえ（知らない）
3. 遺伝子組換え作物・食品について、どのように感じましたか?
ア. 安全である イ. どちらかといえば安全
ウ. どちらかといえば安全でない エ. 安全でない オ. 分からない
4. あなたは遺伝子組換え農作物と技術は、日本国民にとって必要と考えますか?
ア. 必要 イ. どちらかといえば必要
ウ. どちらかといえば必要でない エ. 必要でない オ. 分からない
5. あなたは遺伝子組換え農作物と技術は、日本の産業にとって必要と考えますか?
ア. 必要 イ. どちらかといえば必要
ウ. どちらかといえば必要でない エ. 必要でない オ. 分からない
6. 現在、日本では遺伝子組換え農作物の商業栽培はされていません。あなたは、日本で商業栽培することに関してどのようにお考えですか?
ア. 賛成 イ. どちらかといえば賛成
ウ. どちらかといえば反対 エ. 反対 オ. 分からない
7. 本日の講演をお聞きになり、遺伝子組換え農作物に関する感想をお聞かせ下さい。

8. あなたについて教えてください。（中、高、大学生向け）
年齢（　　）歳、学年（　　）年、教師（　　歳、担当教科：　　）、性別（男、女）
又は
8. あなたについて教えてください。（一般向け）
性別 男 女
年齢 20歳未満 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上
職業 学生 農林漁業者 農林水産関係団体 食品製造加工業 食品流通業 行政
バイテク関連企業 試験研究機関 教育機関 管理栄養士 調理士 薬剤師

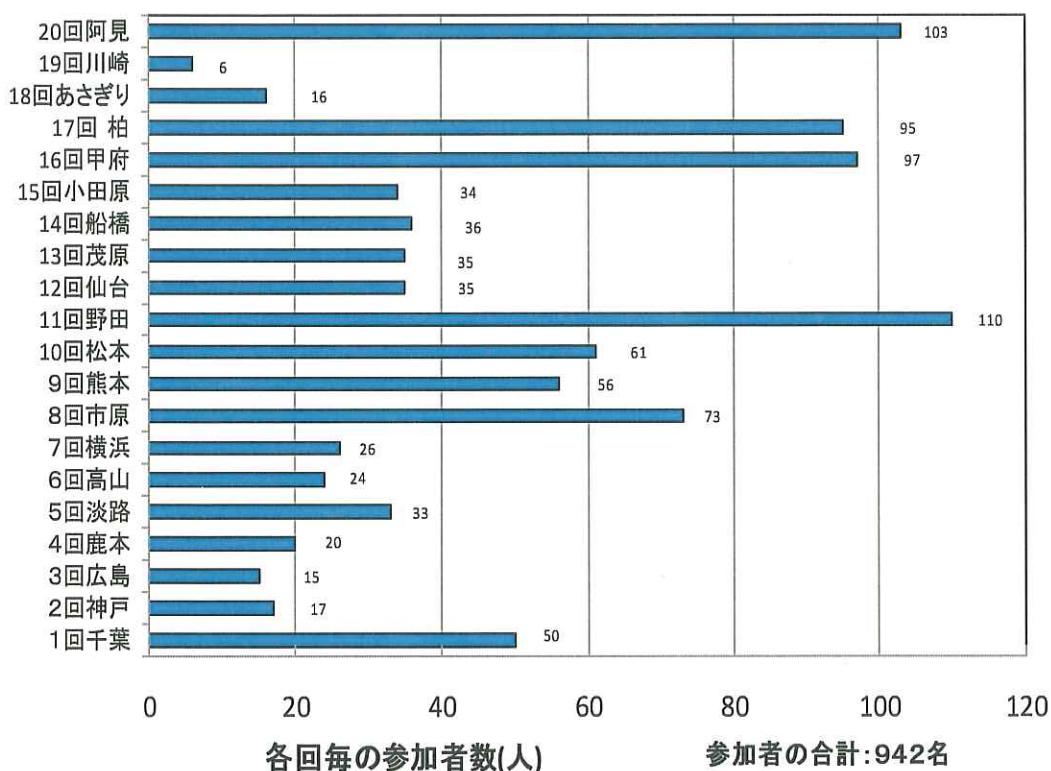
マスコミ関係 主婦 その他（具体的に　　）

ご協力ありがとうございます、このあとのアンケートにもご協力を願います。

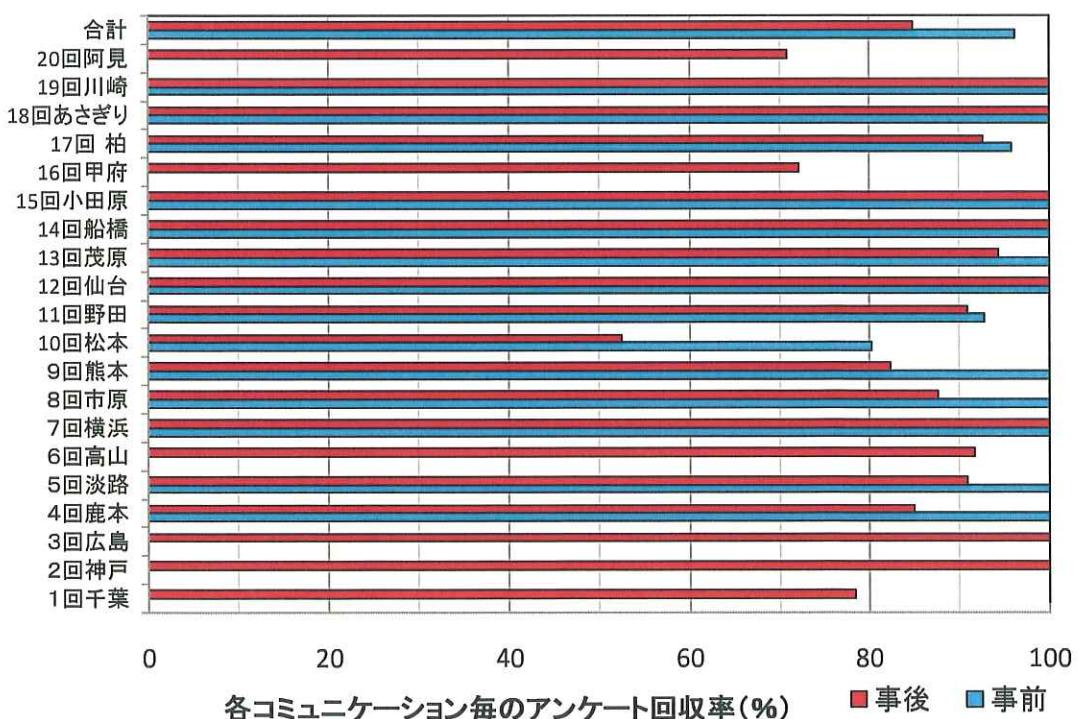
（社）農林水産先端技術産業振興センター

(2) 各コミュニケーション会場ごとのアンケート結果

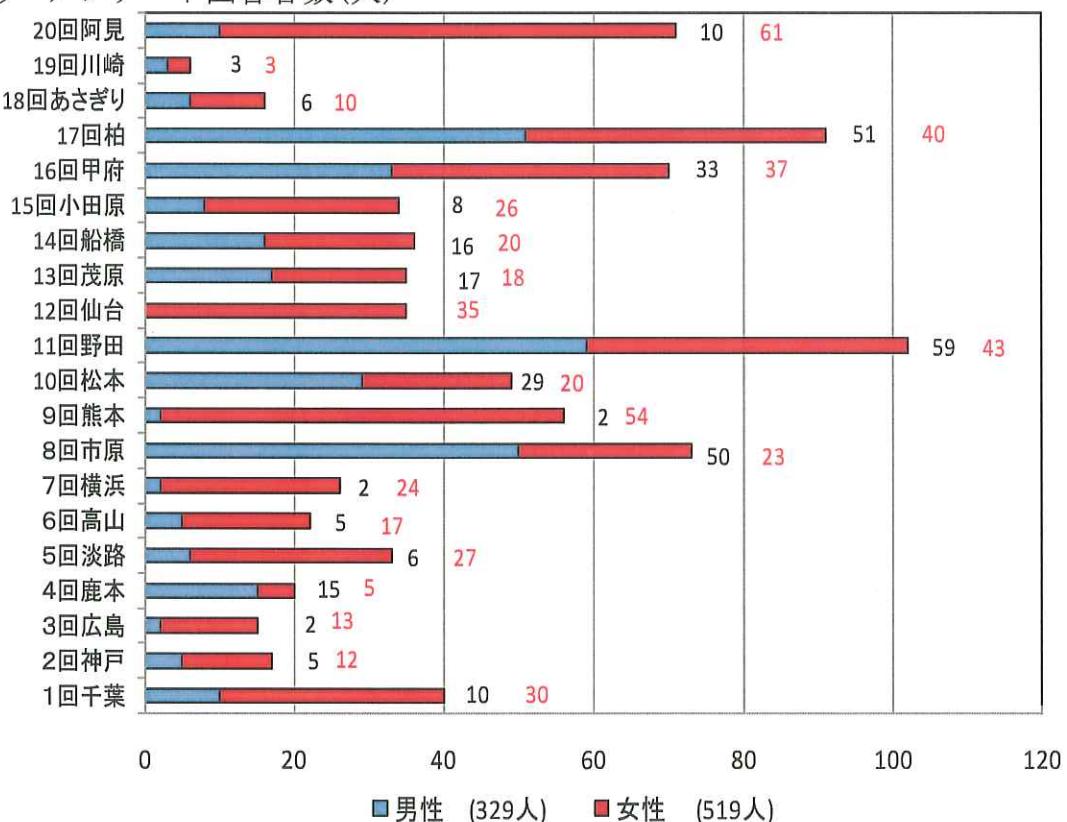
① 参加者数



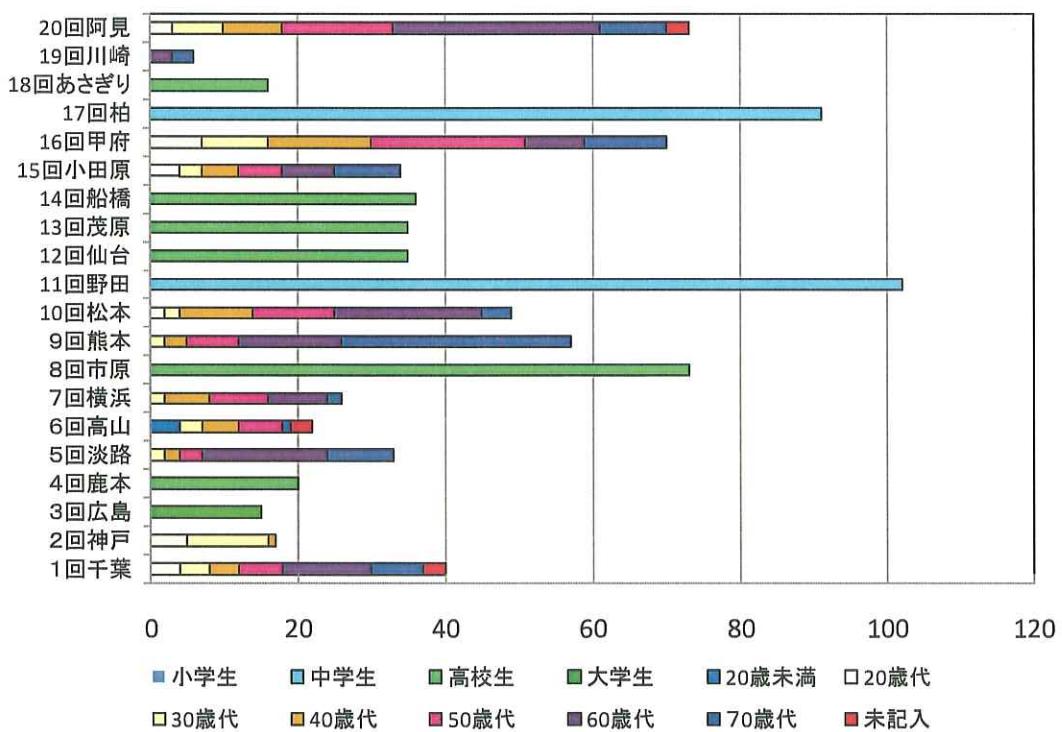
② アンケート回収率



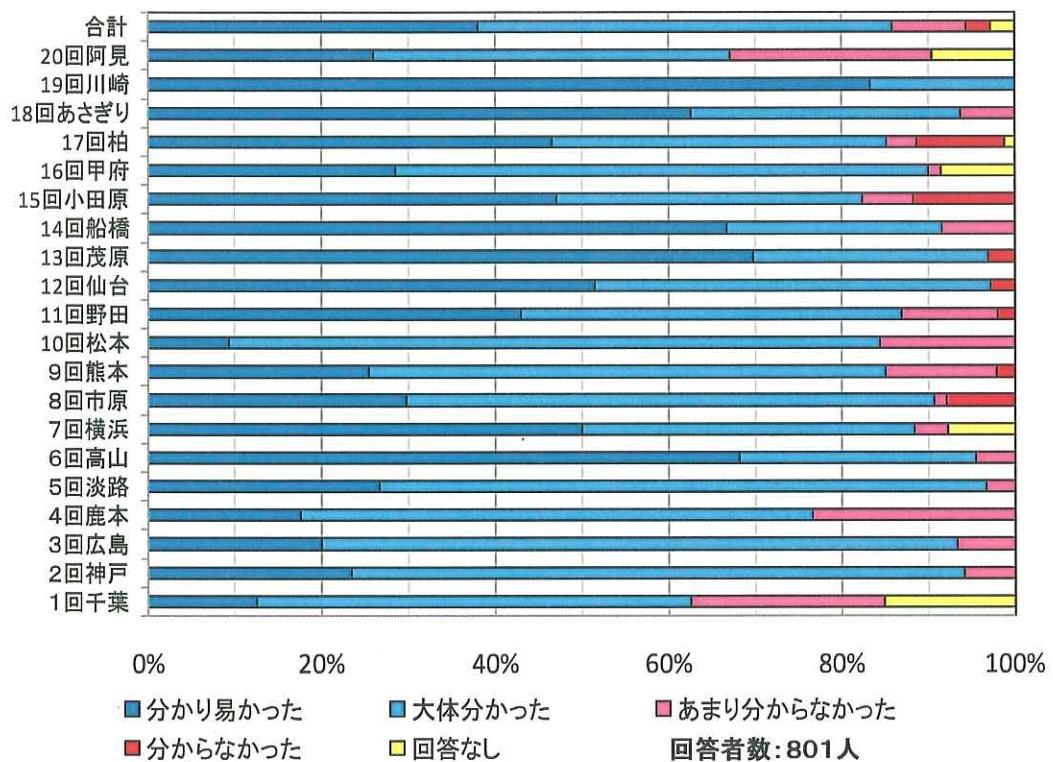
③ アンケート回答者数(人)



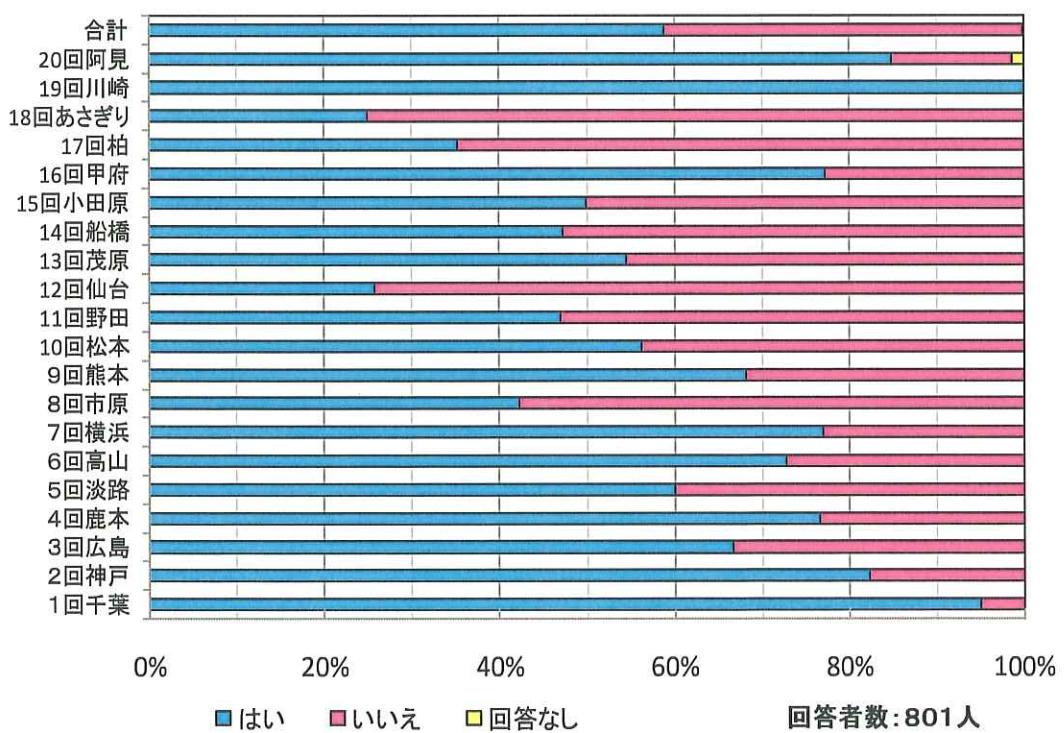
④ アンケート回答者の年齢(人)



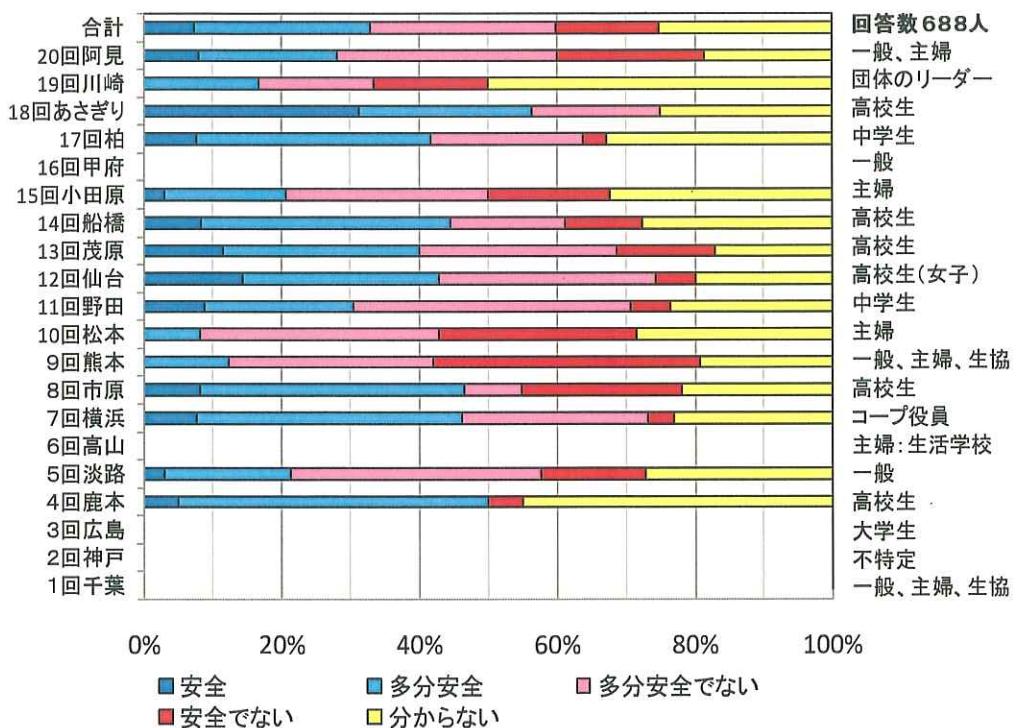
⑤ 今日の講演「遺伝子組換え食品について」は分かり易かったでしょうか？



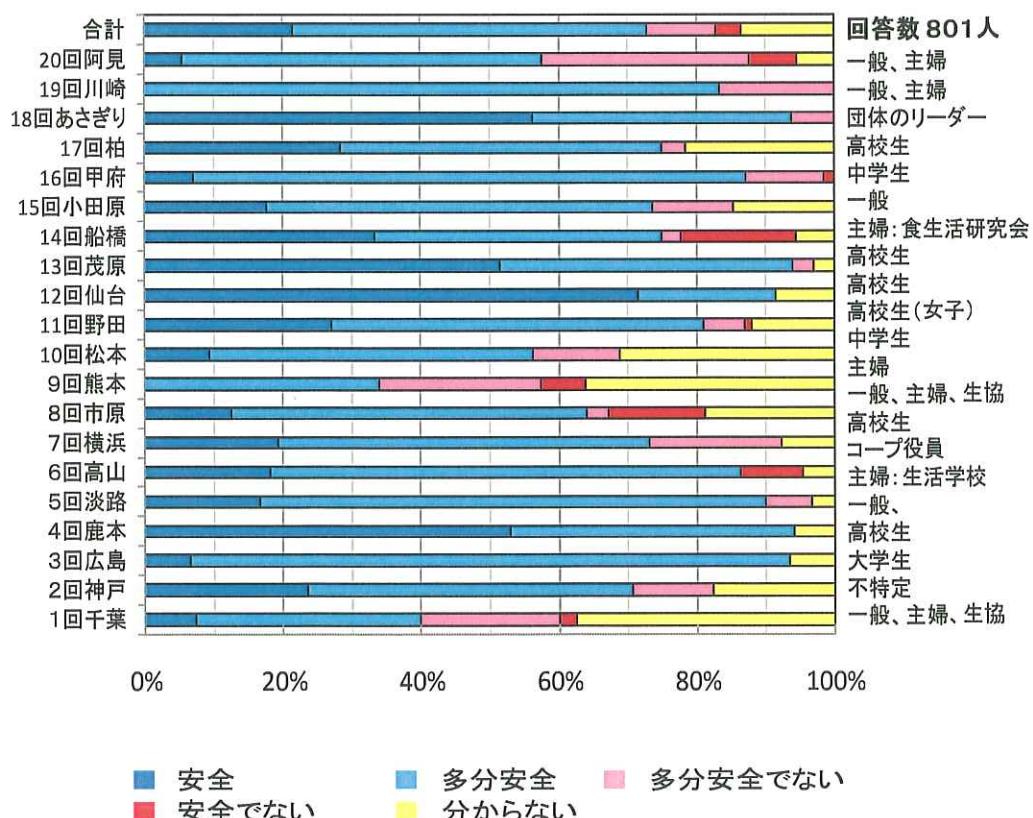
⑥ あなたは遺伝子組換え農作物が日本に大量に輸入され、飼料・食品に利用されていることを知っていましたか？



⑦ あなたは遺伝子組換え農作物・食品について、どのように思いますか？
(事前調査)

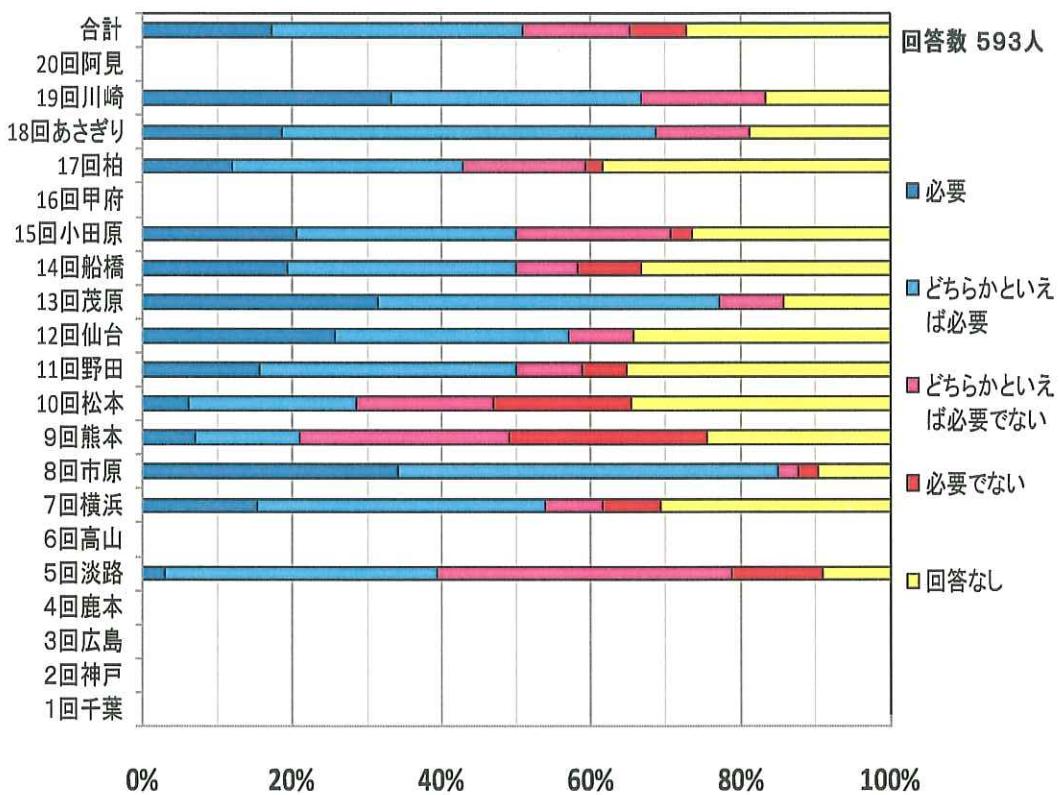


(事後調査)

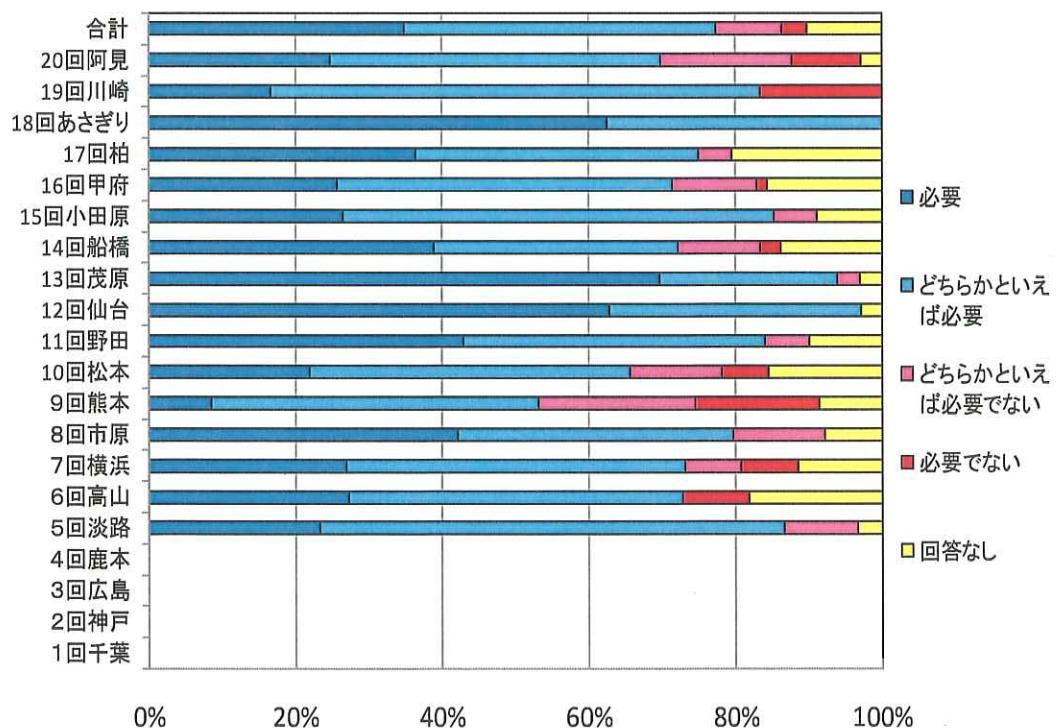


⑧ あなたは遺伝子組換え農作物とその技術は日本国民にとって必要と考えますか？

(事前調査) 回答数 593 人

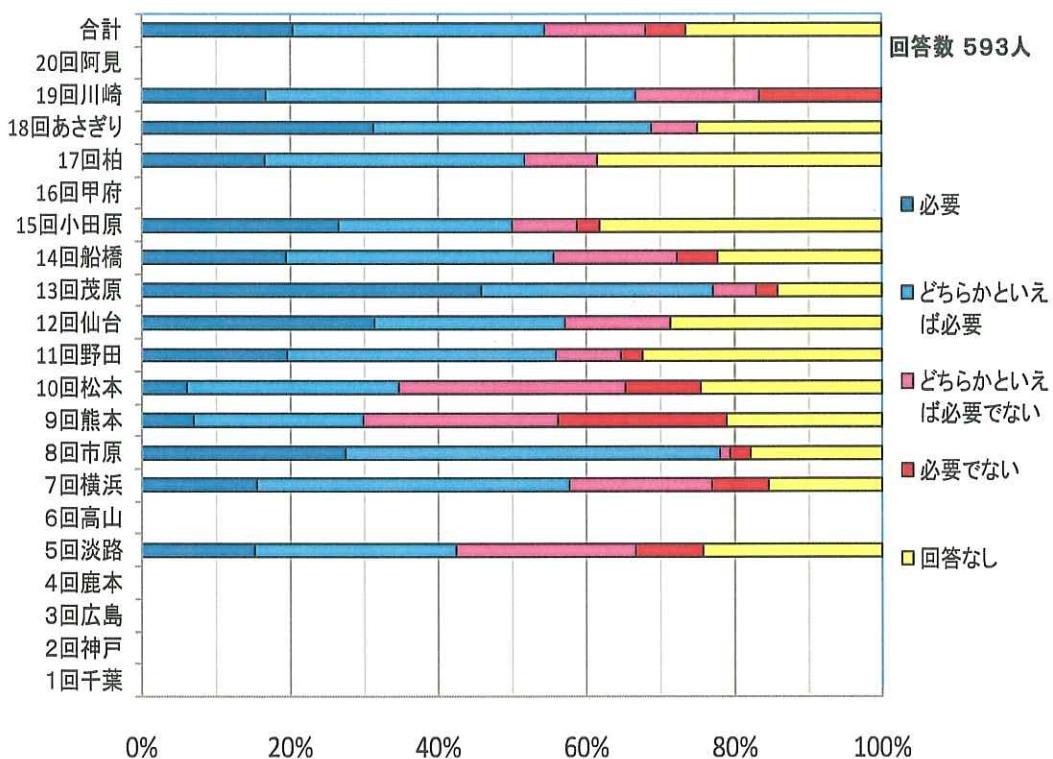


(事後調査) 回答数 712 人

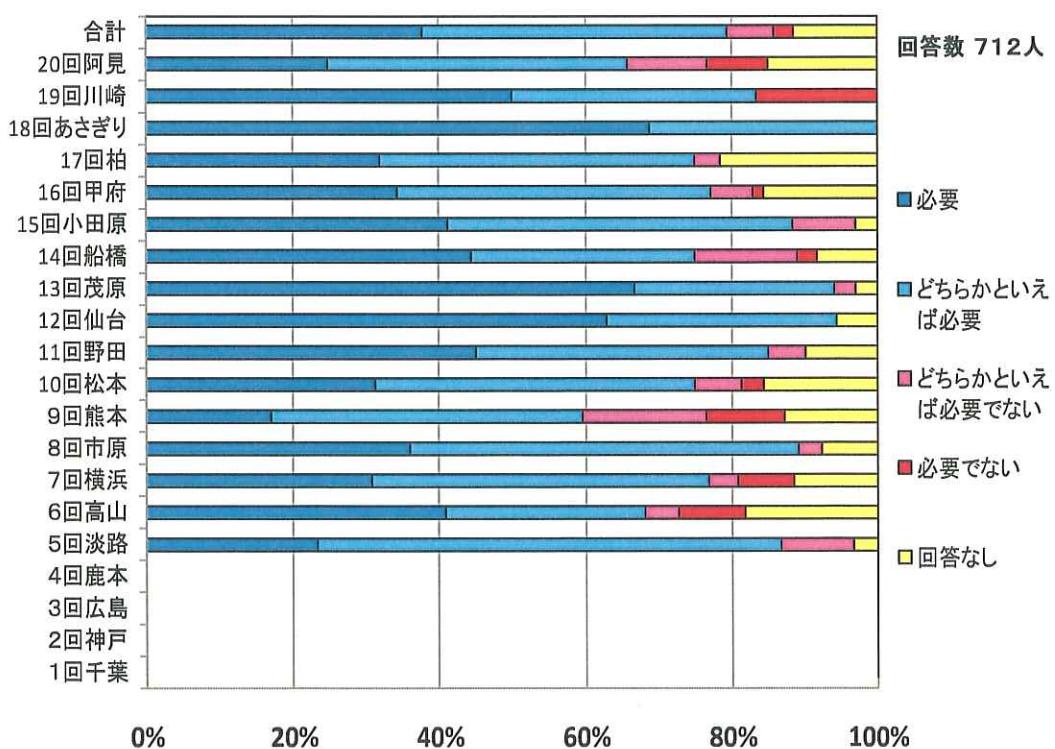


⑨ あなたは遺伝子組換え農作物とその技術は日本の産業にとって必要と考えますか？

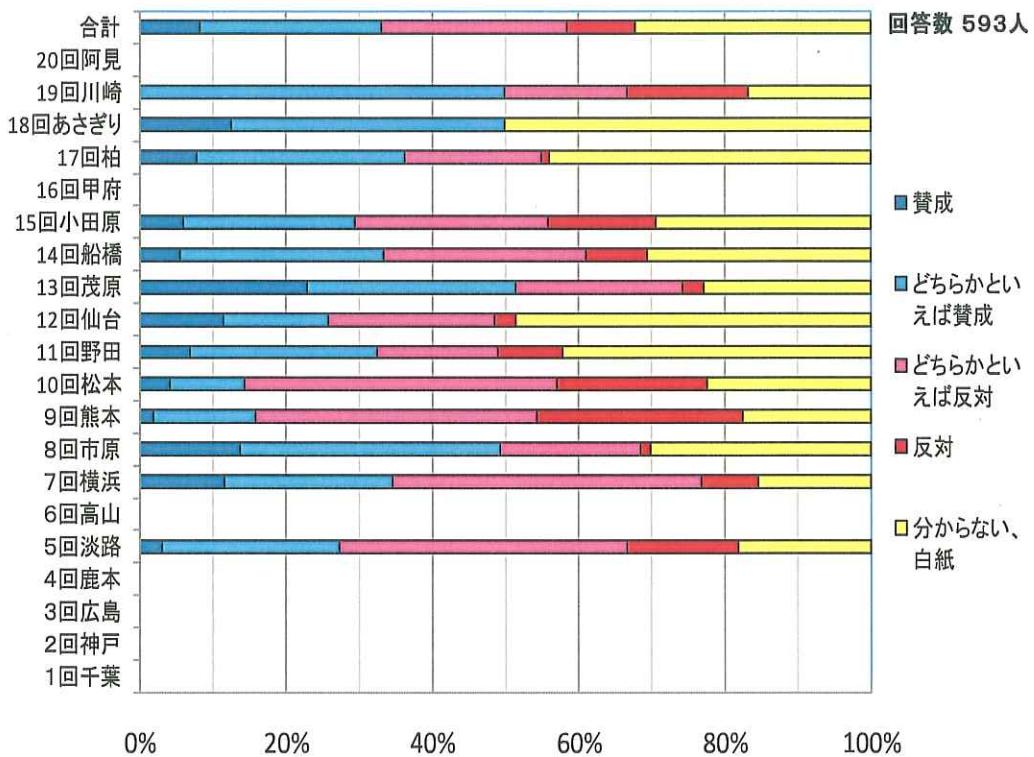
(事前調査) 回答数 593 人



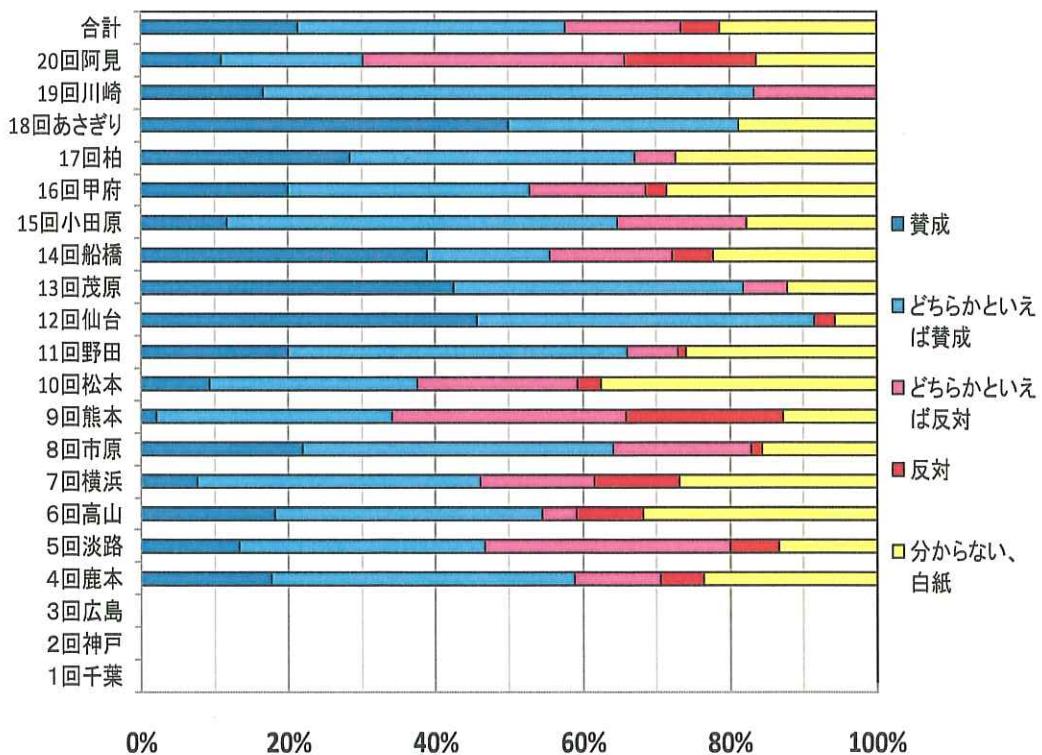
(事後調査) 回答数 712 人



⑩ 現在、日本では遺伝子組換え農作物の商業栽培はされていませんが、あなたは、日本で商業栽培をすることについてどのようにお考えですか?
 (事前調査) 回答数 593 人

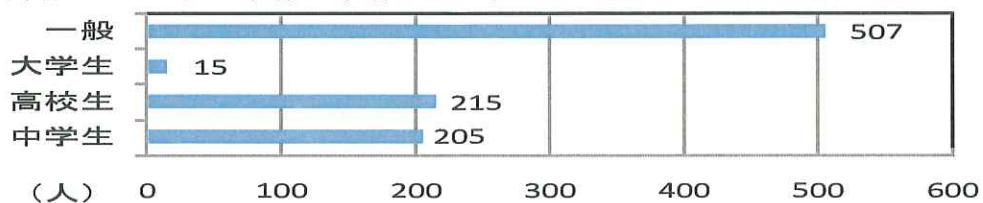


(事後調査) 回答者数 729 人

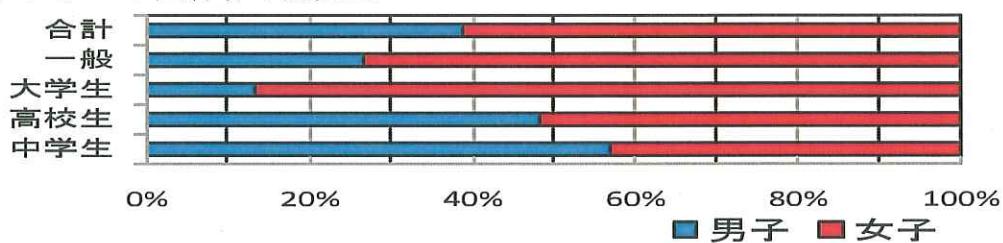


(3) 属性別に見たアンケート結果

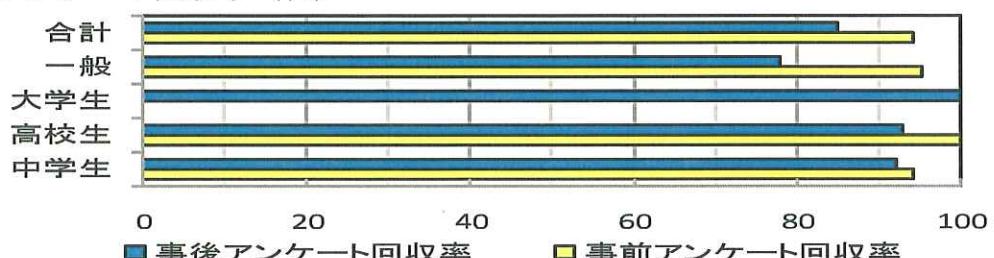
① 各属性ごとの参加者数：総数 942 人



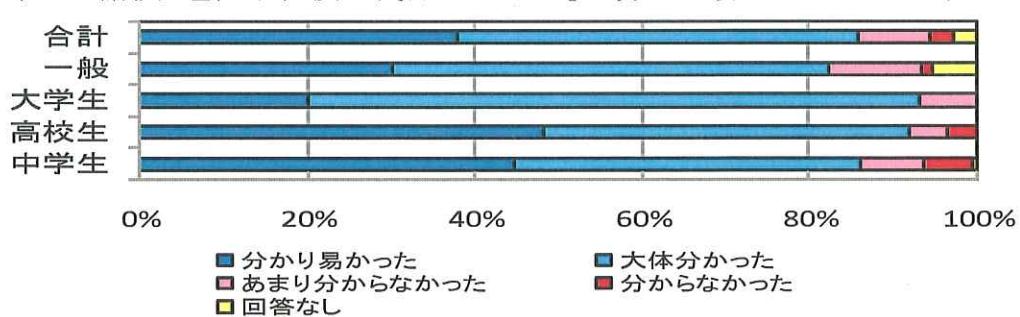
② アンケート回答者の男女比



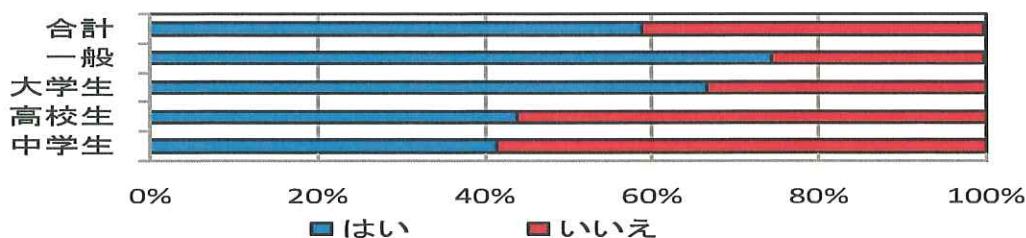
③ アンケート回収率 (%)



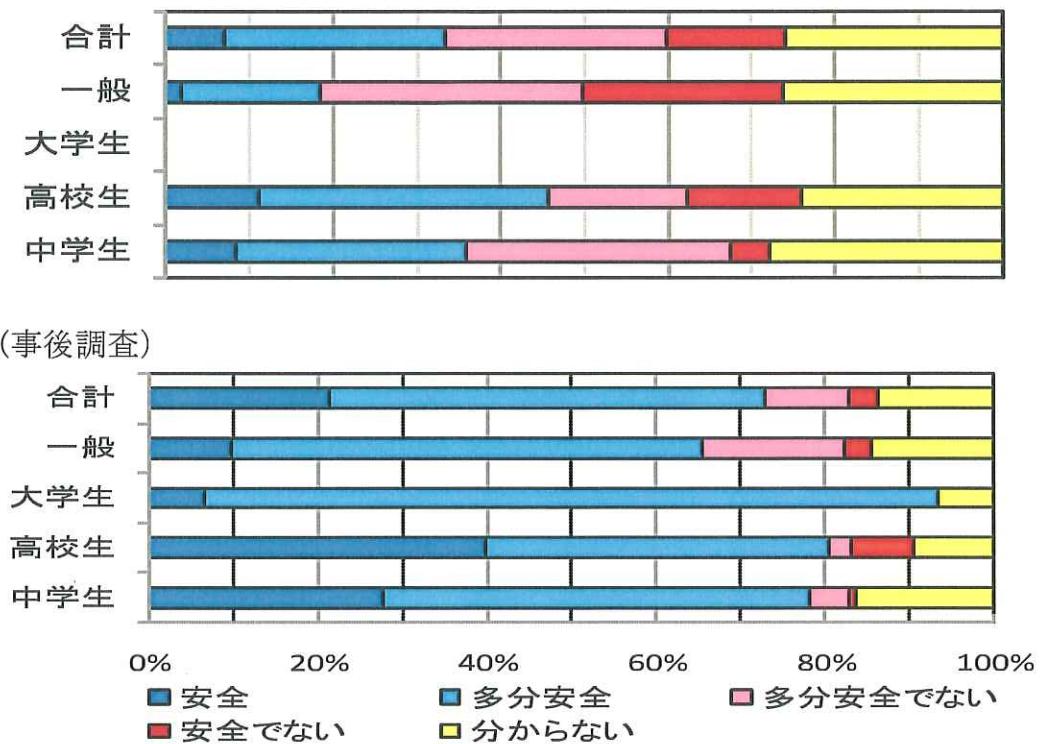
④ 今日の講演「遺伝子組換え食品について」は分かり易かったでしょうか？



⑤ あなたは遺伝子組換え農作物が日本に大量に輸入され、飼料・食品に利用されていることを知っていましたか？

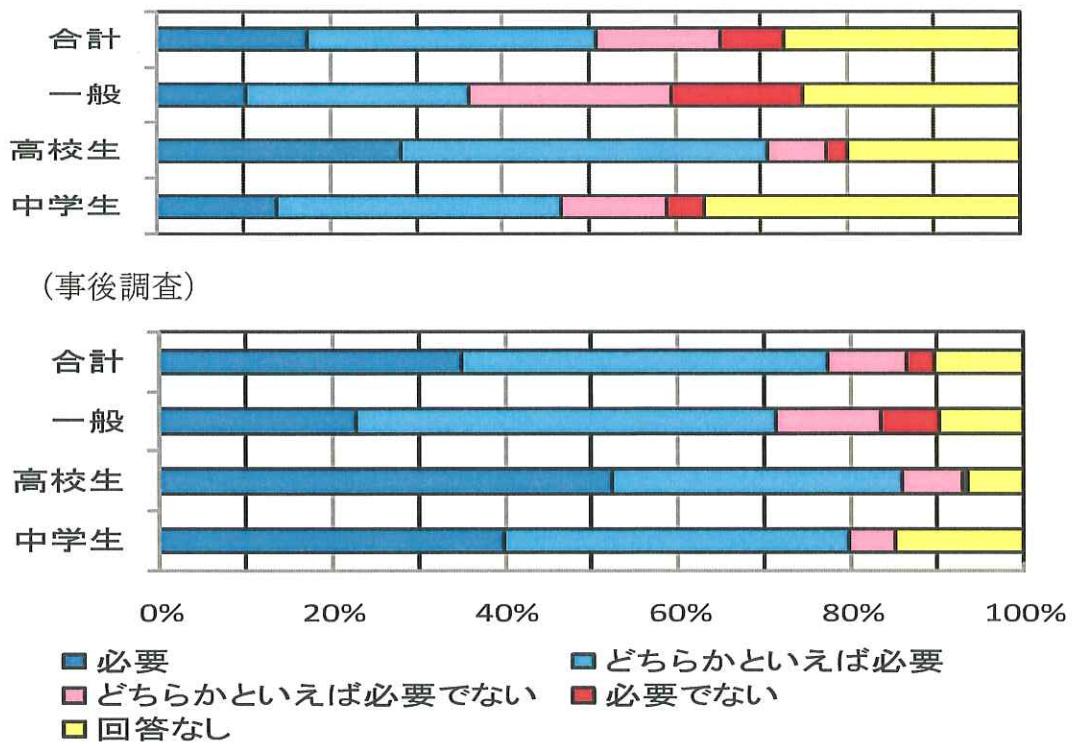


⑥ あなたは遺伝子組換え農作物・食品について、どのように思いますか?
(事前調査)



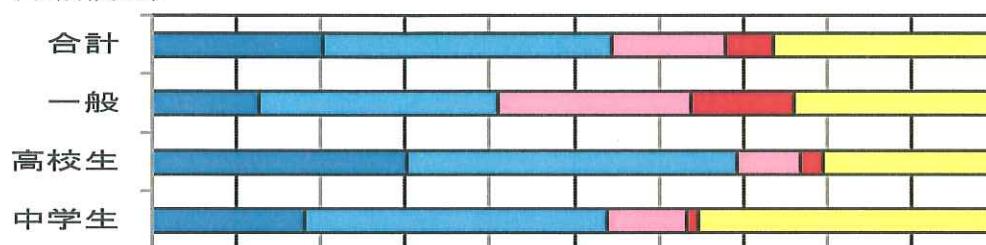
⑦ あなたは遺伝子組換え農作物とその技術は日本国民にとって必要と考
えますか?

(事前調査)

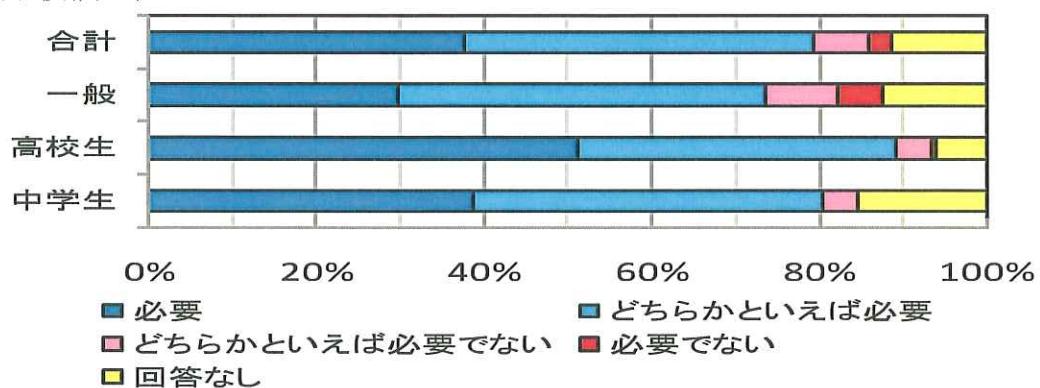


⑧ あなたは遺伝子組換え農作物とその技術は日本の産業にとって必要と考
えますか？

(事前調査)

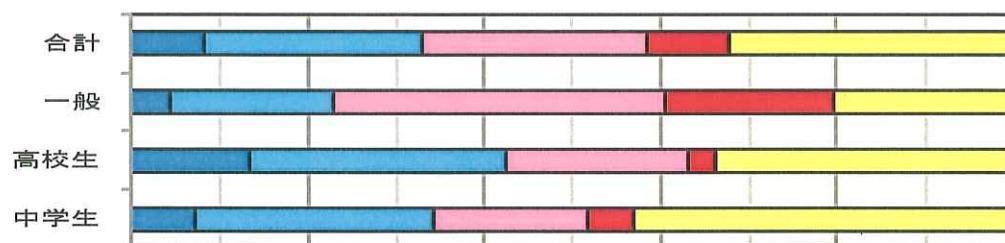


(事後調査)

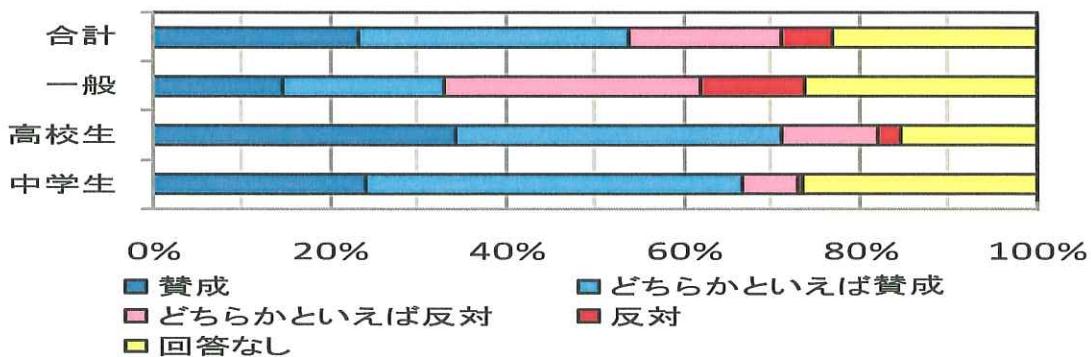


⑨ 現在、日本では遺伝子組換え農作物の商業栽培はされていませんが、あ
なたは、日本で商業栽培することに関してどのようにお考えですか？

(事前調査)



(事後調査)



4) 配布資料のアンケート調査

(1) 配布資料のアンケート調査票

パンフレットをご覧頂いた皆様へ

平成 年 月 日

農林水産省

パンフレットをご覧いただき、誠にありがとうございます。

パンフレットを提供させて頂いた方を対象にアンケート調査を実施させていただき、その結果をパンフレットの内容の見直しに役立てたいと考えているところです。

ついでに、お忙しいところ、お手数をお掛けして大変申し訳ありませんが、以下の設問にお答えいただき、アンケートを回収される担当の方にお渡しいただきますようよろしくお願い申し上げます。

問1 あなた自身のことなどについてお聞きします。

それぞれ、あてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

① 性別

1 男性 2 女性

② 年齢

1 20歳未満	2 20歳代	3 30歳代	4 40歳代
5 50歳以上	6 60歳代	7 70歳代	8 89歳以上

③ 職業

1 主婦、学生、無職	2 農林漁業者	3 農林水産業関係団体
4 食品製造関連会社	5 マスコミ	6 行政（地方公共団体等）
7 試験研究・教育機関	8 その他（具体的： ）	

④ 本日、ご覧頂いたパンフレットは、以下のどの資料ですか。

（該当するもの全てに○を付けて下さい）

- 1 知ってトクする！食べものまめ知識
- 2 Do you know 「遺伝子組換え農作物入門プログラム」
- 3 Step up 「遺伝子組換え農作物を知るためにステップアップ編」
- 4 バイテク小事典
- 5 バイオテクノロジーの基礎
- 6 遺伝子組換え作物って何？

裏面へ

問2 パンフレットをお読みになった感想についてお聞かせください。

以下の設問について、それぞれあてはまるところを○で囲んでください。

1 わかりやすかった

2 むずかしかった

(難しかったページ番号等 :)

問3 ご覧頂いたパンフレット等は、あなたにとってどのような資料となりましたか。

以下の設問について、それぞれあてはまるところを○で囲んでください。

1 とても役立つ資料である

2 ある程度役立つ資料である

3 あまり役立たない資料である

4 全く役立たない資料である

問4 パンフレットをお読みになる前に比べてバイオテクノロジーや遺伝子組換え農作物に関する理解が深まったと思いますか。

以下の設問について、それぞれあてはまるところを○で囲んでください。

1 とても理解が深まった

2 ある程度理解が深まった

3 変わらない

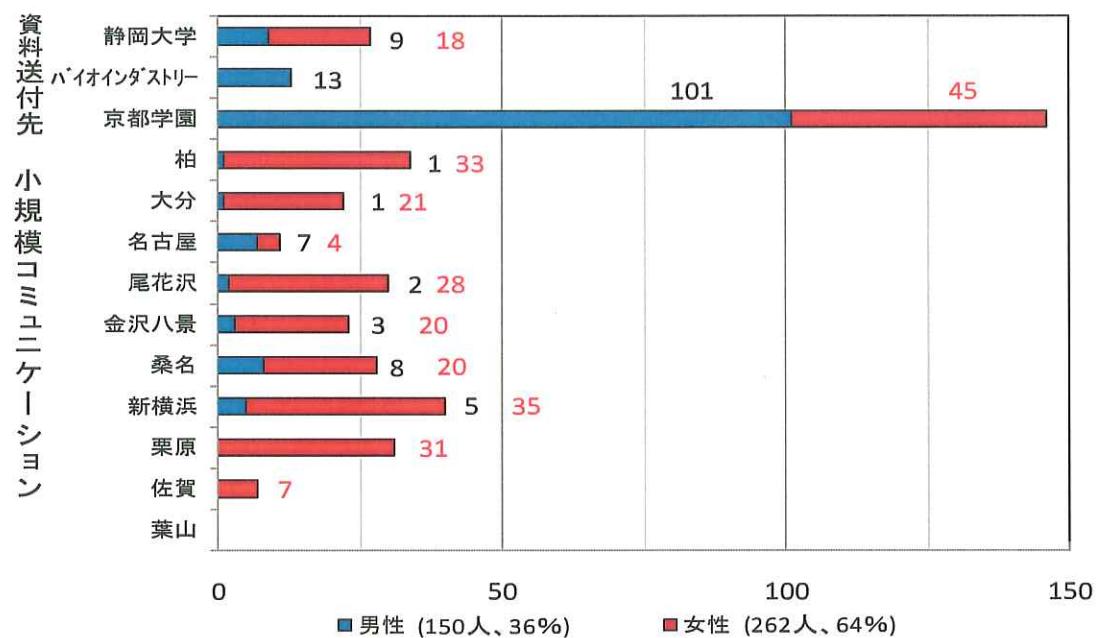
4 理解は進まずにますますわからなくなつた

問5 今後、どのような情報をパンフレットに掲載して欲しいですか。

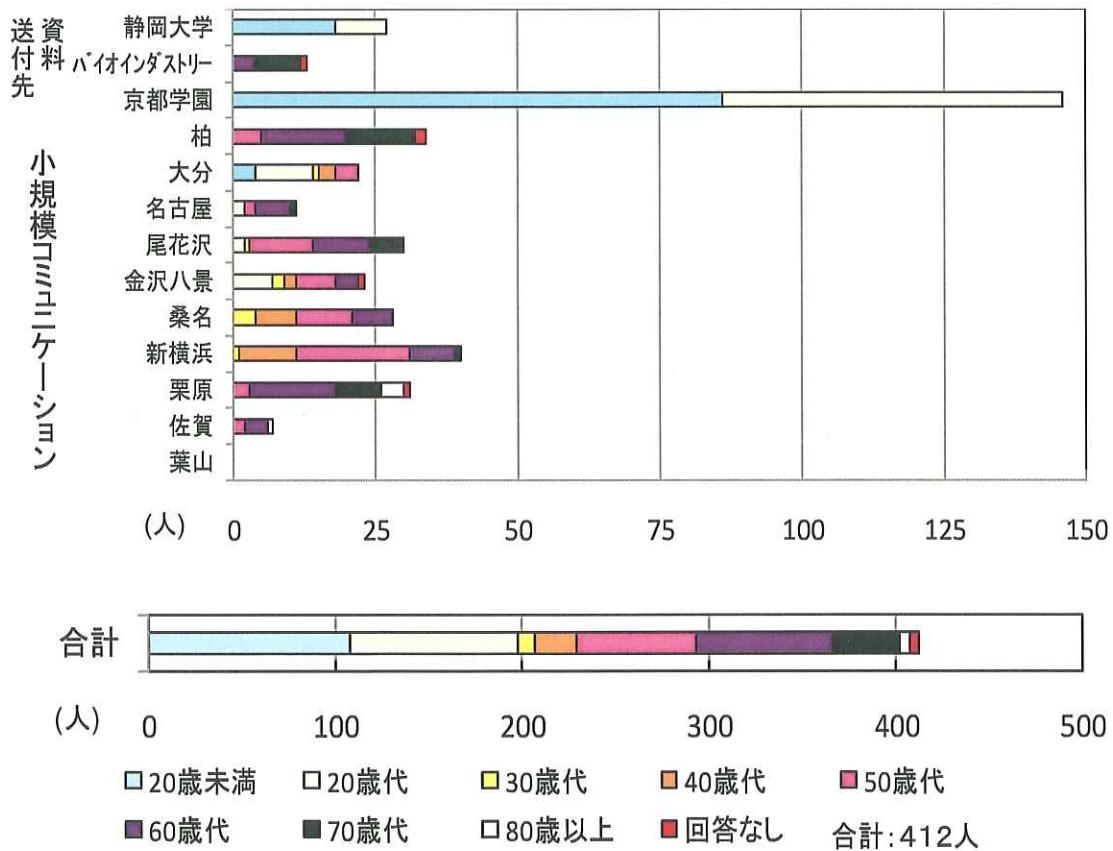
御協力ありがとうございました。

(2) 配布資料のアンケート調査結果

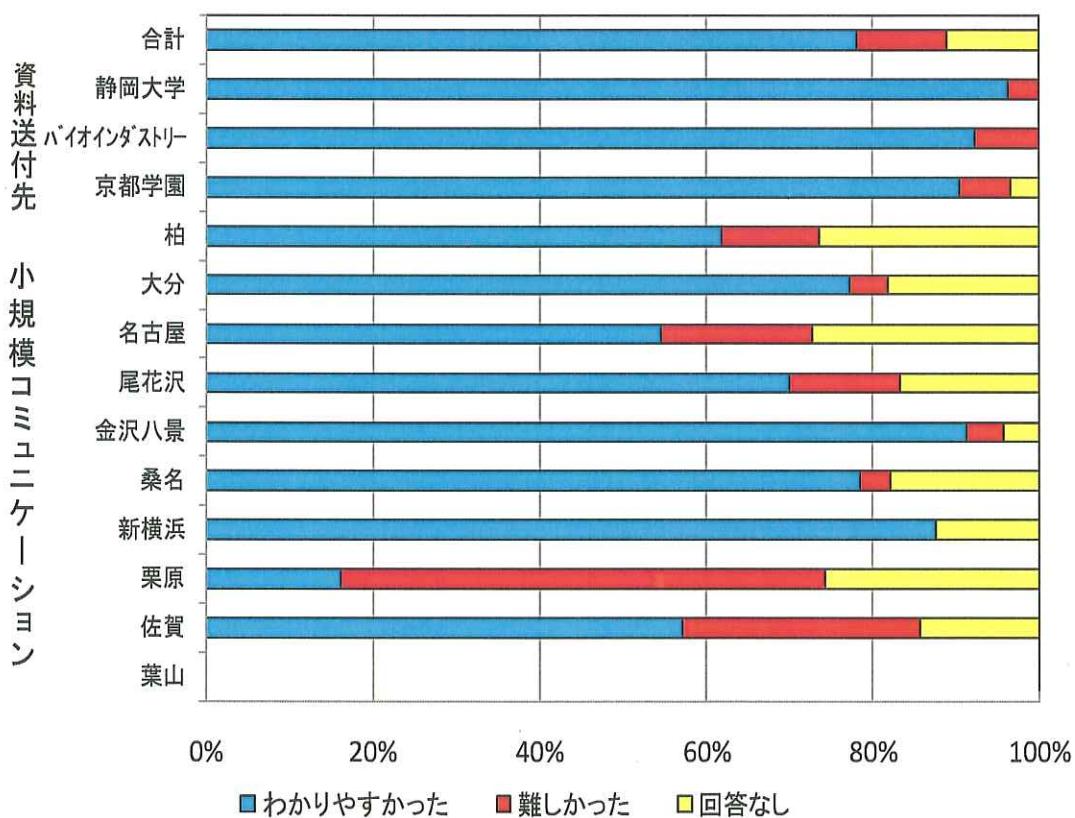
① 回答者の人数と男女別人数



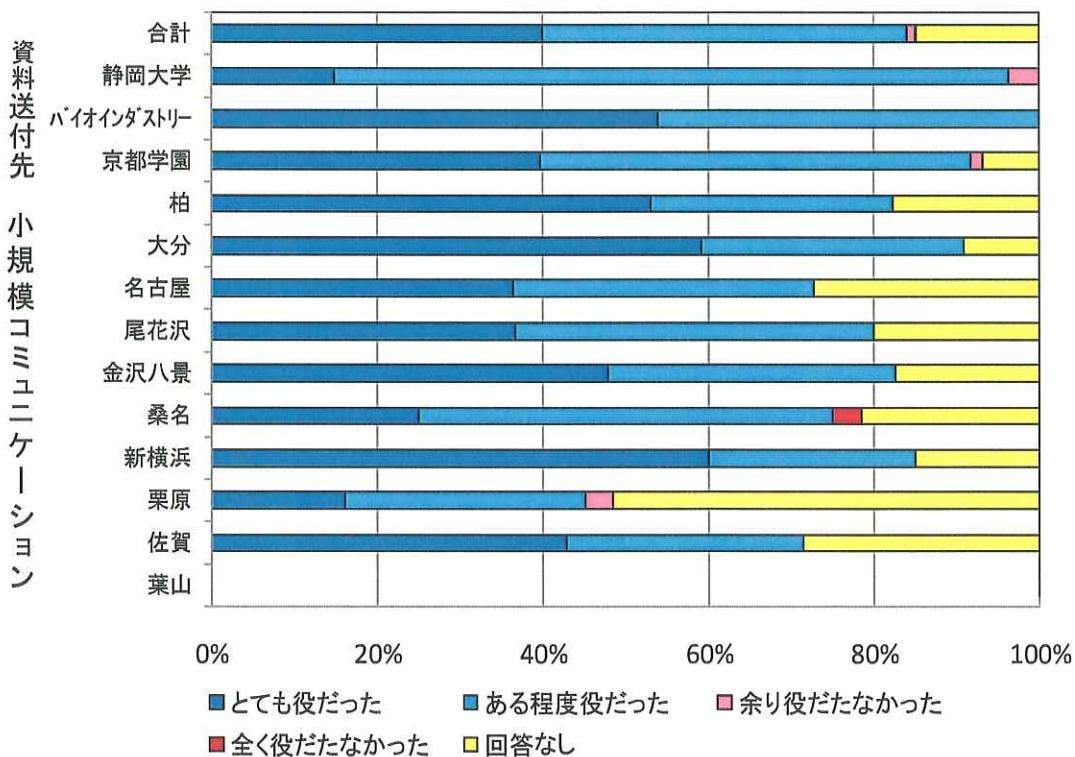
② 回答者の年齢層



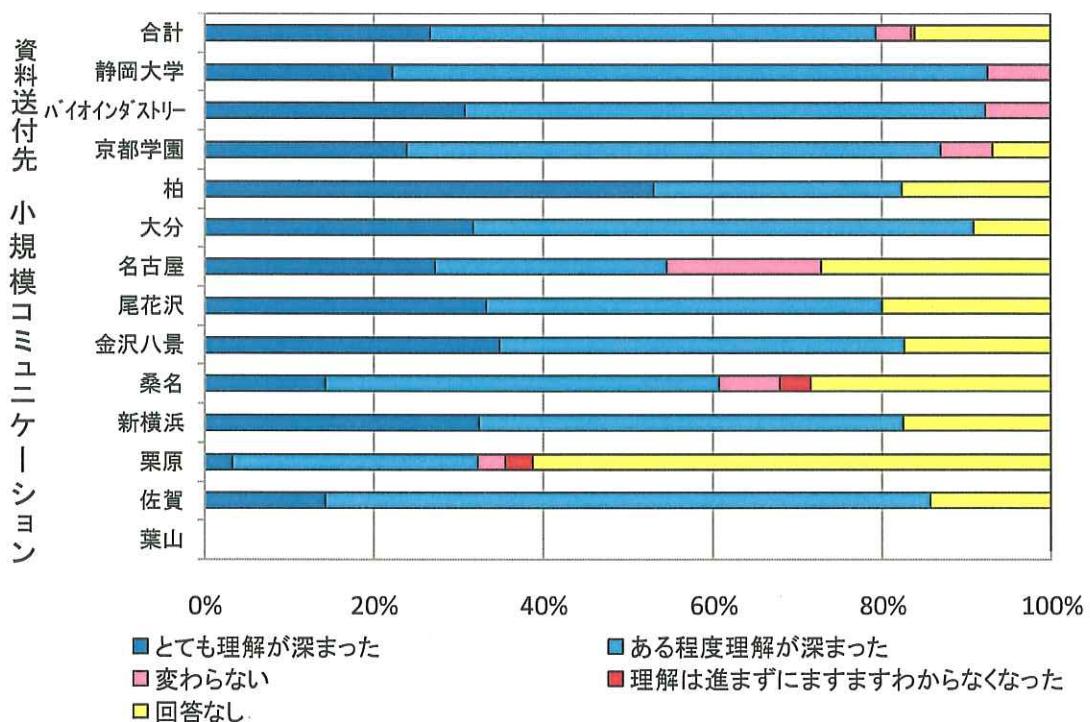
③ パンフレットをお読みになった感想についてお聞かせ下さい。



④ ご覧頂いたパンフレット等は、あなたにとってどのような資料となりましたか？



⑤ パンフレットをお読みになる前に比べてバイオテクノロジーや遺伝子組換え農作物に関する理解が深まったと思いますか？



IV ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」の提供

ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」を開設、運営し、遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関する情報を、広く国民に対してわかりやすく提供した。

1. ホームページの改訂・更新

「バイテクコミュニケーションハウス」ホームページの更新については、本年度実施することとし、20年6月から準備・検討を行ってきた。

ホームページ更新に当たっては、①アクセシビリティーの高いページとし、②プルダウンメニューを利用しつつ③マウスで3クリック以内をめざすこととする。更に、④ユニバーサルデザインを基本とし、⑤無駄な画像ファイルを極力減らすとともに⑥alt属性やtitle属性を使用する等、利用者の利便性を勘案したページ構成とすることを作成の方針とした。

トップページのデザインについては(株)パーティー・フーに、また、各ページのコーディングについては(株)デジラタにそれぞれ外注した。

ホームページの作成に当たって、本省技術安全課(技術政策課技術安全室)、(株)パーティー・フー、(株)デジラタ及びSTAFFのそれぞれ担当者で構成されるWGを組織し、検討を重ねた。WGは計4回開催した。

新しく作成したホームページ(案)は内部等での検証を重ね、また、推進会議各委員の方々への意見聴取と修正を行ったうえ、10月1日(水)に、従来のものから切り替え、一般に公開した。ホームページのURLを下記に記載した。

<http://www.biotech-house.jp/>

トップページロゴデザイン(Flashアニメーション)

トップページ中央のロゴデザインについてはFlashアニメーションを用いて作成した。各デザイン(図1～図8)は7秒ごとに変更されるようにした。



図1



図2

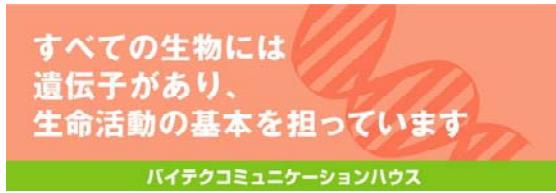


図 3



図 4



図 5



図 6



図 7



図 8

トップページセンターデザイン(Java Script)

トップページ中央のセンターデザイン部分を含めてJava Scriptを用いて作成した。すなわち、マウスポインタが特定の場所に移動したときに、プルダウンメニューが表示されたり、コミュニケーション等に関する説明が表示されるようとする等、工夫した。また、センターデザイン部分はマウスポインタの位置によって画像が変更されるように作成した。



図 9



図10



図11



図12



図13



図14

「バイテクコミュニケーションハウス」トップページ

バイテクコミュニケーションハウスは「遺伝子組換え(GM)農作物」などについての情報を皆様にご提供するためのサイトです。

サイト内検索 検索

ご意見・お問い合わせは、こちら [\[リンク\]](#)

内閣府
環境省
厚生労働省
農林水産省
経済産業省
(農業・食品産業技術総合研究機構)
(独)農業生物資源研究所
(独)農業環境技術研究所
その他のリンク先

一覧

お知らせ
・09/10 「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」(福岡市)の参加募集を行っております。締切は10月24日(金)です。ふるってご参加ください。

更新情報
・H20/10/20 「メールニュース」の中に「[バイテクハウス Mail News]2008/10/20」を追加しました。

サイトマップ | 推奨環境について | ブライジンポリシー | リンクについて | 利用の仕方
Copyright (C) 1998 Society for Techno-innovation of Agriculture, Forestry and Fisheries
All rights reserved. Unauthorized copy of the pages is prohibited.
社団法人 農林水産先端技術産業振興センター(略称 STAFF)

図15

「説明」の表示、プルダウンメニューの例



図16



図17



図18



図19

セカンドページの例



図20



図21



図22



図23

2. ホームページの内容と実施状況

(1) ホットニュース（新着情報）

- ・新着情報：バイオテクノロジー関連の研究開発、企業、行政、海外等の最新情報を417件提供。（平成20年3月～21年2月まで）
- ・講演会情報：一般市民が参加し易い全国各地の講演会・イベント情報を40件掲載。（平成20年3月～21年2月まで）

(2) コミュニケーション

- ・コミュニケーション推進会議、大規模コミュニケーション、小規模コミュニケーション、連携コミュニケーション、意識調査（アンケート調査）について今年度、前年度の開催概況、資料等を掲載。

(3) GM農作物の安全性

- ・食品としての安全性（安全性審査の概要、遺伝子組換え食品及び添加物一覧、遺伝子組換え食品ホームページ（厚労省）、遺伝子組換え食品の表示制度）を掲載。
- ・飼料としての安全性（安全性審査の概要、遺伝子組換え飼料及び飼料添加物一覧、飼料の安全関係）を掲載。
- ・環境への安全性（安全性審査の概要、カルタヘナ法関連情報、バイオセーフティクリアリングハウス、承認確認された遺伝子組換え生物一覧）を掲載。

(4) GM農作物早わかり

- ・バイテク用語集：バイオテクノロジーに関する用語193語を分かりやすく説明。
- ・バイテクQ&A：基本的な質問に対する回答集として、隨時、増補して掲載。
- ・各種教材など：農林水産省とSTAFFのPDF資料リンク、各種教材等関係のホームページリンク

(5) GM農作物の理解を深める

・バイテク図書館：

基礎パンフ「知ってトクする！食べものまめ知識」

初級パンフ「Do you know?—遺伝子組換え農作物入門プログラム」

中級パンフ「遺伝子組換え農作物」を知るために ステップアップ編

動画配信「DNA抽出実験」

「バイテクEXPERT」：林健一専門委員が、遺伝子組換え農作物等に関して、専門雑誌から重要かつタイミングの良い研究開発の話題を選んで、要約を定期的に行い、これを専門的な方を主な対象として掲載している。平成20年3月～21年2月までに34件掲載した。

- ・メールニュース：月3回定期的に発行（原則：9日、19日、29日）
- ・リンク集：バイオテクノロジー、遺伝子組換えに関するサイトを5分野に分けて掲載。

（行政機関、各種機関、関連企業、研究機関、海外機関等）

（6）関係省庁、機関へのアクセス

- ・内閣府（総合科学技術会議、食品安全委員会、遺伝子組換え食品等専門調査会）
- ・環境省（生物多様性センター、バイオセーフティークリアリングハウス）
- ・厚生労働省（遺伝子組換え食品ホームページ）
- ・農林水産省（農林水産技術会議、遺伝子組換え技術の情報サイト）
- ・経済産業省（バイオ政策：生物化学産業課）
- ・（独）農業・食品産業技術総合研究機構（作物研究所、果樹研究所、花き研究所、野菜茶業研究所、畜産草地研究所、動物衛生研究所、等）
- ・（独）農業生物資源研究所
- ・（独）農業環境技術研究所
- ・その他（文部科学省、（独）理化学研究所、（独）科学技術振興機構）

（7）その他

- ・お知らせコーナー、更新情報コーナー、サイト内検索

3. アクセス数

- （1）より正確にアクセスログを把握・解析し、ホームページを適切に管理するため、20年1月末に導入したソフトウェア「Site Tracker」を使って、同年2月から引き続き本年度も稼働させ、解析した。
- （2）アクセスログ解析結果の概要（平成20年2月1日～平成21年1月31日）

① 月別データ

（i）訪問合計（表1）

	2月	3月	4月	5月	6月	7月
訪問者	23,709	17,776	22,373	27,391	30,775	32,832
ページビュー	57,885	45,186	57,408	67,526	73,253	76,762

	8月	9月	10月	11月	12月	1月
訪問者	24,134	20,727	21,174	19,161	18,258	22,480
ページビュー	67,906	55,471	64,703	59,483	56,361	69,314

(ii) 訪問者分析(表2)

	2月	3月	4月	5月	6月	7月
ユニーク	17,357	11,979	15,705	19,794	20,838	22,457
新規	13,620	9,284	12,649	15,944	16,694	17,714
リピート	4,929	3,323	4,055	5,227	5,947	6,307
平均リピート率	28.4	27.7	25.8	26.4	28.5	28.1

	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ユニーク	16,087	14,015	14,023	12,752	11,672	15,000
新規	12,629	10,551	10,387	9,498	8,545	11,669
リピート	4,560	4,322	4,496	4,084	3,848	4,443
平均リピート率	28.3	30.8	32.1	32.0	33.0	29.6

(②) 年間データ(表3)

	20年2月1日～ 20年9月30日	20年10月1日～ 21年1月31日	20年2月1日～ 21年1月31日
訪問者	199,717	81,073	280,790
ページビュー	501,397	249,861	751,258
ユニーク訪問者	138,232	53,447	191,679
新規訪問者	109,085	40,099	149,184
リピート訪問者	38,670	16,871	55,541
平均リピート率	28.0	31.6	29.0

用語の説明

- ・訪問者
 - サイトへの訪問者数
- ・ページビュー
 - コンテンツの閲覧数
- ・ユニーク訪問者
 - サイトを訪れた個別に識別される訪問者の数(例えば月内に同じサイトを4回訪れたとすると、1ユニーク訪問者として数えられる)ユニーク訪問者
- ・新規訪問者
 - 「新規訪問者」と「リピート訪問者」の合計となるとは限らない。一人の訪問者が同じ月内に「新規訪問者」と「リピート訪問者」の両方になる場合がある。
- ・この月にサイトに初めて訪れた訪問者の数(一人の訪問者が先月と今月に

一度ずつサイトを訪問した場合、この月の「新規訪問者」としては数えられない。)

・リピート訪問者

この月の訪問者で、以前にもサイトに訪れたことがある訪問者の数(一人の訪問者が先月と今月に一度ずつサイトを訪問した場合、「リピート訪問者」として数えられる。また、この月に初めて訪問した後に再度訪問があった場合には「新規訪問者」と「リピート訪問者」の両方に数えられる。)

・平均リピート率

「リピート訪問者」を「ユニーク訪問者」で除した値を百分率(%)で表したもの

3. 解析結果

(1) 全体について

平成 20 年 2 月 1 日から平成 21 年 1 月 31 日までにおける「バイテクコミュニケーションハウス」ホームページに対する外部からのアクセス状況について分析した。

ホームページへの 1 カ月当たりの平均訪問者数は 23,399 人、平均ページビュー数は 62,605 であった(表 1)。ユニーク訪問者で見ると平均 15,973 人で、うち、新規訪問者は 12,432 人、平均リピート率は 29.0 % であった。

これらを図 1 と図 2 に示した。図 3 に 1 週間の曜日別アクセス件数(年間)を示した。この図から日曜日と土曜日には平日と比較してアクセス件数が減少することが分かる。また、図 4 に時間別アクセス件数(年間)を示した。この図から、午前 8 時頃からアクセス数が増加し、昼にはいったん減少するが、午後からまた増加し、約 18 時に収束することが分かる。図 3 と図 4 から、閲覧者が勤労者、学生等が多数を占めるであろうと推定された。

図 5 にキーワード検索でヒットされた用語を示した。「iPS 細胞」が最も多く、次いで「細胞」、「カルタヘナ法」、「プライマー」と続いていた。本ホームページで提供している「バイテク用語集」についてはデータが*/glossary/ディレクトリーに置いてあり、図 6 ~ 図 9 で示されているようにこのディレクトリーに対するアクセスは多い。この結果から本ホームページは学校の授業等で利活用されていることが示唆された。

(2) ホームページリニューアルの影響について

本ホームページは平成 20 年 10 月にリニューアルオープンしたが、その前後における分析では月間平均訪問者数は 24,965 人、20,268 人、ページビュー 62,675 ページ、62,465 ページとそれぞれ減少したように見える(表 3)。しかし、平均リピート率で見ると 28.0 % から 31.6 % と約 4 % 程度上昇している。

また、9月と10月の2ヶ月の比較(表1)では訪問数もページビュー数も増加しており、減少したように見えるのは5、6、7月におけるアクセス数の増加が反映されている結果であると推察できる(表3)。

また、本ホームページをリニューアルオープンした平成20年10月1日の前後で各ページに対するアクセス状況の違いを明らかにするために図6と図7に平成20年2月1日から9月30日の間にアクセスされた「最も人気があるページ」を、また、図8と図9に平成20年2月1日から9月30日の間にアクセスされた「最も人気があるページ」を示した。このデータから平成20年10月以前では「バイテク用語集」が上位を占め、次に「最新ニュース」にアクセスされていたことが分かる。一方、平成20年10月以降では「バイテク用語集」が上位ではあるが、「ホットニュース」、「バイテクQ&A」、「バイテク図書館」などに対するアクセスが増加したことが分かる。

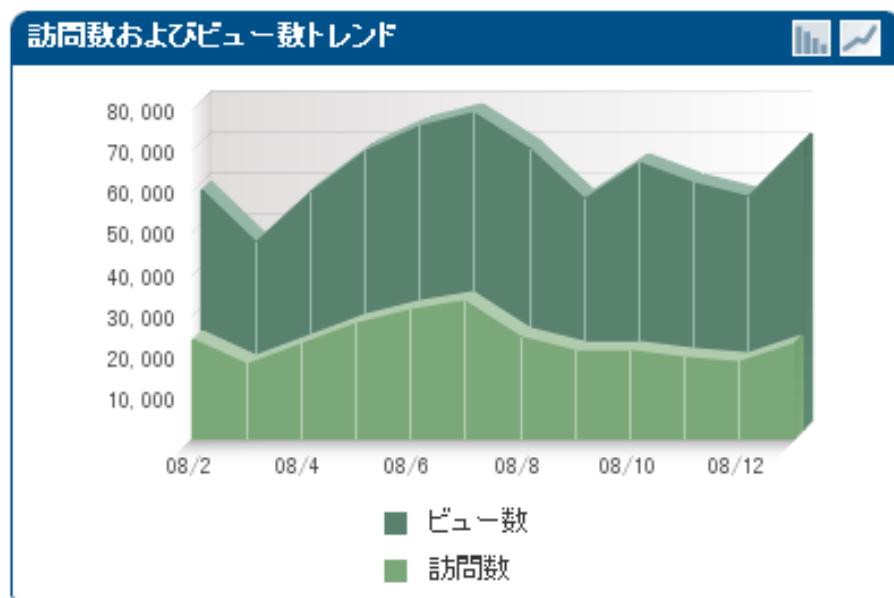


図1 訪問数とページビュー数の月別推移

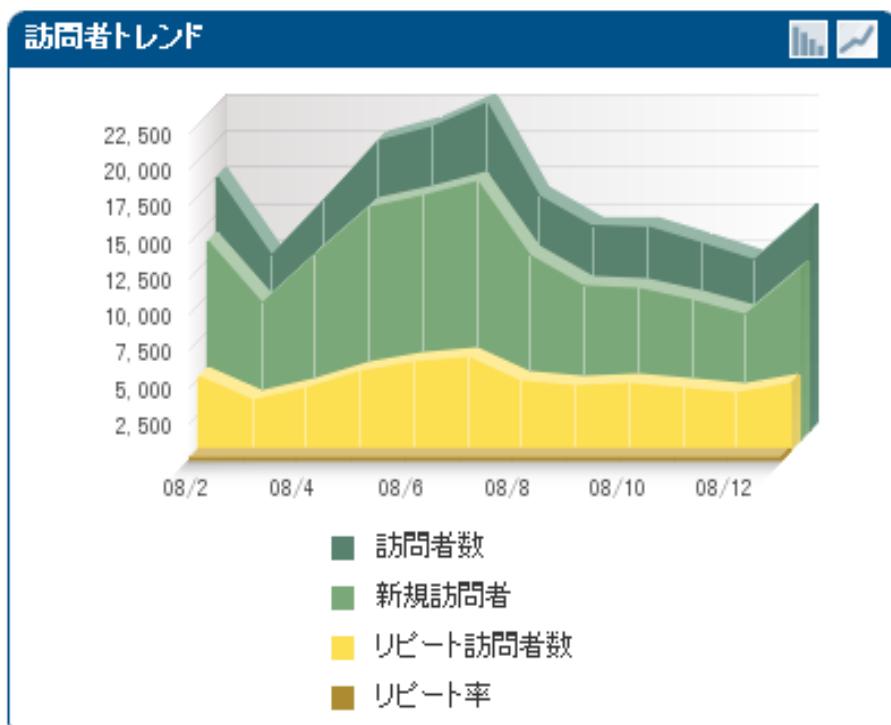


図2 ユニーク訪問者数、新規訪問者数及び
リピート訪問者数の月別推移

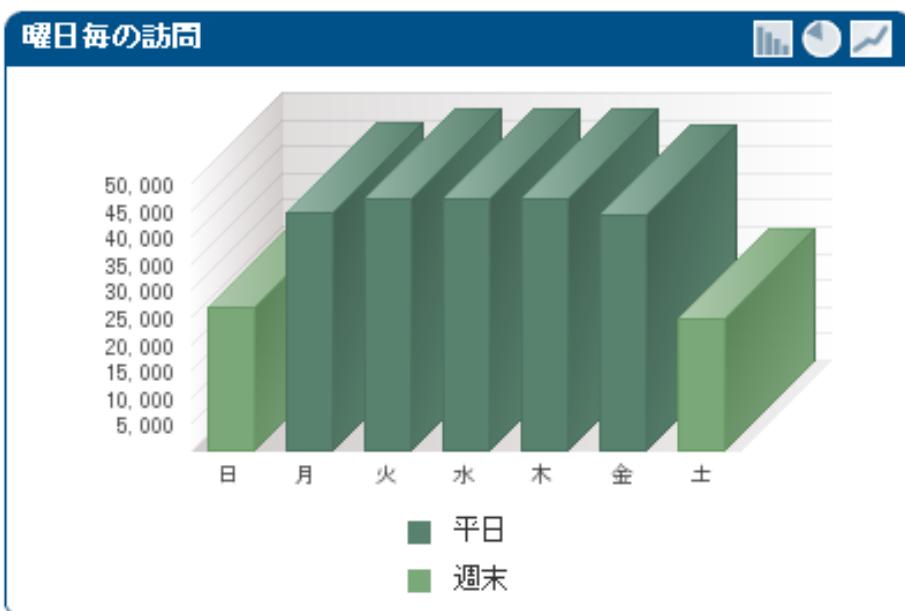


図3 曜日ごとの変動

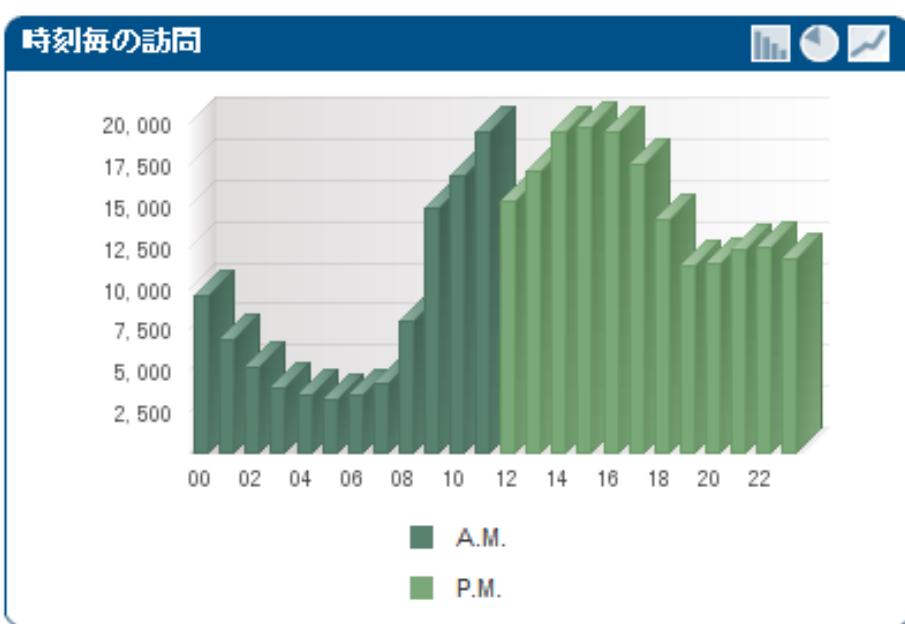


図4 時間ごとの変動

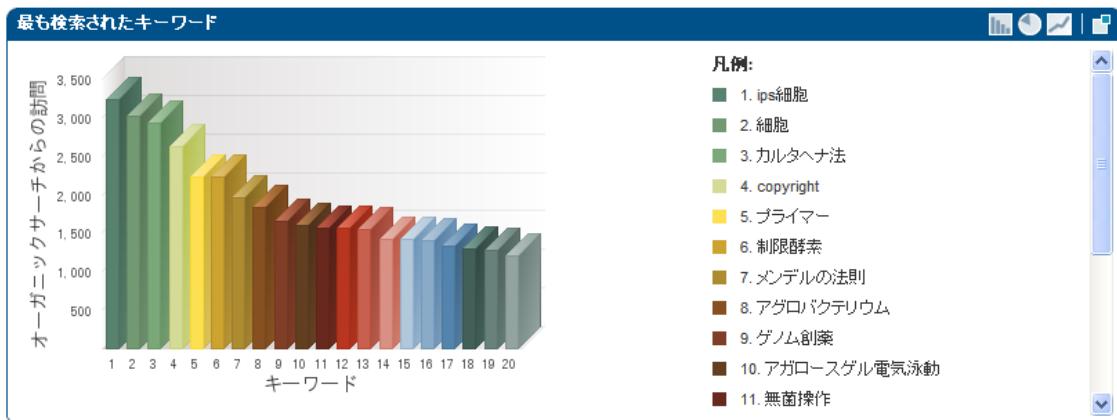


図5 最も多く検索されたキーワード

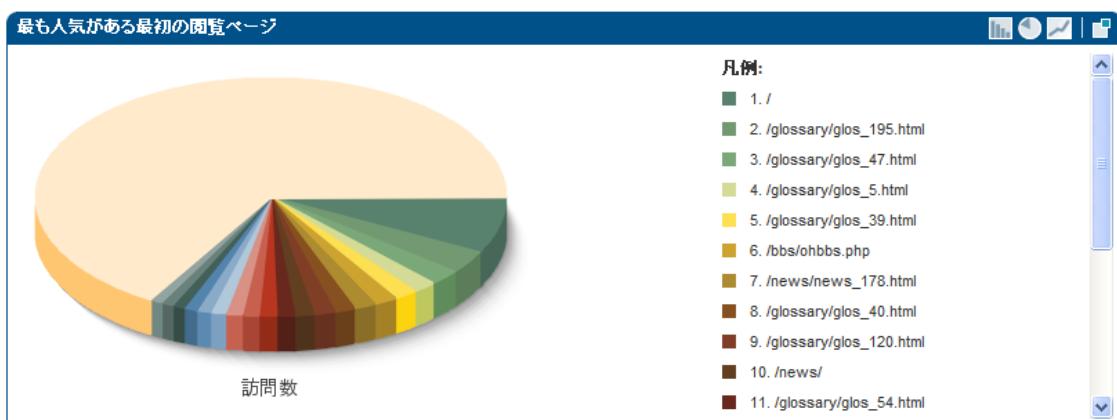


図6 最も人気がある最初のページ(平成20年2月1日～9月30日)

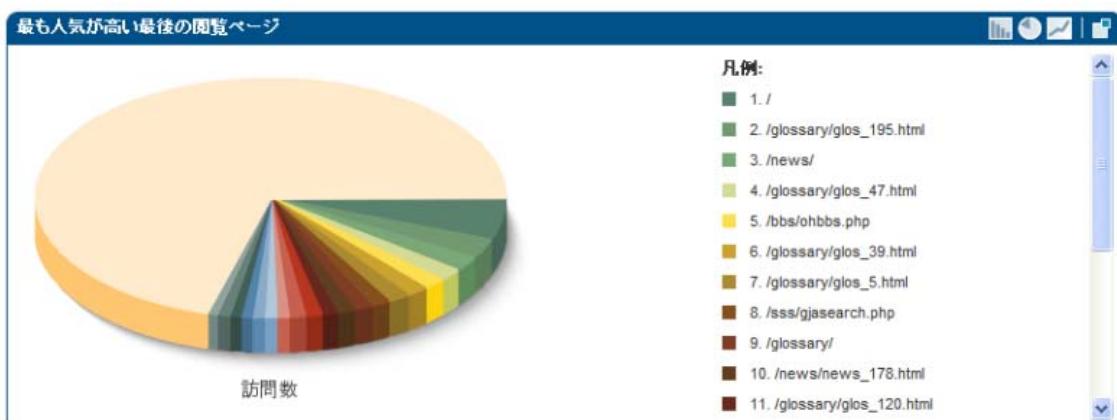


図7 最も人気がある最後のページ(平成20年2月1日～9月30日)

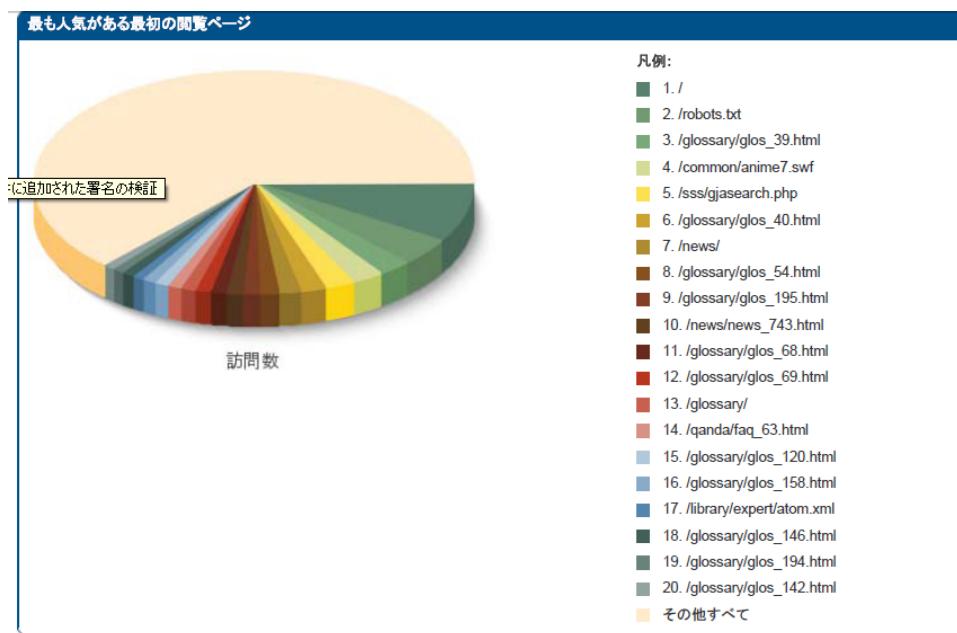


図8 最も人気がある最初のページ
(平成20年10月1日～平成21年1月31日)

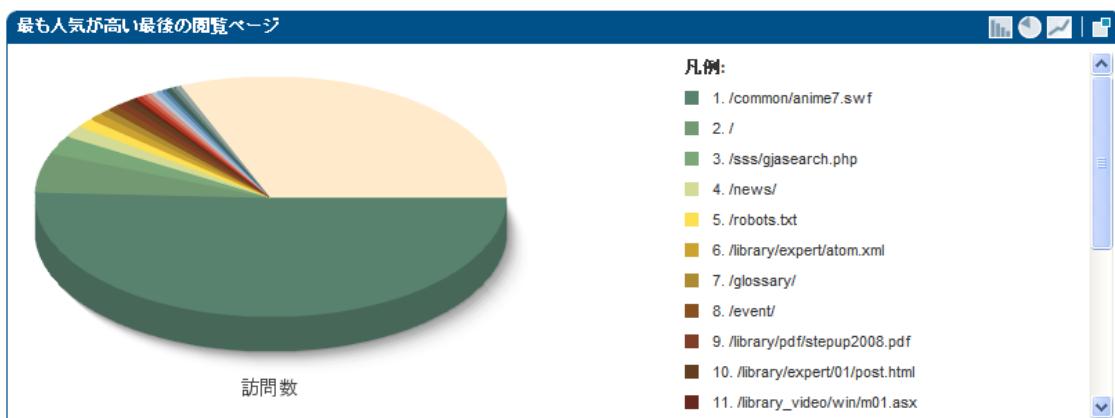


図9 最も人気がある最初のページ
(平成20年10月1日～平成21年1月31日)

V メールマガジン「バイテクハウス Mail News」の発行

メールマガジン「バイテクハウス Mail News」を定期的に発行して、遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関する情報を提供した。

1. 内容と配信

- (1) 月3回程度（原則9日、19日、29日）のペースで、登録者に配信するとともに、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」にも、その内容を掲載した。平成20年3月～平成21年2月までに35件発信した。
- (2) メールマガジンの内容は、読者の興味を引くようなバイテク関係のものも出来るだけ広く含めて、最新情報、講演会情報、バイテクエキスパートを中心に配信した。

2. 配信読者数

- (1) 読者を増やすために、前掲のホームページに閲覧者への登録勧誘を掲載するとともに、資料の電話申込みの際の勧誘を行い、また、PRチラシを各種のコミュニケーション会合、行事・会議・イベント時に、参加者・出席者に配布し勧誘を行った。
- (2) パンフレット類等の配布を希望した高校、大学、団体の担当教諭、担当教官、担当者に対する勧誘と、関係者へのPRチラシ配布依頼を行った。
- (3) 2008年3月で1176名だった配信者数は、2009年3月で1293名（10%増加）となっている。

VI 内外情報の収集・整理と遺伝子組換え技術等に関するパンフレットの改訂

遺伝子組換え技術を中心としたバイオテクノロジーに関する情報を、広く国民に対してわかりやすく提供、説明するために、コミュニケーション推進会議の専門家などの協力も得て、内外情報の収集・整理、パンフレット類の改訂、バイテク小事典の改訂、講義用資料の改訂を行った。

1. 内外情報の収集・整理

内外情報の収集・整理は、STAFF担当者が毎日行っているが、ホームページからホットニュース、講演会情報として遺伝子組換え農作物等に関する最新の情報や各種講演会の開催案内を提供した。また、バイテクExpertコーナーでは、専門委員が、遺伝子組換え農作物等に関して専門雑誌から重要かつタイミングの良い話題を選んで、遺伝子組換え技術・農作物・食品を中心としたバイオテクノロジーに関わる研究・開発及び国際的な動向について紹介した。これらの要約を定期的に行い、これを専門的な方を主な対象として掲載した。平成20年3月～21年2月までに34件掲載した。また、これらをメールニュースでの配信も行った。

2. パンフレット類の改訂

具体的な内容としては、パンフレット類は新しいデータを付け加えると共に、見やすさ、理解しやすさを重点に大きく改訂した。また、農林水産省のロゴを入れて、同省が発行するものであることを明確にした。

（1）基礎編パンフ「知って得する！食べものまめ知識」

改善点：農水省ロゴ、文章の正しい表記、見やすくするために色調整。

（2）初級編パンフ「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you know?」

改善点：農水省ロゴを入れ、統計データの更新をした。Lesson4「遺伝子組換え農作物の可能性」の内容を「遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会」の最終取りまとめに沿って内容に書き換えた。見やすさ、理解しやすさの点から全体を見直し、レイアウト、色調整を大幅に行った。

（3）中級編パンフ「遺伝子組換え農作物を知るために Step up」

改善点：農水省のロゴを入れ、統計データの更新をした。記載の文章内容について、企業色の排除、よりわかりやすくすること・正確さを基準に幾つかの点を書き換えた。

3. バイテク小事典の改訂

改善点：農水省のロゴを入れ、統計データの更新をした。バイテクQ&A集については、昨年度ホームページで改訂した内容と合わせ、掲載項目を大幅に増やし、内容にもかなり手を加えた。バイテク用語集については、基本的に今までの内容を踏襲するが、最近の技術の進歩に合わせて記述を改訂するとともに新用語を取り入れた。これらの結果、総ページ数は約2倍程度の大幅改訂と増補となった。さらに、農林水産省のホームページの内容にも合わせて追加の改訂も行った。



4. 講義用資料の改訂

改善点：今までの資料を大幅改訂し、「遺伝子組換え食品について」として、今年度の連携コミュニケーション等で使用した。使用に当たっては、参加者の特性や、希望に従って、適宜話題の変更・追加を行った。また、小規模コミュニケーションで初心者用の導入資料として「DNAって何だろう？」を作成して説明したところ好評を得たので、これを新たに教材に加え、連携コミュニケーションでも活用した。

VII 新規小中高生用リーフレット案の検討

1. 検討経過

農林水産省では、広く国民に対し遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動を強化し、その推進を図ることとしている。その一環として、次世代を担う若い生徒・学生たちに遺伝子組換え農作物や食品について、正しい知識と理解を深めるための一助となるようなパンフレットを作成・配布することとした。

「知ってトクする食べものまめ知識」の改訂版として、新たな小中高生向けリーフレットの検討を9月に開始した。

試案を作成し、第3回方針検討部会に諮り、また、この方面で実践的に活動している筑波大学、鎌田教授にも意見を頂いた。また、高校、中学の現場の先生方の意見も聴取した。

それらによると、現在の教科書の遺伝子組換えに関する記述には、正確な知識に基づくという点で問題があるものもあるので、その対応を考える必要があり、さらに、それを教える先生方の考え方も正確な知識に基づいたものか疑問があるとのことである。

これらの情報を取り入れてリーフレット作成の考え方をまとめ、リーフレット(案)を作成した。

2. リーフレット作成の考え方

(1) 配布対象

パンフレットの配布対象は小中高校生とし、小学4～6年生向け、中学生向け、高校生向けの3種類を作成する。

(2) 内容(案)

① 小学生用

遺伝、遺伝子を感覚的に教える。遺伝、遺伝子、品種、品種改良等の概念。

「細胞や遺伝子って何だろう」をタイトルとし、以下の点に関し正しい知識と理解を深める。

- ・地球上の動物、植物、微生物が全て生き物であり、また、生き物は今から約38億年前に初めて誕生したこと
- ・生き物の体は細胞から構成されていること、ヒトの細胞の数は約60兆個であること、細胞は顕微鏡を使って簡単に見ることができること
- ・遺伝とは親の形質が子供に伝わること、その役割は遺伝子が担っていること、遺伝子は細胞の中にあり、また、すべての生き物は遺伝子を持っていること、遺伝子を構成する化合物は動物、植物、微生物ですべて共通して

いること

- ・私たちが毎日食べる魚、肉、野菜などの食品には遺伝子が含まれていること、遺伝子を毎日食べても小腸内で分解・消化・吸収されて栄養となること、だから遺伝子を食べても無害なこと
- ・品種改良の簡単な仕組み

② 中学生用

理科：もう少し論理的に。考え方は色々ある。遺伝とは何か？DNAと構造（二重らせん）を見せる、DNAストラップは有効な教材。家庭科、保健：食品としての取り扱いの中で教える。（給食関係者も）社会科：産業としての農業の位置づけで。「遺伝子組換え農作物ってどんなもの」をタイトルとし、以下の点に關し正しい知識と理解を深める。

- ・遺伝子は「生物の設計図」であり、その本体はDNA（デオキシリボ核酸）という化合物であること
- ・DNAは細胞の中にあり、2重らせん構造でA、T、G、Cの4種類の塩基が対をなしていること、
- ・DNAはすべての生物にあり、また、化学構造は動物、植物、微生物で共通していること
- ・食品に含まれるDNAはヒトの小腸で酵素により分解・消化・吸収され栄養分となること、無害であること
- ・遺伝子組換え技術は品種改良の一つの方法であること、DNAの化学構造は生物で共通しているため、あらゆる生物間で遺伝子を組換えることができる
- ・実用化された遺伝子組換え農作物としてどのようなものがあるのか、また、その特徴は何か
- ・遺伝子組換え農作物の栽培状況はどうなのか

③ 高校生用

生物：論理的に出来る。組換えキットを使った実験もある。プロモーターなどの概念も。生態系も範囲に入る所以、安全は高校生から。家庭科、保健：食品としての取り扱いの中で教える。（給食関係者も）社会科：産業としての農業の位置づけで。「遺伝子組換え農作物を考える」をタイトルとし、以下の点に關し正しい知識と理解を深める。

- ・遺伝子は「生物の設計図」であり、その本体はDNA（デオキシリボ核酸）という化合物であること、DNAにはタンパク質の遺伝情報が格納されており、細胞内ではこの遺伝子の情報からタンパク質が作られていること

- ・タンパク質は20種類のアミノ酸で構成されていること
- ・DNAは細胞の中にある、2重らせん構造でA、T、G、Cの4種類の塩基が対をなしていること、
- ・DNAはすべての生物にあり、また、化学構造は動物、植物、微生物で共通していること
- ・細胞の構造を知ること
- ・食品に含まれるDNAはヒトの小腸で酵素により分解・消化・吸収され栄養分となること、無害であること
- ・遺伝子組換えによる品種改良の考え方の理解、つまり、遺伝子組換え技術は品種改良の一つの方法であること、DNAの化学構造は生物で共通しているため、あらゆる生物間で遺伝子を組換えることができる
- ・実用化された遺伝子組換え農作物としてどのようなものがあるのか、また、その特徴は何か
- ・遺伝子組換え農作物の栽培状況(栽培国、栽培面積、栽培品目)の現状を理解し、また、日本では国により安全性が確認された農作物だけが商品化され、市場で流通していること

(3) 補助教材

中学、高校にでは下記の冊子を補助教材とし、正しい知識と理解を深める。

- ・「遺伝子組換え農作物」入門プログラム
- ・「遺伝子組換え農作物」を知るために ステップアップ編
- ・バイテク小事典(バイテクQ&A集・バイテク用語集)

2. 作成したリーフレット（案）

（1）小学生用（初級用）

正しく見る「遺伝子組換え農作物」

「遺伝子」ってなんだろう？

わたしたちは遺伝子を食べている！

あなたは、おすしが好きですか？

回転寿司のお店では、いろいろなお寿しが回っています。マグロ、サーモン、エビ、イカ、アナゴにタマゴ、カッパまき。どれもこれも、おいしそう！

でも、すべてのお寿しに「遺伝子」が入っていることを、あなたは知っていますか？

遺伝子って、なにが特別なものが入っているのかって？

いえいえ、遺伝子はなにも特別なものではありません。遺伝子は、すべての生きものに入っているのです。

農林水産省

正しく見る「遺伝子組換え農作物」

「遺伝子」ってなんだろう？

わたしたちは遺伝子を食べている！

あなたは、おすしが好きですか？

回転寿司のお店では、いろいろなお寿しが回っています。マグロ、サーモン、エビ、イカ、アナゴにタマゴ、カッパまき。どれもこれも、おいしそう！

でも、すべてのお寿しに「遺伝子」が入っていることを、あなたは知っていますか？

遺伝子って、なにが特別なものが入っているのかって？

いえいえ、遺伝子はなにも特別なものではありません。遺伝子は、すべての生きものに入っているのです。

農林水産省

正しく見る「遺伝子組換え農作物」

遺伝子って、なに？

動物も植物も微生物も、すべての生きものの体は「細胞」からできています。

たとえば、ヒトは約60兆個の細胞からできています。この細胞の中に入っているのが「遺伝子」です。

それでは、遺伝子とはいついなんでしょう？

あなたは、ヒマワリを育てたことがありますか？ ヒマワリは夏になれば花がさき、タネができる。そのタネを次の年にまけば、またヒマワリが育ちます。

このように、「親の性質」が子どもに伝わることを「遺伝」といいます。遺伝は「遺伝子」によっておこなわれます。

野菜を食べても、魚にならない！

魚には魚の遺伝子があります。でも、わたしたちが魚を食べても、魚にはなりません。

どうしてでしょうか？

口から入った食べものは、わたしたちの体の中を通りながら形をかえて、栄養分となってとり入れられます。

魚に入っている遺伝子も、すつかり形がかわってしまうので、ヒトが魚になることはないのです。

プロッコリーのごせんぞさまは…

グラクンやサラダでおいしい♪ ロッコリーやカリフラワーも、小さくてかわいい芽キャベツも、じつはみんなごせんぞさまは同じ「野生のキャベツ」です。

ヒトは、野生の植物の中から病気に強いとか、おいしいといった特徴を持つものを選び出し、長い年月をかけて「品種改良」をす。

野生のキャベツからできた野菜

野生のキャベツ

芽キャベツ

花が大きくなる

花が大きくなる

キャベツ

カリフラワー

野生のキャベツからできた野菜

野生のキャベツ

芽キャベツ

花が大きくなる

花が大きくなる

キャベツ

カリフラワー

(2) 中学生用 (中級用)

詳しく見る [\[品種改良と遺伝子組換え作物\]](#)

DNAのつくりは、すべての生き物同じです！

生き物の持つDNAの配列には、体を構成するタンパク質をつくるための設計図のような情報をいくつも含んでいて、この設計図にあたる部分が遺伝子です。

DNAはすべての生き物が持っていて、そのつくりは動物も植物も微生物もみな共通しています。



私たちが毎日食べている魚や肉、野菜などの細胞の中にもDNAがもっていまして、つまりこれらに含まれるDNAを毎日この設計図にあたる部分が遺伝子です。

DNAはすべての生き物が持っていて、DNAもタンパク質と同じように、食べられた後は消化されて栄養分になります。

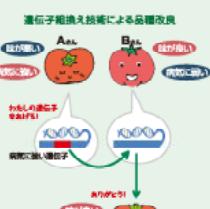
「遺伝子組換え技術」とはどういうもの？

品種改良の一つの方法が「遺伝子組換え技術」です。

昔から行われてきた品種改良も、遺伝子組換え技術を利用した品種改良も「遺伝的変化が起こった」という点では同じです。

しかし、昔から行われた品種改良では、どのような変化が起こるかは、偶然に任せたかあまりせんでした。

これに対し、遺伝子組換え技術による品種改良では、起きのいかつた遺伝子を目的を持って組み込めるので、より正確に、計画的に改良を進めることができます。



現在の食べ物は、品種改良によってつくられてきた！

ヒトは、農作物をつくるようになってから、数え切れないほどの「品種改良」をくり返してきました。

品種改良とは、動物や植物などの中から、ヒトの目的に役に立つ品質のものを選び出すことです。

野生の植物の中から、「収穫量が多い」とか「味が良い」などの特徴を持つものを長い年月をかけて選り出してきました。



「遺伝子組換え農作物」にはどんなものがある？

遺伝子組換え農作物は2008年現在、アメリカやアルゼンチンをはじめ25カ国で、ダイズ、トウモロコシ、ナタネ、ワタなどが栽培されています。

これらの農作物には、「殺草剤を取り除くために多く除草剤の影響を受けない性質」や「農作物をからす害虫に強い性質」が取り入れられています。

除草剤の影響を受けないダイズでは除草剤を多く回数を、害虫に強いトウモロコシでは殺虫剤を多く回数を、減らすことができるようになりました。



(3) 高校生用 (上級用)

まとめ

1 コミュニケーション推進会議の開催

①有識者委員6名、専門委員5名（1名兼務）で構成する「コミュニケーション推進会議」を2回、「方針検討部会」、「活動推進部会」をそれぞれ3回開催し（初回は推進会議と併催）、コミュニケーションの進め方等について助言をいただいた。会議は、非公開で行ったが、「コミュニケーション推進会議」の会議資料や議事概要は、ホームページで公表した。また、「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの進め方に関する提言」（案）を取りまとめた。

②今後は、「提言」をもとにコミュニケーション活動を進めるが、遺伝子組換え農作物に関する認識を深め国内栽培に向けて理解を得るために、「提言」で挙げられた対象者に対して、コミュニケーションの進め方の方針、コミュニケーション手法等について助言、協力を得る等して、運営する必要があると考える。

また、情報提供資料等の時宜に適った的確な改定を常に行い、さらに対象者に合ったものとなるように作成するが、特に専門委員の協力・助言を得て進める必要がある。

2. 大規模コミュニケーションの運営

①農水省からの情報提供とパネルディスカッションを主な内容とする100～200人規模の大規模コミュニケーションを盛岡市と福岡市で開催するとともに、アンケートを実施した。また、会議資料や議事概要をホームページに掲載した。

パネリストとして、具体的に遺伝子組換え問題と直面している畜産農家や、マスメディア関係者に入ってもらった効果で、議論が具体的、実際的になり、参加者が多面的な情報を得られて理解しやすかったことや、北野 大 明治大学教授をコーディネーターとする分かりやすい司会の効果等もあり、アンケートによる参加者の反応も比較的好意的であった。

②今後は、昨年度、今年度と、地域を変えて大規模コミュニケーションを実施することが望ましいが、各年に話題となる可能性が高い地域を組み込んで計画的に行うのが良いと考える。

また、単にコミュニケーションを行うだけでなく、それぞれのコミュニケーションの到達目標を明確にするような、一貫性を持った情報提供とアンケートなどの運営を行う必要があると考える。特に、コミュニケーション前後の参加者の意識の変化が把握できるような、アンケート内容と手法をさらに工夫する必要がある。

また、DNA抽出実験デモや、遺伝子組換えカーネーションの展示も遺伝子組換えに対する実感を高めるのに効果的であり好評であったので、関心や話題性を高める意味で継続する価値があると考える。

3. 小規模コミュニケーションの運営

①農水省からの情報提供、DNA抽出実験とフェイスツーフェイスの意見交換を内容とする、10～50人規模の小規模コミュニケーション会合を、消費者団体、市民団体、栄養・給食関係者（学生を含む）、教育関係者（学生を含む）を対象として、全国で11回開催し、その概要をホームページに掲載した。

DNAが身近なものであることを理解してもらうのが重要と考えられる対象者が多かったので、「生き物・DNAって何だろう？」の簡単な解説付きでDNA抽出実験を行い、これが好評であった。

その後「情報提供」を行った上でコミュニケーションに入った。実験で気分もほぐれ、コミュニケーション手法として「デルファイ法」採用したので、参加者全員からの質問・意見を取ることが出来た。コミュニケーションの場では、特に関心の高かった質問を中心に討議を行った。残りの質問に対しては、後日STAFFから回答として対象者代表に送付した。デルファイ法の実施に際しては、推進会議委員の指導でSTAFF担当者らが研修を行い、円滑なコミュニケーションの実施に配慮できた。

②デルファイ法について参加者の評価は高いものであった。特に、参加者全員が自分が日頃考えている疑問点や意見を表明できたことが満足度を高めたものと考えられる。

また、開催者側から見ると、全員の意見が取れたことにより、一部の発言者ではなく、偏りのない意見の分布を把握できることがメリットであった。質問・意見内容の主なものは、圧倒的に安全性（特に長期）であり、次いで表示に関するものであった。また、知識の高い参加者からは環境への安全性の疑問も出された。今年度の小規模コミュニケーションで、一般市民の疑問・意見の大体の傾向は把握できたものと考えられた。これを次年度以降のコミュニケーションの情報提供内容に反映していくのが良いと考えられる。

但し、本手法は、効果的であるが手間がかかるのが欠点で、あまり数多くの回数を実施するのは困難である。次年度以降は、特定の対象者に絞って、計画的に行うのが適当と考えられる。

③次年度以降は、「提言」で掲げられた対象者を中心に小規模コミュニケーションを実施するのが適当であるが、対象者特性と地域バランスに配慮しつつも、お仕着せではなく理解しようとする意欲の高い希望者を中心に行うのが適当と考える。

4. 連携コミュニケーション会合の実施

①今年度は、5月から1カ月の募集期間中に44件の応募があった。地域、応募者の属性等から20件を選定して7月から平成21年2月にかけて実施した。選に漏れた応募者に対しても、可能な限り資料・情報の提供をするなど協力を行った。

連携コミュニケーションは、出前方式で講演者が、農林水産省の情報提供資料をもとに希望者に合わせた情報提供を行い、またDNA抽出実験、組換え判別実験等の出前実験を必要に応じて行い、その後参加者の質問・意見に答えるかたちでコミュニケーションを行った。参加者の反応から見て、ある程度話題を絞った議論が、また、中学・高校生などの知識の吸収過程にある者を対象とする場合に効果が大きいことが感じられた。

②今年度の対象者（団体）は、消費者・市民団体7件（6～60名）、大学・専門学校2件（10～20名）、高校6件（16～80名）、中学校2件（95～110名）、地域生協1件（26名）、一般市民を対象とした規模の大きいもの2件（100名前後）であった。

消費者・市民団体、生協、大学・専門学校は、小規模コミュニケーションに近い内容とした。高校生、中学生は基礎的なレベルで技術的な内容に重きを置き、将来の夢を持てるような内容で情報提供した。安全性情報等は必要最小限とした。実験は、すべて同じ内容で実施したが、特にDNA抽出実験が好評であった。判別実験は、原理が難しいことに加え、意義が理解しにくく、高レベル者向けと考えられた。

③アンケートは、初回から取ったが、推進会議委員の指導を受けて、5回目からコミュニケーション前後で統一した内容で行った。コミュニケーション前後でアンケートを行うことにより、コミュニケーションの効果を直接検証できるので、採用するのが適当と考えられた。その結果、特に中学・高校生・大学生等の比較的若い世代は、講演等の情報提供と若干のコミュニケーションによりかなりドラスティックに受容的に変化することが分かった。消費者、市民団体は比較的中高年の女性が多く、コミュニケーションによっても、すぐには変化しない傾向が見られたが、考え方が変わったとの感想も少ないながらも有り、粘り強いコミュニケーションの必要性が感じられた。

④中学、高校は、実施に当たって同学年の公平性に配慮しており、特に中学校では大人数の参加の希望が多かった。高校生でも、生物の選択者が多いところでは同じ傾向であった。また、実験も一学級でデモを行って、残りを担当の先生に託す方式も可能で、大人数に対してコミュニケーションを取りやすいことが分かった。教育関係では、教える先生方に情報を提供し、生徒に対して活用してもらうのが良いと考えられる。

5. 遺伝子組換え技術に関する説明資材等の提供

①各方面からの要請に応じて、行政機関、学校（大学・専門学校・高校・中学校）、生協・消費者団体、企業、NPO・公益法人等252カ所に、各種パンフレット、小事典、教材等、総計約4万5千点を配付した。

②配付時に、簡単なアンケートを用意して依頼したが、この回収率は低く、十分な感想・意見を取ることが出来なかつた。今後は、配付先の感想、意見等をより的確に把握する仕組みを検討し、また、配布先との連携を十分に取るようにして、情報提供の質に反映させる工夫が必要である。アンケート等の回収率を向上させる必要がある。

6. ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」の開設・運営

①今年度は、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」の大幅改訂を計画し、20年6月から準備・検討を開始した。新しく作成したホームページ案は、内部等での検証を重ね、さらに、推進会議委員の意見を伺って必要な修正を行った上で、10月1日に従来のものから切り替え、公開した。

（<http://www.biotech-house.jp/>）

②改訂内容の主な点は、トップページの刷新として、ロゴデザイン変更、アニメーションの採用、Java Scriptによるセンターデザインの刷新等で、3クリック以内で目的ページに到達できるように設計した。ホームページの内容については、従来のもの内、利用性が高いものは見やすく、使いやすくし、利用が低いものは整理統合した。トップページに配置した主な内容は、ホットニュース（新着情報、講演会情報）、コミュニケーション活動関係、GM 農作物の安全性、GM 農作物早わかり、GM 農作物の理解を深める（バイテク図書館、メールニュース、リンク集）、関係省庁・機関へのアクセス、その他である。

③ホームページがどのように利用されているかを把握し、これを適切に管理するするために、平成20年1月末に導入し、2月から稼働させていたソフトウェア「Site Tracker」を使い、より正確なアクセスログを把握・解析した。昨年2月から1年間の解析結果は以下の通りであった。

ホームページへの年間訪問者数は、延べ約28万人、コンテンツの閲覧数であるページビュー数は約75万であった。1カ月当たりの平均訪問者数は23,399人、平均ページビュー数は62,605であった。ユニーク訪問者で見ると平均15,973人で、うち、新規訪問者は12,432人、平均リピート率は29.0%であった。

アクセスの傾向を見ると、年間では、春先4月から上昇し7月にピークとなり、8,9月に一旦下がり、1,2月に再度ピークとなる。週間では、月～金曜日に、時間的には就業時間に利用が集中している。これらから、閲覧者の多

くが勤労者、学生等である可能性が高いと推測された。キーワード検索数では、「iPS細胞」、「細胞」、「カルタヘナ法」、「プライマー」「制限酵素」等、「バイテク用語集」から多く検索されており、学校等の授業関係で利活用されていることが示唆された。その次に人気のあるページとしては、バイオテクノロジーの最新情報を整理して載せている「ホットニュース」や、パンフレット資料類が掲載されている「バイテク図書館」であった。

ホームページの大幅改訂の影響は、あまり大きくなかったが、平均リピート率が4%程度向上した。

この一連の解析で、より正確な訪問者数、年間傾向などが把握できた。今後は、アクセス件数がさらに増加するよう、より利用し易く、またバイオテクノロジー、遺伝子組換え技術関係での情報源としてさらに改善し、魅力のあるものにしていくことが課題である。

7. メールマガジン「バイテクハウス Mail News」の発行

①メールマガジン「バイテクハウス Mail News」については、月平均3回程度のペースで、登録者に配信するとともに、ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」にも、その内容を掲載した。また、バイテク関係のものを作り出せるだけ広く含めて、最新情報、講演会情報を中心に配信した。

②また、各種のコミュニケーション会合、行事・会議・イベントの開催時、及びパンフレット類等を希望した高校、大学、団体に対して、メールニュースへの配信登録の勧誘を行った。

その結果、2008年3月で1176名だった配信者数は、2009年3月時点で、1293名と10%増加した。今後は、さらに、内容を充実する等により、一層の読者拡大に努めたい。

8. 内外情報の収集・整理と遺伝子組換え技術等に関するパンフレットの改訂

①各種パンフレット類については、コミュニケーション推進会議の助言を得て、新しいデータを付け加えると共に、見やすさ、理解しやすさを重点に、大きく改訂した。また、農林水産省のロゴを入れて、同省が発行するものであることを明確にした。

②特に、初級編パンフ「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you know?」については、「遺伝子組換え農作物の可能性」の内容を「遺伝子組換え農作物等の研究開発の進め方に関する検討会」の最終取りまとめに沿った内容に書き換えた。また、バイテク小事典については、前回の改訂時点（平成16年3月）以降の新しい状況を踏まえて、バイテクQ&A集の掲載項目を大幅に増やすとともに、内容にもかなり手を加える等の大幅見直しを行った。これらの結果、総

ページ数は約2倍程度の大幅改訂となった。

9. 新規小中高生用リーフレット案の検討

①現在の教科書の遺伝子組換えに関する記述や、それを教える先生方の考え方も、正確な知識に基づくという点で問題があるので、対応を考える必要がある。

そのため、次世代を担う若い児童・生徒・学生たちに遺伝子組換え農作物や食品について、正しい知識と理解を深めるための一助となるようなパンフレットを作成・配布することとし、小中高生向けリーフレットの検討を9月に開始した。

②まず試案を作成し、教育関係者の意見、コミュニケーション推進会議の意見等を伺いながら、それらを取り入れてリーフレット作成の考え方をまとめ、リーフレット（案）を作成した。次年度に完成させて、印刷・配付する予定である。

10. おわりに

今年度の実施結果を踏まえ、今後のコミュニケーションの一層の推進を期待したい。

最後に、今年度のコミュニケーション活動に対して、貴重な助言や協力をいただいたコミュニケーション推進会議の委員、専門委員の皆様方、コミュニケーション活動の実際の場で支援、協力いただいた講師（情報提供者）、コーディネーター、パネリスト、関係者各位、また、STAFFの活動に対して指導、助言をいただいた農林水産省農林水産技術会議事務局の技術安全課、技術政策課技術安全室の担当官、各地域の担当官の各位に、厚くお礼を申し上げます。

参考資料

1. コミュニケーション推進会議

1-1. 第1回コミュニケーション推進会議

- 1-1-1 議事次第
- 1-1-2 配布資料1：コミュニケーション推進会議開催要領
- 1-1-3 配布資料2：平成19年度におけるコミュニケーション活動の成果と課題
- 1-1-4 配布資料3：「方針検討部会」及び「活動推進部会」における主な検討事項
(案)
- 1-1-5 配布資料4：平成20年度のコミュニケーション活動の進め方について
- 1-1-6 配布資料5：19年度バイテクコミュニケーション活動推進事業実施報告書
- 1-1-7 配布資料6：19年度バイテクコミュニケーション基盤事業実施報告書
- 1-1-8 配布資料7：19年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査集計結果
(調査モニター)
- 1-1-9 配布資料8：19年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査集計結果
(イベント参加者)
- 1-1-10 配布資料9：遺伝子組換え農作物等に関する意識調査結果の簡易解析の概要
- 1-1-11 参考資料1：遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究
- 1-1-12 参考資料2：パンフレット「知ってトクする！食べものまめ知識」(省略)
- 1-1-13 参考資料3：パンフレット「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you Know?」(省略)
- 1-1-14 参考資料4：パンフレット「遺伝子組換え農作物を知るために Step up 編」(省略)
- 1-1-15 参考資料5：バイテク小事典 (省略)
- 1-1-16 参考資料6：「連携コミュニケーション」講演用資料 (案) (省略)
- 1-1-17 議事概要
- 1-1-18 会議録

1-2. 第2回方針検討部会

- 1-2-1 議事次第
- 1-2-2 配布資料1：第1回コミュニケーション推進会議議事概要 (省略)
- 1-2-3 配布資料2：コミュニケーション活動の強化推進に向け重点目標 (案)
- 1-2-4 配布資料3：遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動の今後の進め方 (案)
- 1-2-5 配布資料4：遺伝子組換え農作物等に関する意識調査の今後の進め方
(案)
- 1-2-6 配布資料5：平成20年度コミュニケーション活動実施スケジュール
- 1-2-7 参考資料1：都道府県における遺伝子組換え作物に関するガイドライン
等の策定の動きについて
- 1-2-8 参考資料2：地域生協一覧 (省略?)
- 1-2-9 参考資料3：主要消費者団体一覧 (省略?)
- 1-2-10 参考資料4：新聞社・テレビ局一覧 (省略?)

- 1-2-1-1 参考資料5：スーパー・サイエンス・ハイスクール一覧（省略？）
- 1-2-1-2 参考資料6：主要加工業者・流通業者一覧（省略？）
- 1-2-1-3 参考資料7：主要生産者団体一覧（省略？）
- 1-2-1-4 議事概要

1-3. 第2回活動推進会議

- 1-3-1 議事次第
- 1-3-2 配布資料1：第2回方針検討部会議事概要（省略）
- 1-3-3 配布資料2：コミュニケーション活動における重点目標
- 1-3-4 配布資料3：遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動の今後の進め方
- 1-3-5 配布資料4：遺伝子組換え農作物等に関する意識調査の今後の進め方
- 1-3-6 配布資料5：平成20年度コミュニケーション活動実施スケジュール
- 1-3-7 配布資料6：大規模コミュニケーションの進め方について
- 1-3-8 配布資料7：小規模コミュニケーションの進め方について
- 1-3-9 配布資料8：連携コミュニケーションの進め方について
- 1-3-10 配布資料9：農林水産省からの情報提供資料
- 1-3-11 配布資料10：出前講座における情報提供資料（連携コミュニケーション用）
- 1-3-12 配布資料11：HPアクセスログ解析の結果（4月～6月）
- 1-3-13 配布資料12：バイテクコミュニケーションハウスホームページ改定案
- 1-3-14 配布資料13：平成19年度パンフレット等情報提供資料の配布先一覧（省略？）
- 1-3-15 配布資料14：平成20年度パンフレット等情報提供資料の配布先一覧（案）（省略？）
- 1-3-16 配布資料15：パンフレット等提供先を対象としたアンケート調査（案）
- 1-3-17 配布資料16：コミュニケーション参加者を対象としたアンケート調査（案）
- 1-3-18 配布資料17：平成19年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査報告書
- 1-3-19 配布資料18：平成20年度遺伝子組換え農作物等に関する意識調査について
- 1-3-20 配布資料19：有意選出法について
- 1-3-21 配布資料20：調査ステップに関する試案
- 1-3-22 配布資料21：調査項目（案）
- 1-3-23 配布資料22：実施スケジュール（調査ステップA案）
- 1-3-24 参考資料1：パンフレット「知ってトクする！ 食べものまめ知識」（省略）
- 1-3-25 参考資料2：パンフレット「遺伝子組換え農作物入門プログラム Do you Know?」（省略）

1-3-26 参考資料3：パンフレット「遺伝子組換え農作物を知るために Step up 編」（省略）

1-3-27 参考資料4：バイテク小事典（省略）

1-3-28 議事概要

1-4. 第3回方針検討部会

1-4-1 議事次第

1-4-2 配布資料1：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの進捗について

1-4-3 配布資料2：平成20年度遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション実施スケジュール（10月23日現在）

1-4-4 配布資料3：平成20年度コミュニケーション活動における手法等の変更点（予定）

1-4-5 配布資料4：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションアンケート結果について（大規模、小規模、連携）

1-4-6 配布資料5：ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」について

1-4-7 配布資料6：中高生向けパンフレットについて

1-4-8 配布資料7：方針検討部会における今後の検討課題について

1-4-9 参考資料1：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション開催概要（9月8日、盛岡会場）（省略）

1-4-10 参考資料2：第2回方針検討部会議事概要（省略）

1-4-11 参考資料3：第2回活動推進部会議事概要（省略）

1-4-12 参考資料4：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション配付予定資料（11月4日、福岡会場）（省略）

1-4-13 参考資料5：教科書における遺伝子組換えに関する記載事例

1-4-14 参考資料6：遺伝子組換えに関する既存のパンフレット（省略？）

1-4-15 議事概要

1-5. 第3回活動推進部会

1-5-1 議事次第

1-5-2 配布資料1：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションの実施結果について

1-5-3 配布資料2：平成20年度コミュニケーション活動における手法等の変更点

1-5-4 配布資料3：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーションアンケート結果について

1-5-5 配布資料4：ホームページ「バイテクコミュニケーションハウス」について（？）

1-5-6 配布資料5：小中高生向けリーフレットについて（？）

1-5-7 配布資料6：平成20年度GMコミュニケーションの点検について
1-5-8 参考資料1：遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション開催概要（省略）
1-1 盛岡会場
1-2 福岡会場
1-5-9 参考資料2：第2回活動推進部会議事概要（省略）
1-5-10 参考資料3：第3回方針検討部会議事概要（省略）
1-5-11 参考資料4：教科書における遺伝子組換えに関する記載事例
1-5-12 参考資料5：遺伝子組換えに関する既存のパンフレット（？）
1-5-13 議事概要

1-6. 第2回コミュニケーション推進会議の開催

1-6-1 議事次第
1-6-2 配布資料1：部会報告（方針検討部会、活動推進部会）
1-6-3 配布資料2：遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーション活動結果の概要
1-6-4 配布資料3：遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションのアンケート結果の概要
1-6-5 配布資料4：遺伝子組換え農作物に関する意識調査について
1-6-6 配布資料5：第1回目調査結果（概数値）の概要
1-6-7 配布資料6：「遺伝子組換え農作物等に関するコミュニケーションの進め方に対する提言」取りまとめ（案）
1-6-8 参考資料1：第1回コミュニケーション推進会議概要（省略）
1-6-9 参考資料2-1：コミュニケーション活動アンケート結果まとめ
1-6-10 参考資料2-2：大小コミュニケーションのアンケート集計結果
1-6-11 参考資料2-3：各小規模コミでの質問一覧
1-6-12 参考資料2-4-1：1～20回までの総合的に見たアンケート結果
1-6-13 参考資料2-4-2：1～20回H20連携コミュニケーションアンケート結果
1-6-14 参考資料2-5：配布資料のアンケート結果
1-6-15 参考資料3：遺伝子組換え農作物に関する意識調査[第1回目調査票]
1-6-16 参考資料4-1：遺伝子組換え農作物取扱者意識調査[第2回目調査票]
①食品製造業
1-6-17 参考資料4-2：遺伝子組換え農作物取扱者意識調査[第2回目調査票]
②飼料製造業
1-6-18 参考資料4-3：遺伝子組換え農作物取扱者意識調査[第2回目調査票]
③食品小売業
1-6-19 参考資料4-4：遺伝子組換え農作物取扱者意識調査[第2回目調査票]
④飲食店・宿泊業
1-6-20 議事概要
1-6-21 会議録

2. 大規模コミュニケーション

2-1. 第1回大規模コミュニケーション（盛岡市）

- 2-1-1 プレスリリース
- 2-1-2 チラシ
- 2-1-3 次第
- 2-1-4 資料
- 2-1-5 概要
- 2-1-6 会議録
- 2-1-7 アンケート結果
- 2-1-8 写真
- 2-1-9 新聞記事（岩手日報）

2-2. 第2回大規模コミュニケーション（福岡市）

- 2-2-1 プレスリリース
- 2-2-2 チラシ
- 2-2-3 次第
- 2-2-4 資料
- 2-2-5 概要
- 2-2-6 会議録
- 2-2-7 アンケート結果
- 2-2-8 写真
- 2-2-9 (1) 新聞記事等（鶴鳴新聞）
- 2-2-9 (2) 新聞記事等（アクロス福岡）

3. 小規模コミュニケーション

3-1. 第1回小規模コミュニケーション：（葉山町）

- 3-1-1 開催要領
- 3-1-2 議事次第（葉山町教育委員会）
- 3-1-3 DNA抽出実験前情報提供資料「生き物って何だろう？」
- 3-1-4 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-1-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答
- 3-1-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-1-7 写真

3-2. 第2回小規模コミュニケーション：(佐賀市)

- 3-2-1 開催要領
- 3-2-2 議事次第 (佐賀県消費者センター)
- 3-2-3 DNA抽出実験の情報提供資料「遺伝子組換えって・・・」
- 3-2-4 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-2-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答 (2種類)
- 3-2-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-2-7 配布資料に対する感想・意見など
- 3-2-8 写真

3-3. 第3回小規模コミュニケーション：(横須賀市)

- 3-3-1 開催要領
- 3-3-2 議事次第 (横須賀市消費生活研究所)
- 3-3-3 DNA抽出実験の情報提供資料「生き物、遺伝子、DNAって何だろう？」
- 3-3-4 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-3-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答
- 3-3-6 配布資料に対する感想・意見など
- 3-3-7 写真

3-4. 第4回小規模コミュニケーション：(栗原市)

- 3-4-1 開催要領
- 3-4-2 議事次第 (栗原市消費者の会 若柳支部)
- 3-4-3 DNA抽出実験の情報提供資料「生き物、遺伝子、DNAって何だろう？」 3-4-4 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-4-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答 (2種類)
- 3-4-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-4-7 配布資料に対する感想・意見など
- 3-4-8 写真
- 3-4-9 新聞記事
- 3-4-10 新聞記事

3-5. 第5回小規模コミュニケーション：(横浜市)

- 3-5-1 開催要領
- 3-5-2 議事次第 (生活共同組合コープ・かながわ)

- 3-5-3 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-5-4 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-5-5 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-5-6 配布資料に対する感想・意見など
- 3-5-7 写真

3-6. 第6回小規模コミュニケーション：(桑名市)

- 3-6-1 開催要領
- 3-6-2 議事次第（桑員地域食の安全・安心地域リーダー会議）
- 3-6-3 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-6-4 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-6-5 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-6-6 配布資料に対する感想・意見など
- 3-6-7 写真

3-7. 第7回小規模コミュニケーション：(横浜市)

- 3-7-1 開催要領
- 3-7-2 議事次第（神奈川県栄養士会教育研究協議会）
- 3-7-3 DNA抽出実験資料
- 3-7-4 行政からの情報提供資料
「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」
- 3-7-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-7-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-7-7 配布資料に対する感想・意見など
- 3-7-8 写真

3-8. 第8回小規模コミュニケーション：(尾花沢市)

- 3-8-1 開催要領
- 3-8-2 議事次第（尾花沢市食生活改善推進協議会）
- 3-8-3 DNA抽出実験資料
- 3-8-4 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-8-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-8-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-8-7 配布資料に対する感想・意見など

3-8-8 写真

3-9. 第9回小規模コミュニケーション：(名古屋市)

- 3-9-1 開催要領
- 3-9-2 議事次第（環境カウンセラー）
- 3-9-3 DNA抽出実験資料
- 3-9-4 情報提供資料
 - 「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」
- 3-9-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-9-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-9-7 配布資料に対する感想・意見など
- 3-9-8 写真

3-10. 第10回小規模コミュニケーション：(大分市)

- 3-10-1 開催要領
- 3-10-2 議事次第（大分県消費者問題研究会）
- 3-10-3 DNA抽出実験資料
- 3-10-4 行政からの情報提供資料
 - 「遺伝子組換え農作物に関するコミュニケーション」
- 3-10-5 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-10-6 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-10-7 配布資料に対する感想・意見など
- 3-10-8 写真

3-11. 第11回小規模コミュニケーション：(柏市)

- 3-11-1 開催要領
- 3-11-2 議事次第（柏生活クラブ）
- 3-11-3 情報提供資料「遺伝子組換え農作物の研究開発の方向性と安全性評価の仕組み」
- 3-11-4 コミュニケーション活動と質問に対する回答（2種類）
- 3-11-5 コミュニケーションに対する感想・意見など
- 3-11-6 配布資料に対する感想・意見など
- 3-11-7 写真

4. 連携コミュニケーションの実施

4-1. 開催準備

- 4-1-1 プレスリリース
- 4-1-2 チラシ・申込書
- 4-1-3 ホームページ
- 4-1-4 新聞記事等

4-2. 千葉農政事務所

- 4-2-1 実施要領
- 4-2-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-2-3 実習内容：「組換え大豆、市販ダイズ加工食品を用いた判別実験」
- 4-2-4 アンケート用紙（1種類）
- 4-2-5 アンケート結果（1種類）
- 4-2-6 写真

4-3. 神戸動植物環境専門学校

- 4-3-1 実施要領
- 4-3-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-3-3 実習内容：「組換え大豆、市販ダイズ加工食品を用いた判別実験」
- 4-3-4 アンケート用紙（1種類）
- 4-3-5 アンケート結果（1種類）
- 4-3-6 写真

4-4. 広島大学大学院教育学研究科

- 4-4-1 実施要領
- 4-4-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-4-3 実習内容：「プロッコリーからのDNA抽出実験」
- 4-4-4 実習内容：「組換え大豆、市販ダイズ加工食品を用いた判別実験」
- 4-4-5 アンケート用紙（1種類）
- 4-4-6 アンケート結果（1種類）
- 4-4-7 写真

4-5. 熊本県立鹿本農業高等学校

- 4-5-1 実施要領
- 4-5-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-5-3 実習内容：「プロッコリーからの遺伝子抽出実験」、

- 4-5-4 実習内容：「組換え大豆、コーンを用いた判別実験」
- 4-5-5 アンケート用紙
- 4-5-6 アンケート結果
- 4-5-7 写真

4-6. 兵庫県淡路生活科学センター

- 4-6-1 実施要領
- 4-6-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-6-3 実習内容：「組換え大豆、コーンを用いた判別実験」
- 4-6-4 チラシ
- 4-6-5 アンケート用紙（2種類）
- 4-6-6 アンケート結果（2種類）
- 4-6-7 写真

4-7. 高山市民文化会館

- 4-7-1 実施要領
- 4-7-2 講義内容：「遺伝子組換え食品について」
- 4-7-3 実習内容：「ブロッコリーからの遺伝子抽出実験」
- 4-7-4 アンケート用紙（1種類）
- 4-7-5 アンケート結果（1種類）
- 4-7-6 新聞記事
- 4-7-7 写真

4-8. コープかながわ

- 4-8-1 実施要領
- 4-8-2 講義資料：「遺伝子組換え食品の安全・安心」
- 4-8-3 アンケート用紙（2種類）
- 4-8-4 アンケート結果（2種類）
- 4-8-5 写真

4-9. 東海大学付属望洋高等学校

- 4-9-1 実施要領
- 4-9-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-9-3 実習内容：「組換え大豆を用いた判別実験」
- 4-9-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-9-5 アンケート結果（2種類）

4-9-6 写真

4-10. 熊本市消費生活センター

- 4-10-1 実施要領
- 4-10-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-10-3 実習内容：「組換え大豆を用いた判別実験」
- 4-10-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-10-5 アンケート結果（2種類）
- 4-10-6 写真

4-11. 長野県松本消費生活センター

- 4-11-1 実施要領
- 4-11-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-11-3 実習内容：「組換え大豆を用いた判別実験」
- 4-11-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-11-5 アンケート結果（2種類）
- 4-11-6 写真

4-12. 野田市立第二中学校

- 4-12-1 実施要領
- 4-12-2 講義資料：「DNAと遺伝子組換え食品」
- 4-12-3 アンケート用紙（2種類）
- 4-12-4 アンケート結果（2種類）
- 4-12-5 写真

4-13. 宮城県第二女子高等学校

- 4-13-1 実施要領
- 4-13-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-13-3 実習内容：「組換え大豆を用いた判別実験」
- 4-13-4 アンケート用紙（3種類）
- 4-13-5 アンケート結果（3種類）
- 4-13-6 写真

4-14. 千葉県立長生高等学校

- 4-14-1 実施要領

- 4-14-2 講義内容：「遺伝子組換え食品に关心を持つう」
- 4-14-3 実習内容：「市販ダイズと遺伝子組換えダイズを用いた判別実験」
- 4-14-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-14-5 アンケート結果（2種類）
- 4-14-6 写真

4-15. 千葉県立薬園台高等学校

- 4-15-1 実施要領
- 4-15-2 講義内容：「遺伝子組換え食品に关心を持つう」
- 4-15-3 実習内容：「ブロッコリーからのDNA抽出実験」
- 4-15-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-15-5 アンケート結果（2種類）
- 4-15-6 写真

4-16. 小田原食生活研究会

- 4-16-1 実施要領
- 4-16-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-16-3 実習内容：「DNA抽出実験」
- 4-16-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-16-5 アンケート結果（2種類）
- 4-16-6 写真

4-17. (独) 農林水産消費安全技術センター横浜事務所

- 4-17-1 実施要領
- 4-17-2 基調講演：「遺伝子組換え食品について」（仮題）
- 4-17-3 アンケート用紙
- 4-17-4 アンケート結果
- 4-17-5 新聞記事
- 4-17-6 写真

4-18. 柏市立風早中学校

- 4-18-1 実施要領
- 4-18-2 講義資料：「遺伝子組換え食品について」
- 4-18-3 実習内容：「ブロッコリーからのDNA抽出実験」
- 4-18-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-18-5 アンケート結果（2種類）

4-18-6 写真

4-19. 熊本県立南陵高等学校

- 4-19-1 実施要領
- 4-19-2 講義資料「遺伝子組換え食品について」
- 4-19-3 実験内容：「ブロッコリーからのDNA抽出実験」
- 4-19-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-19-5 アンケート結果（2種類）
- 4-19-6 写真

4-20. 食の安心・安全行動提起・実行グループ UZUMAKI

- 4-20-1 実施要領
- 4-20-2 講義内容：「遺伝子組換え食品について」
- 4-20-3 実習内容：「ブロッコリーからのDNA抽出実験」
- 4-20-4 アンケート用紙（2種類）
- 4-20-5 アンケート結果（2種類）
- 4-20-6 写真

4-21. 土浦保健所

- 4-21-1 実施要領
- 4-21-2 基調講演：「遺伝子組換え食品を取り巻く環境について」（仮題）
- 4-21-3 アンケート用紙（1種類）
- 4-21-4 アンケート結果（1種類）
- 4-21-5 阿見開催案内
- 4-21-6 写真